

# 北竜町地域公共交通計画（改定）

北 竜 町

令和6年1月改訂



# 目次

<b>第1章 計画策定の目的と構成</b> .....	1
1-1. 計画策定の目的.....	1
1-2. 計画の構成.....	2
<b>第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要</b> .....	3
2-1. 地域及び公共交通の概要.....	3
(1) 気象.....	3
(2) 人口.....	4
(3) 産業.....	8
(4) 主要な道路網.....	9
(5) 公共・公益施設.....	10
(6) 公共交通等の状況.....	11
2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ.....	20
(1) 北竜町総合計画.....	20
(2) 北竜町まち・ひと・しごと創生総合戦略.....	22
<b>第3章 地域公共交通実態調査</b> .....	23
3-1. 住民アンケート調査の概要.....	23
(1) 目的.....	23
(2) 調査の概要.....	23
(3) 配付・回収方法.....	24
(4) 配付・回収のスケジュール.....	24
(5) 配付・回収数.....	24
(6) 調査結果の概要.....	25
(7) 一般アンケート調査.....	28
(8) 中学生・高校生アンケート調査.....	67
3-2. バス乗降調査.....	77
(1) (深川) 北竜線.....	77
<b>第4章 地域公共交通の課題整理</b> .....	79
4-1. 主要な課題の整理.....	79
(1) 路線バスの代替公共交通の確保.....	79
(2) スクールバス輸送の効率化.....	79
(3) 乗合タクシーの収益性改善が必要.....	79
(4) 滝川市・深川市への直接アクセス.....	79
(5) 公共交通サービスを持続的に確保することが必要.....	80
4-2. 計画策定の方向性.....	81
(1) 路線バスの代替公共交通の確保.....	81

(2) スクールバス路線の統合.....	81
(3) 乗合タクシーの収益性改善.....	81
(4) 滝川市・深川市との直接アクセスの検討.....	81
<b>第5章 地域公共交通計画の策定 .....</b>	<b>82</b>
5-1. 計画の基本的な方針.....	82
(1) 目指すべき将来像・基本方針.....	82
(2) 計画の区域.....	83
(3) 計画の期間.....	83
(4) 公共交通の機能分担と性格・役割.....	84
5-2. 計画の目標.....	85
(1) 基本目標.....	85
(2) 評価指標・目標値.....	86
5-3. 計画に位置づける取組み及び実施主体.....	88
(1) 持続可能な地域公共交通等を確保・維持する.....	89
(2) 自家用車から公共交通への転換を促進する.....	102
(3) 地域公共交通への愛着を創出する.....	103
5-4. 計画の進行管理.....	105
(1) 取組みの期間.....	105
(2) 計画の達成状況の評価.....	106

# 第1章 計画策定の目的と構成

## 1-1. 計画策定の目的

北竜町は北海道空知総合振興局管内の北部に位置し、人口1,663人（令和5年4月1日現在）、総面積158.70km<sup>2</sup>で、西部は暑寒別岳を主峰とする増毛山脈がそびえ、東部は農耕に適した平坦地が広がっています。町内の交通状況は国道275号が南北に、国道233号と主要道道増毛稲田線が東西に貫き、地域中心都市である滝川市と深川市にはそれぞれ国道275号と国道233号によりアクセスしています。

本町の人口推移と高齢化の状況は、国勢調査ベースで人口推移が10年間で21%、20年間では33%減少、高齢化率は10年間で6ポイント、20年間で16ポイント増加し、令和2年では45%と人口減少及び高齢化が進行する地域です。

公共交通は北海道中央バス(株)の高速るもい号、空知中央バス(株)の(深川)北竜線、沿岸バス(株)・道北バス(株)の留萌旭川線、平成26年度から地域内フィーダー系統として本格運行している乗合タクシーが3区域、北竜追分線とスクールバス3路線による市町村運営有償運送及び北竜町福祉有償運送により輸送を行っています。しかし(深川)北竜線については人口減少の影響を大きく受け、(深川)北竜線が令和6年4月に廃止となるため、深川市にアクセスする効率的な公共交通手段の確保が急務であります。

このため高齢化が特に著しい地域や既存の公共交通の輸送状況や、まちづくりに関する上位計画及び関連計画等を把握して本町の公共交通の課題を整理するとともに、公共交通課題への対応と広域的な公共交通ネットワークとの接続に配慮することにより、他市町村との連携による交通圏全体を見据えた北竜町地域公共交通計画を策定します。

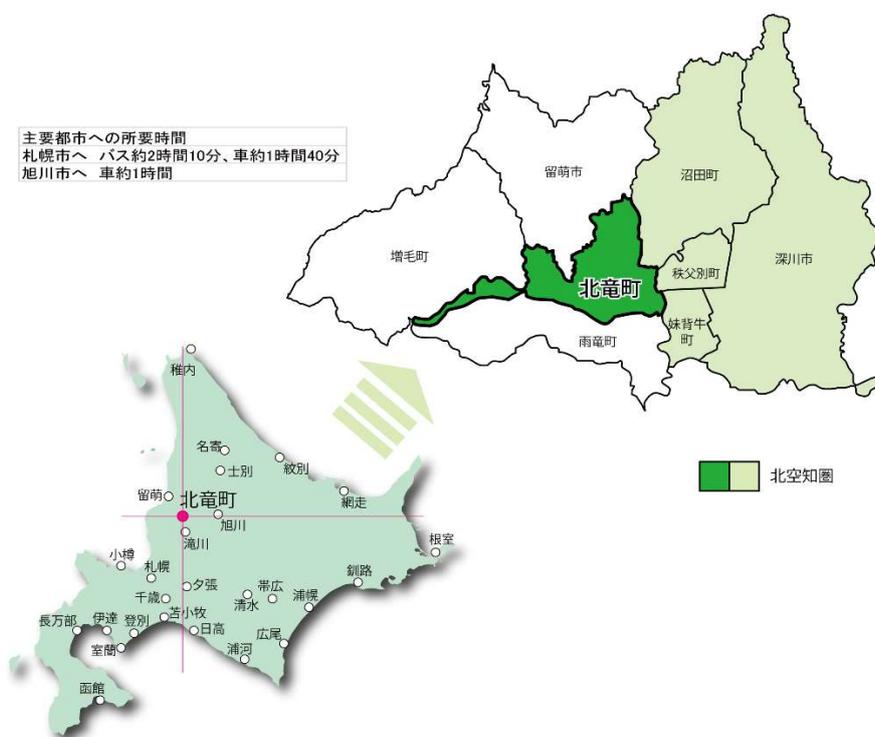


図 位置図

## 1-2. 計画の構成

本計画の構成は、以下のとおりです。

### 第1章 計画策定の目的と構成

- 1-1. 計画策定の目的
- 1-2. 計画の構成



### 第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要

- 2-1. 地域及び公共交通の概要
- 2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ



### 第3章 地域公共交通実態調査

- 3-1. アンケート調査
- 3-2. バス乗降調査※
- 3-3. 関係町ヒアリング



### 第4章 地域公共交通の課題整理

- 4-1. 課題の整理
- 4-2. 計画策定の方向性



### 第5章 地域公共交通計画の策定

- 5-1. 基本方針と計画区域
- 5-2. 計画に位置づける取組み及び実施主体
- 5-3. 計画の進行管理

※空知中央バス(株)による乗降調査結果を使用

## 第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要

### 2-1. 地域及び公共交通の概要

#### (1) 気象

気候は内陸性気候であり、冬季は南西風が多く寒冷で、積雪が1.9mにもなりますが、夏季は比較的温暖な地域となっています。

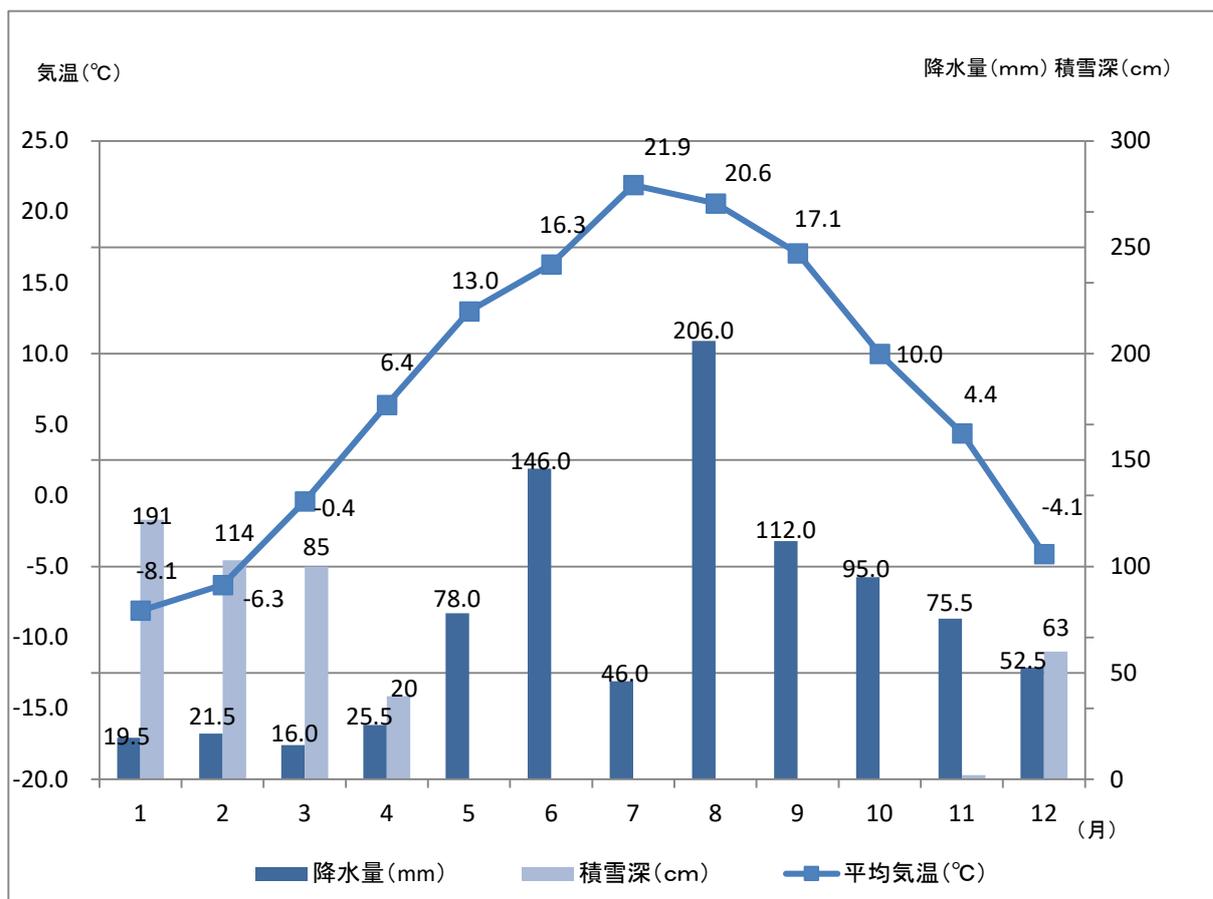


図 気象

資料：気象庁気象観測統計 2022年（深川市）

## (2) 人口

### ①人口・世帯数の推移

人口は令和2年が1,724人となっており、昭和60年の3,266人と比較すると35年間で47.2%が減少しています。また世帯数は令和2年が737世帯となっており、昭和60年の873世帯と比較すると35年間で16%が減少しています。

世代別比率は65歳以上の高齢者比率が令和2年で45.0%となっており、昭和60年の15.9%と比較すると35年間で29.1ポイントが増加しています。一方15歳未満の若年者比率は令和2年が9.4%となっており、昭和60年の19.4%と比較すると35年間で10.0ポイントが減少しています。

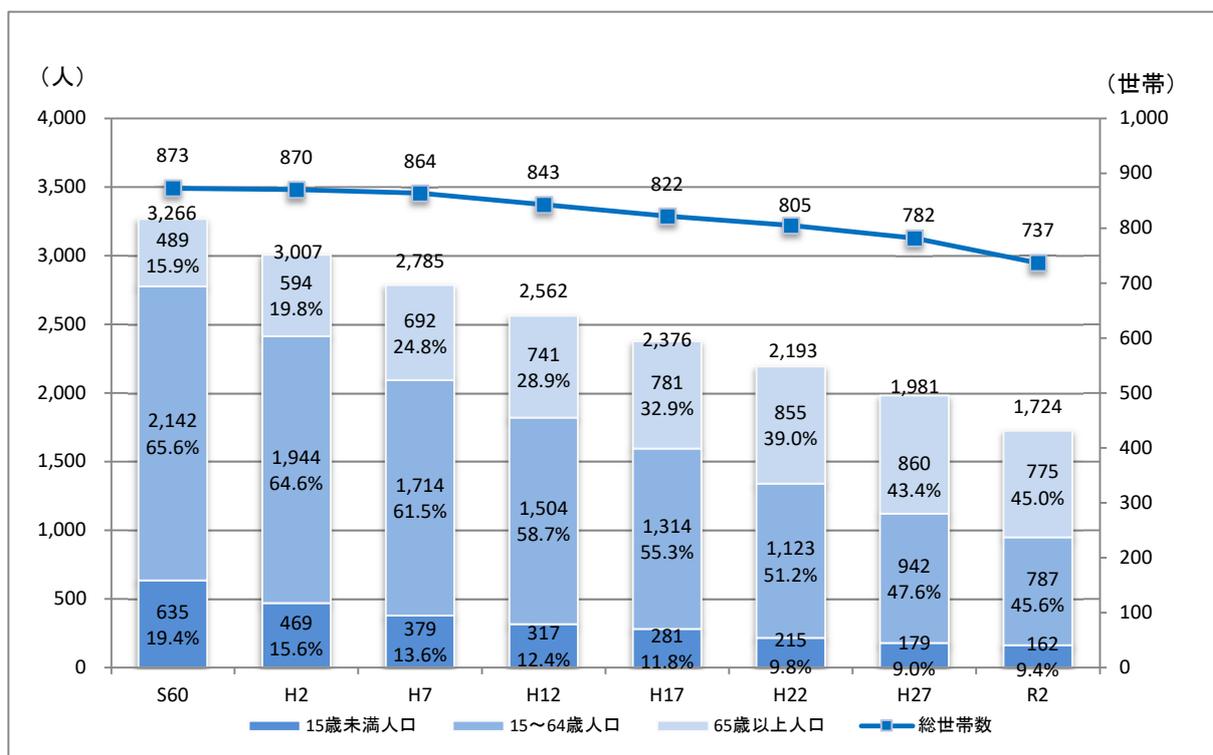


図 世代別人口・世帯数の推移

資料：国勢調査

## ②行政区別高齢者比率

行政区別の高齢者比率は「碧水」「岩村」がランク 6 (50%～) と最も高く、続いて「美葉牛」「西川」「三谷」「恵岱別」及び「和」がランク 5 (40～50%) となっています。

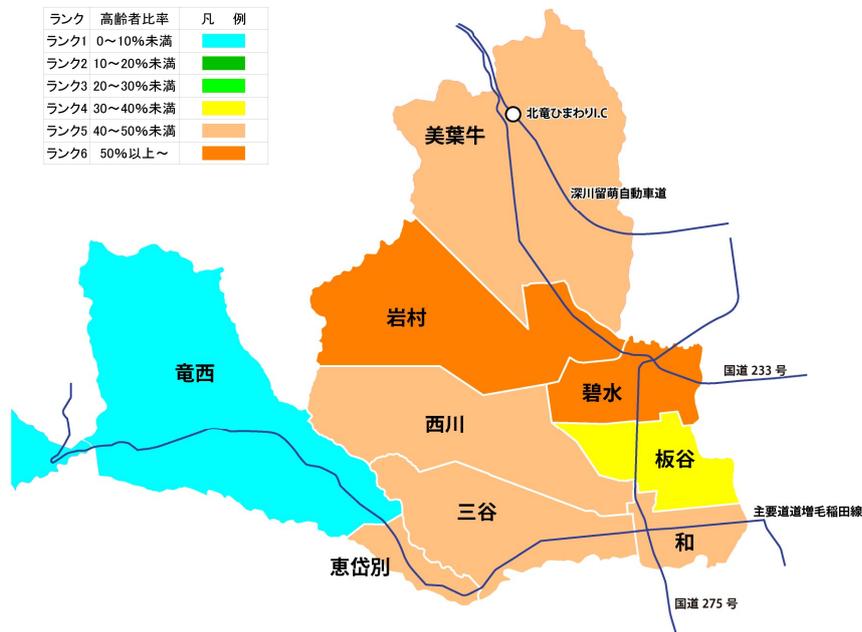


図 行政区別高齢者比率

## ③行政区別若年者比率

行政区別の若年者比率は「板谷」「岩村」及び「恵岱別」がランク 4 (15～20%) と最も高くなっています。

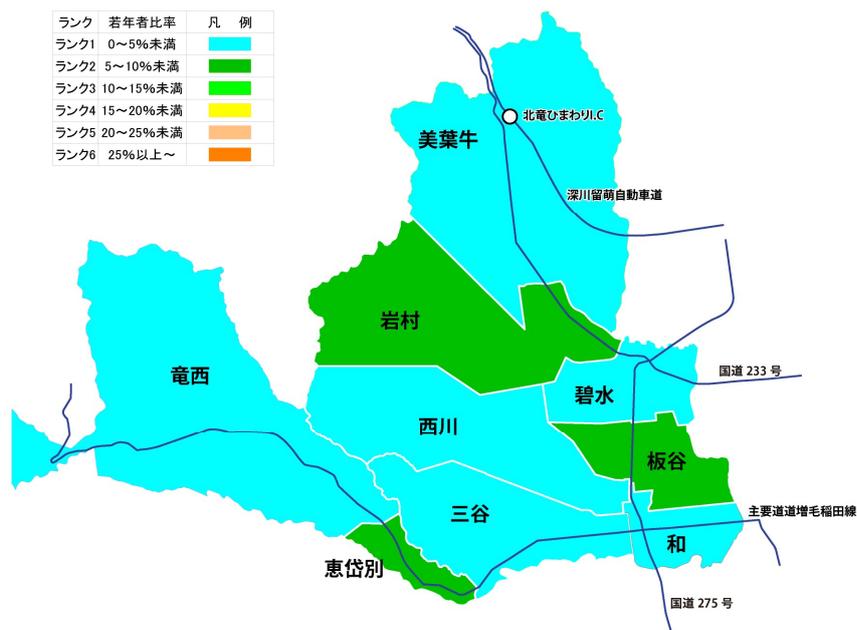


図 行政区別若年者比率

#### ④ 従業地・通学地の状況

##### 1) 従業地

北竜町在住者は深川市への通勤が多く、深川市在住者についても同数程度が通勤している。続いて滝川市への通勤が多く、滝川市在住者からの通勤も多い状況となっています。

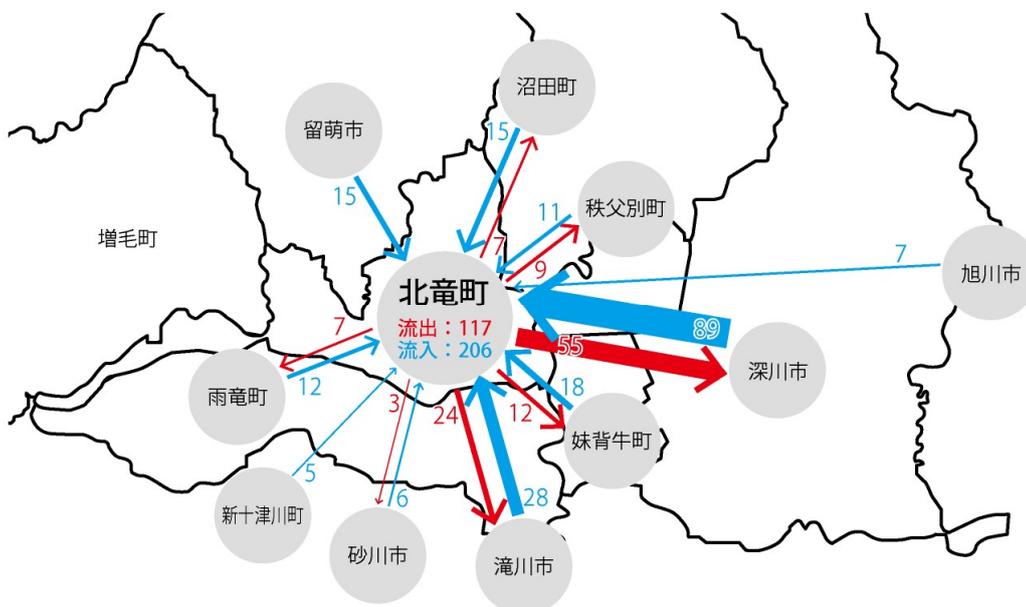


図 従業地

資料：令和2年国勢調査

##### 2) 通学地

北竜町の15歳以上の通学者は、深川市が39人と最も多く、他は滝川市への通学が17人となっています。

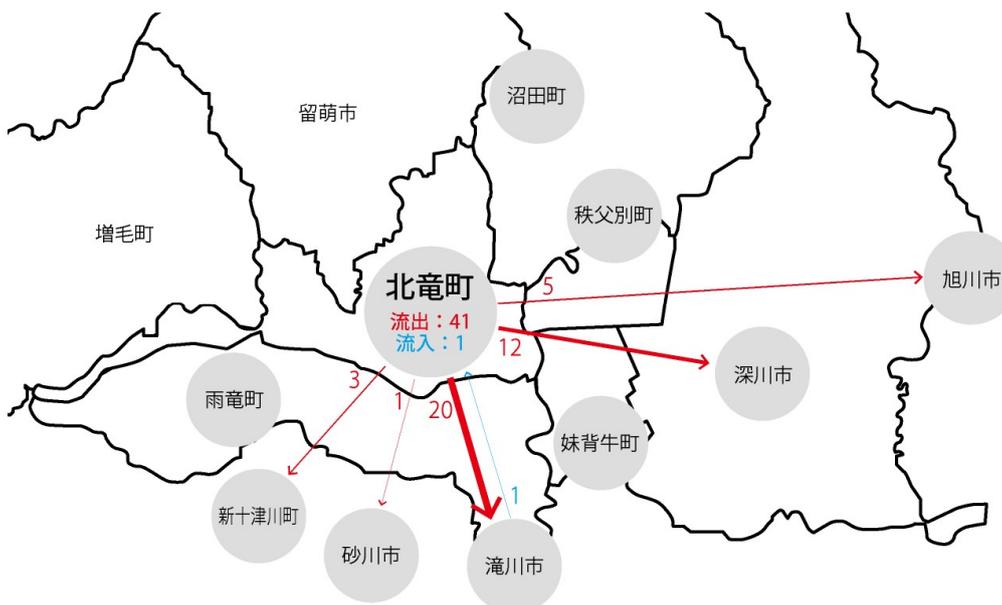


図 通学地

資料：令和2年国勢調査

### ⑤ 高校別生徒数と今後の高校生徒数の見込み

高校別の生徒数は滝川高等学校が 14 人と最も多く、続いて深川西高等学校が 10 人、滝川西高等学校が 4 人の順となっています。

令和 2 年 10 月の住民基本台帳における今後の高校生徒数の見込みは、令和 2 年の生徒数に対して 0.79 から 0.97 で推移すると思われます。

表 高校別生徒数

市町名	学校名	生徒数(人)
滝川	滝川高等学校	14
	滝川西高等学校	4
小計		18
深川	深川西高等学校	10
小計		10
砂川	砂川高等学校	1
旭川	旭川西高等学校	1
	旭川東高等学校	1
	旭川工業高等専門学校	1
小計		4
幌加内	幌加内高等学校	2
合計		34

資料：北竜町（令和 2 年度）

表 今後の高校生徒数の見込み

年齢	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
10	13	13	13	13	13	13	13
11	15	15	15	15	15	15	15
12	2	2	2	2	2	2	2
13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14
15	6	6	6	6	6	6	6
16	7	7	7	7	7	7	7
17	15	15	15	15	15	15	15
18	12	12	12	12	12	12	12
19	17	17	17	17	17	17	17
20	14	14	14	14	14	14	14

項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
高校生	34	28	27	33	29	30	30
伸び率 (R2年比)	1.00	0.82	0.79	0.97	0.85	0.88	0.88

資料：住民基本台帳（令和 2 年 10 月 1 日）

### (3) 産業

#### ①農業

農業産出額は概ね2,400百万円から2,900百万円で推移しています。

北竜町の主要な農産品は「米」となっており、農業産出額の8割を占めます。

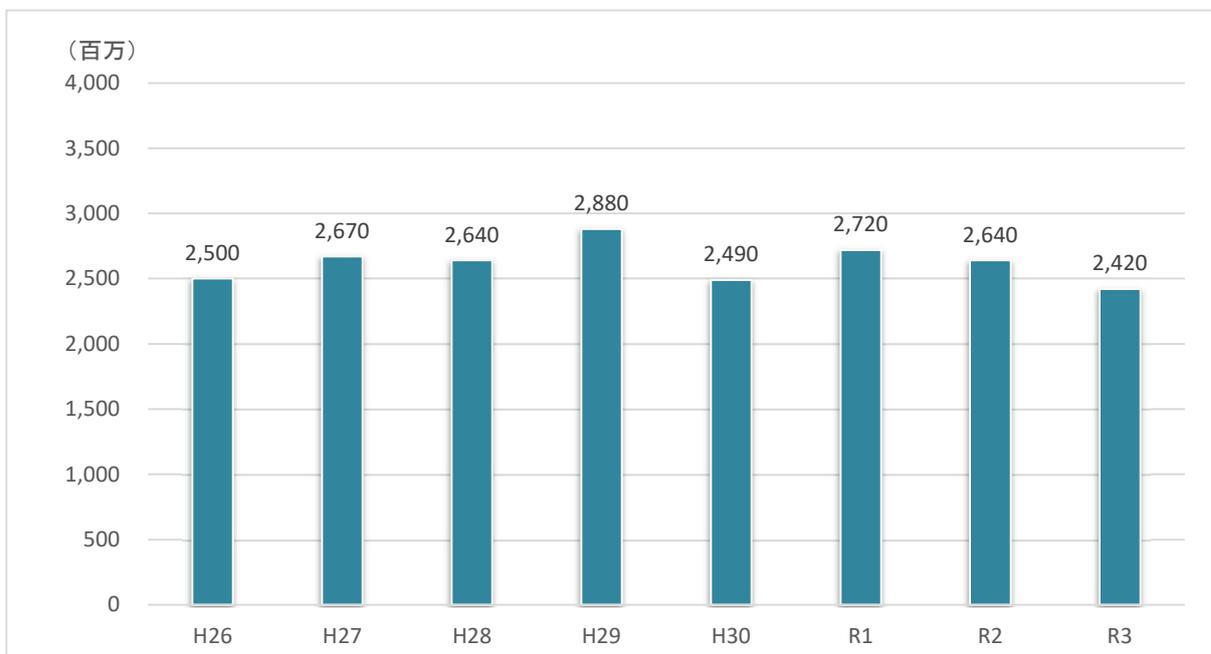


図 農業産出額（推計）の推移

資料：農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果（農林水産省）

#### ②商業

商店数、従業者数及び商品販売額とも減少傾向を示しています。

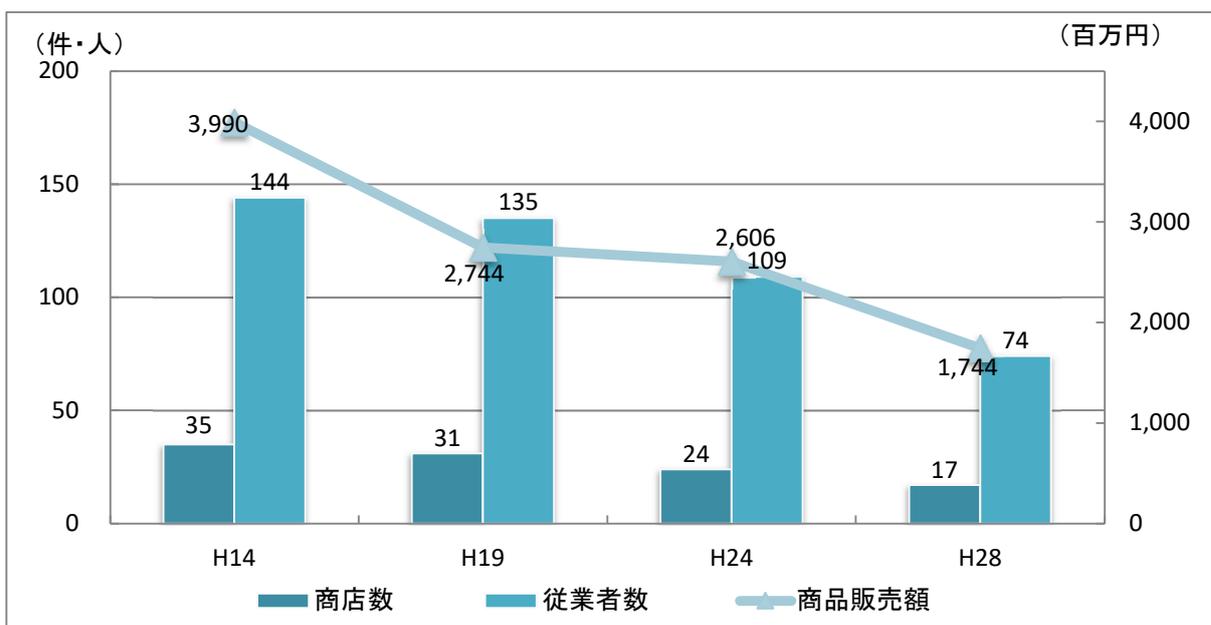


図 商品販売額等の推移

資料：商業統計、商業センサス

#### (4) 主要な道路網

町域の北部には深川留萌自動車道が東西に貫き、北端には北竜ひまわり IC が設置されています。

北竜町の主要な道路は国道 275 号が南北に貫いているとともに、国道 233 号と主要道増毛稲田線は東西に貫いています。その他一般道道主要町道により道路網が形成されています。

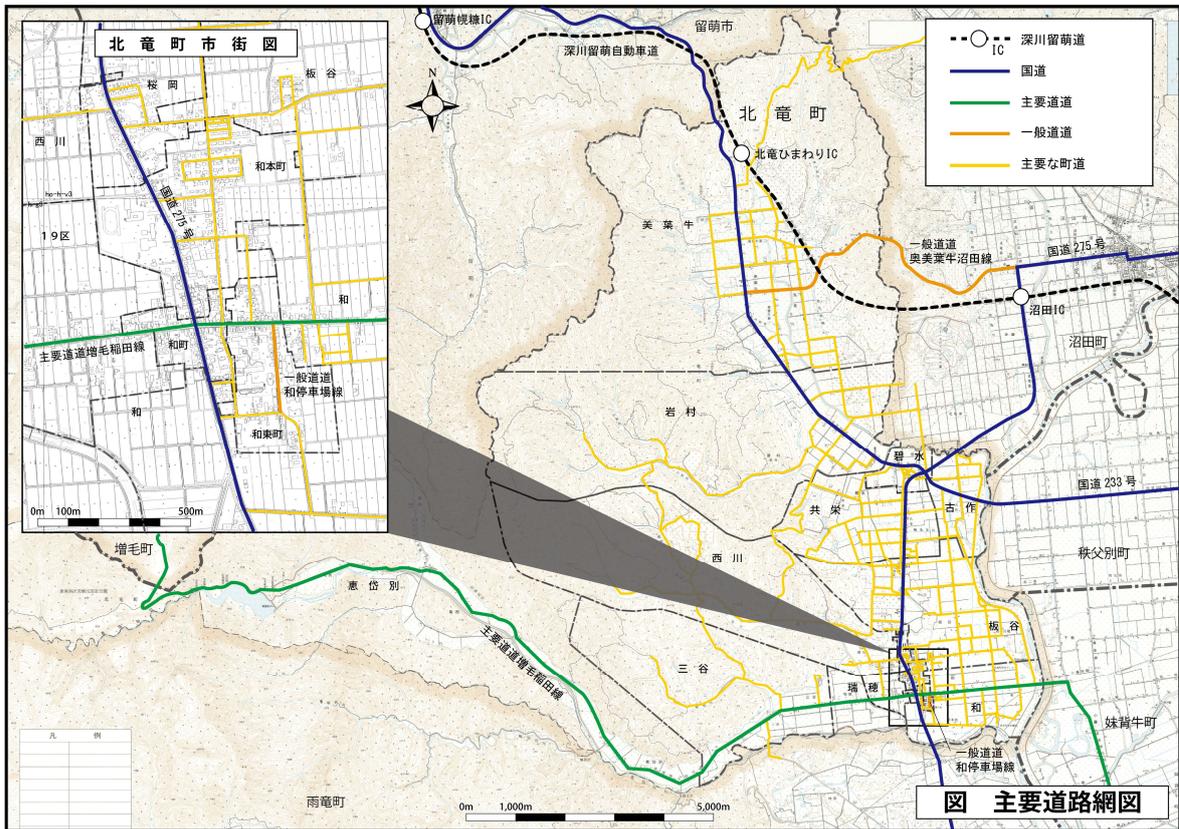


図 主要道路網図

## (5) 公共・公益施設

公共・公益施設は、和市街地周辺、サンフラワーパーク北竜温泉及び碧水市街地周辺に集積しています。

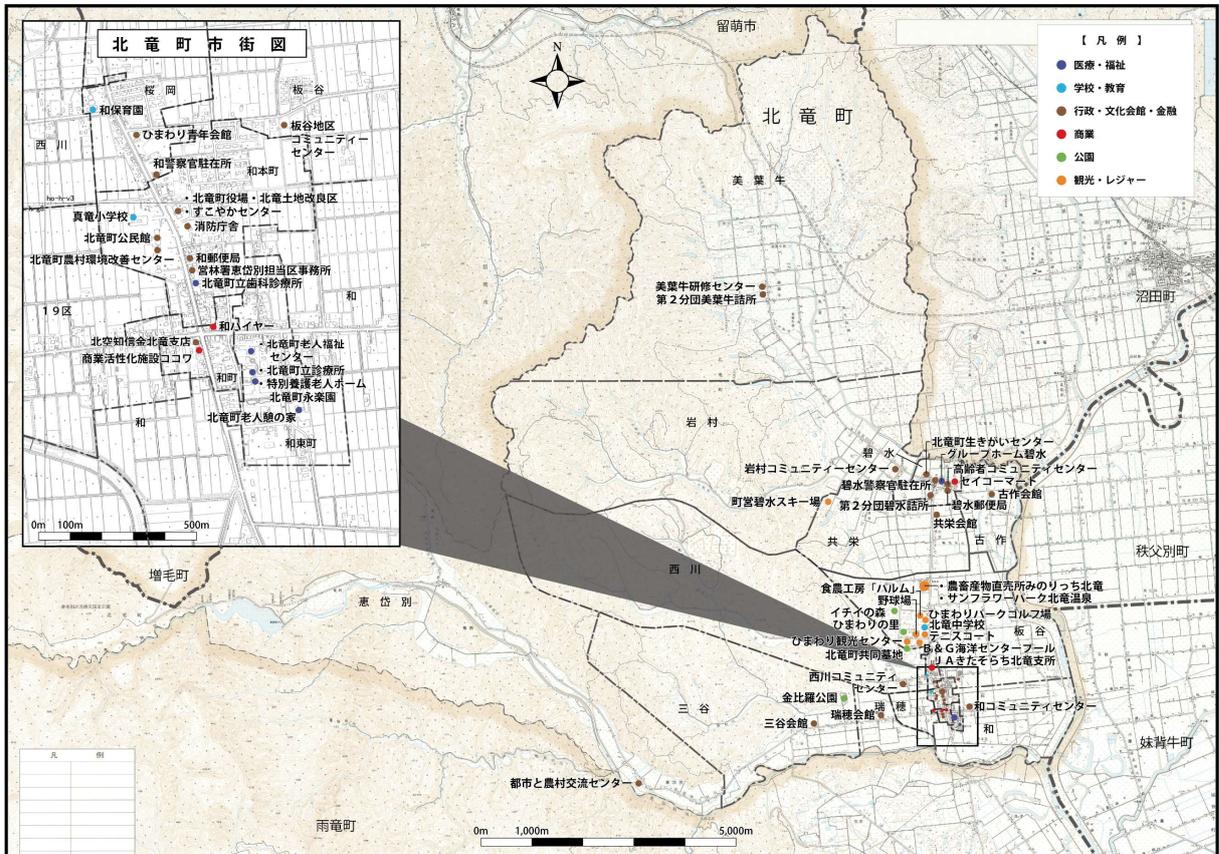


図 公共・公益施設分布図

資料：北竜町

## (6) 公共交通等の状況

### ①民間路線バスの路線

民間路線バスは、国道 275 号等を運行する滝川北竜線が滝川市へアクセスしていましたが、運転手不足と輸送人数の減少により令和 4 年 3 月に廃止となりました。また主要道道増毛稲田線を運行する（深川）北竜線は深川市へアクセスしますが、令和 6 年 3 月に同様の理由により廃止となる予定です。その他国道 233 号を運行する留萌旭川線は、留萌市及び深川市・旭川市にアクセスしています。

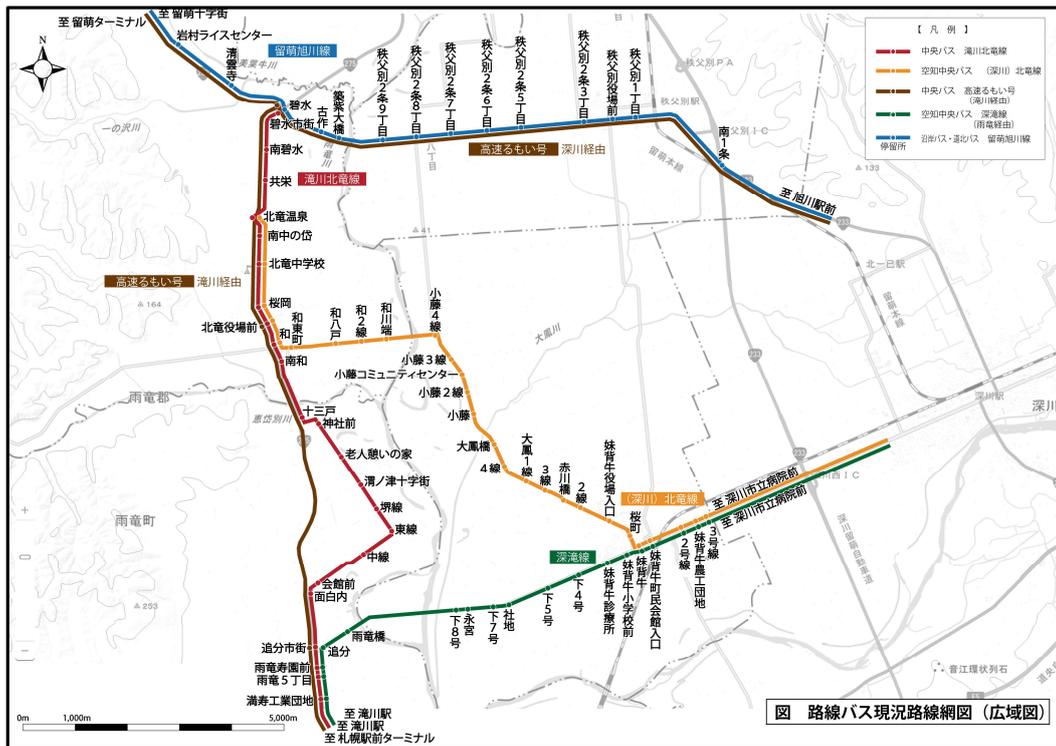


図 民間路線バス網図 (広域)

資料：各バス会社ホームページ

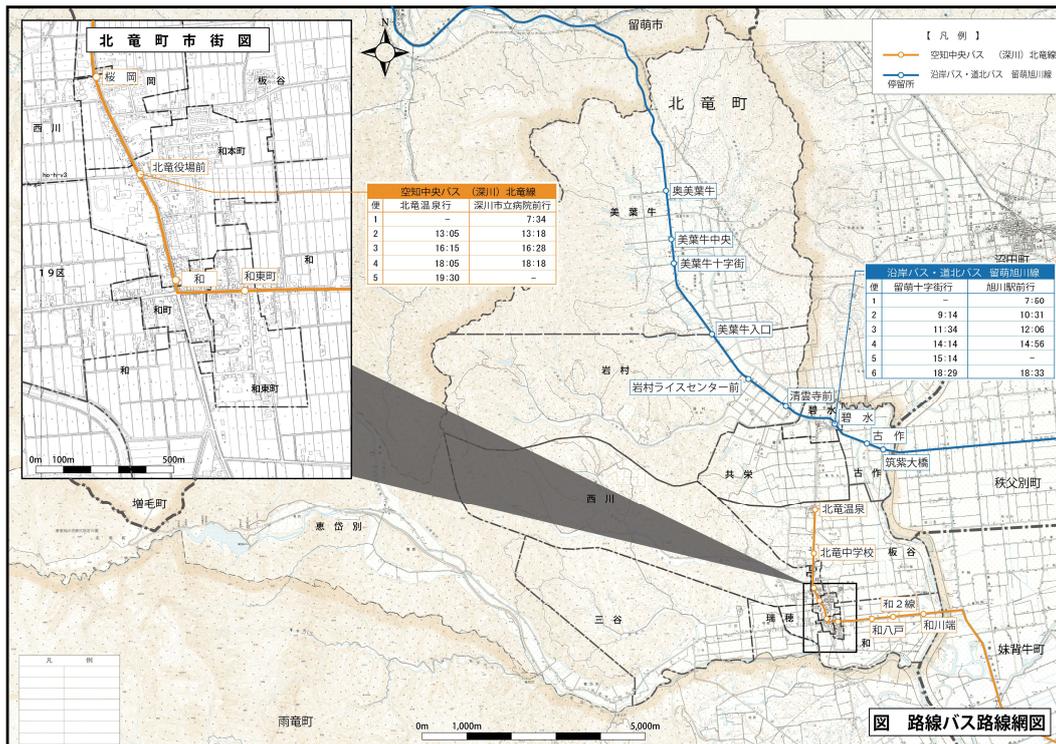


図 民間路線バス網図

資料：各バス会社ホームページ

## ②民間バス路線の輸送人数

(深川) 北竜線の輸送人数は令和4年度が20,231人と、近年微増しているが、平成20年度と比較すると68ポイント減少となっています。留萌旭川線は平成20年度と比較すると令和4年度は59ポイント減少となっています。その他、深川市・妹背牛町・雨竜町・滝川市間を運行する深川滝川線は、平成22年度が約24万人と大きく増加しましたが、令和4年度では減少し、平成20年度比で22ポイント減少となっています。

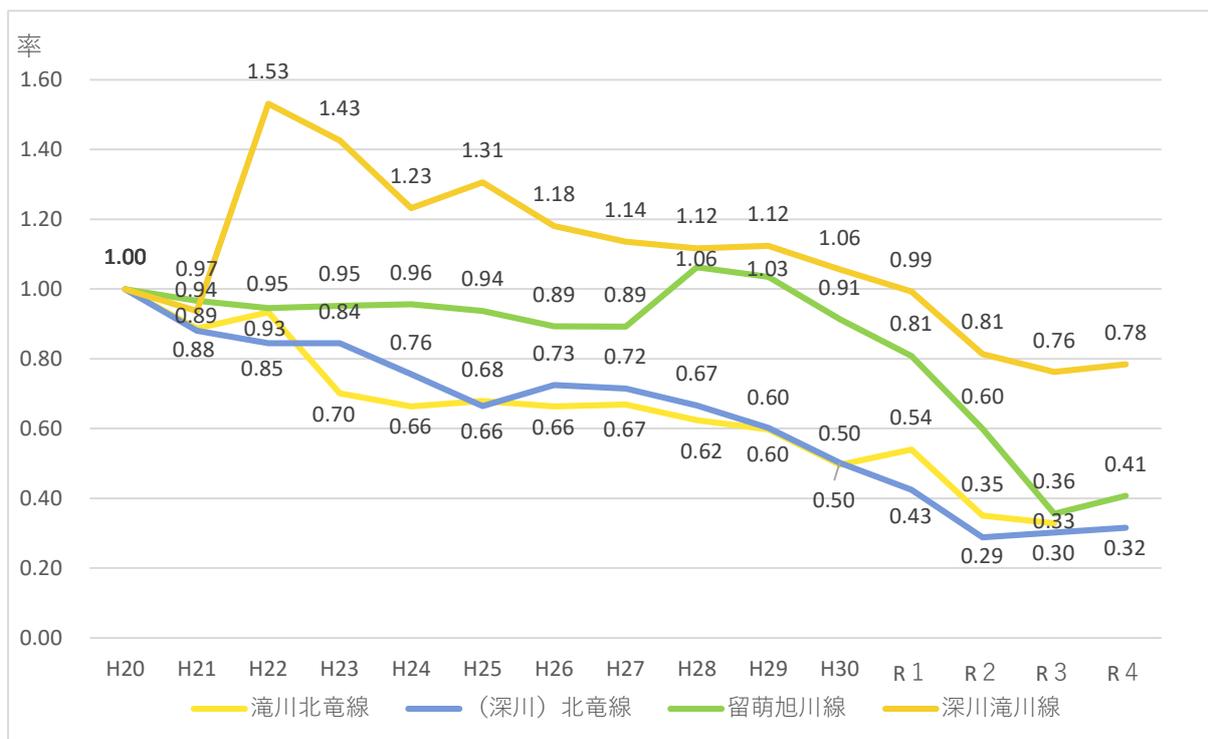
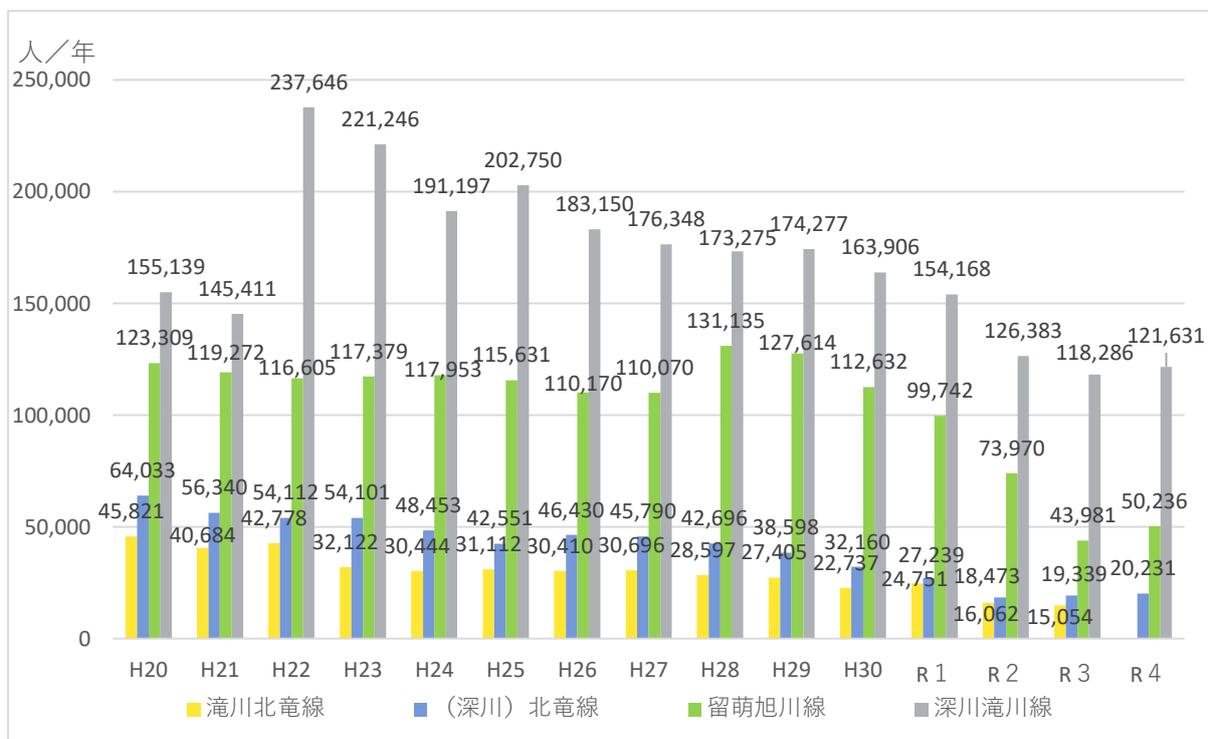


図 民間路線バス輸送人数等の推移

資料：北海道中央バス(株)、空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)

### ③町営バス

町営バス北竜追分線は、碧水・追分市街地間において北海道中央バス滝川北竜線の代替交通として令和4年4月から運行を開始しました。運行当初の5月から7月においては、一月当たり300人弱の利用がありましたが、乗継による不便さが敬遠され1月以降は100人台で推移し、令和4年度の輸送人数は2,598人となっています。

乗車人数当たりの便数を見ると、平日においては高校の登下校とは逆方向の運行をする便において、ほとんどが空車の状況となっています。

土曜・日曜祝日は第1便が1~5人の乗車が6割以上ですが、第5便と第6便は往路のほとんどが空車、復路においては6割以上が空車となっています。

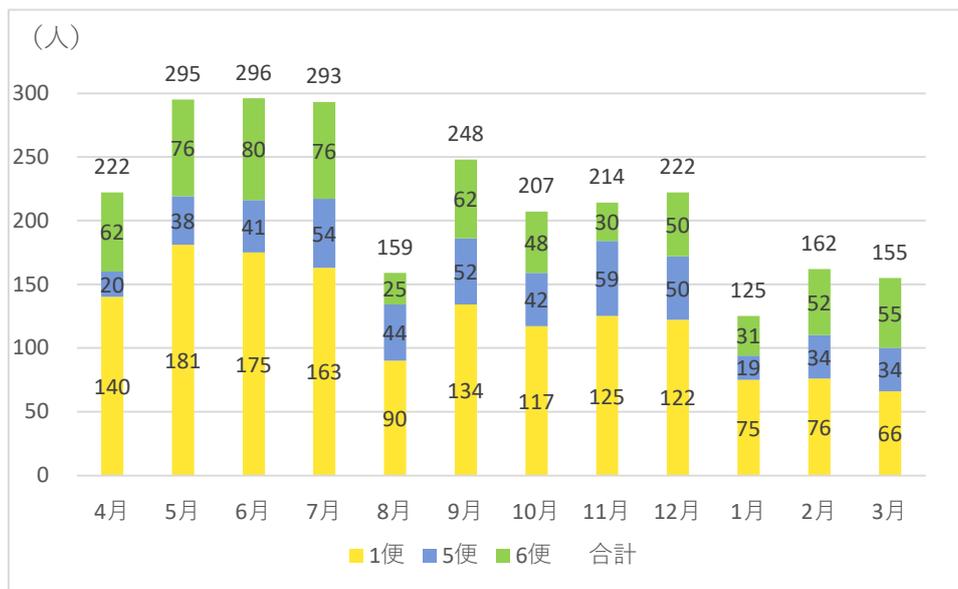


図 月別便別輸送人数の推移

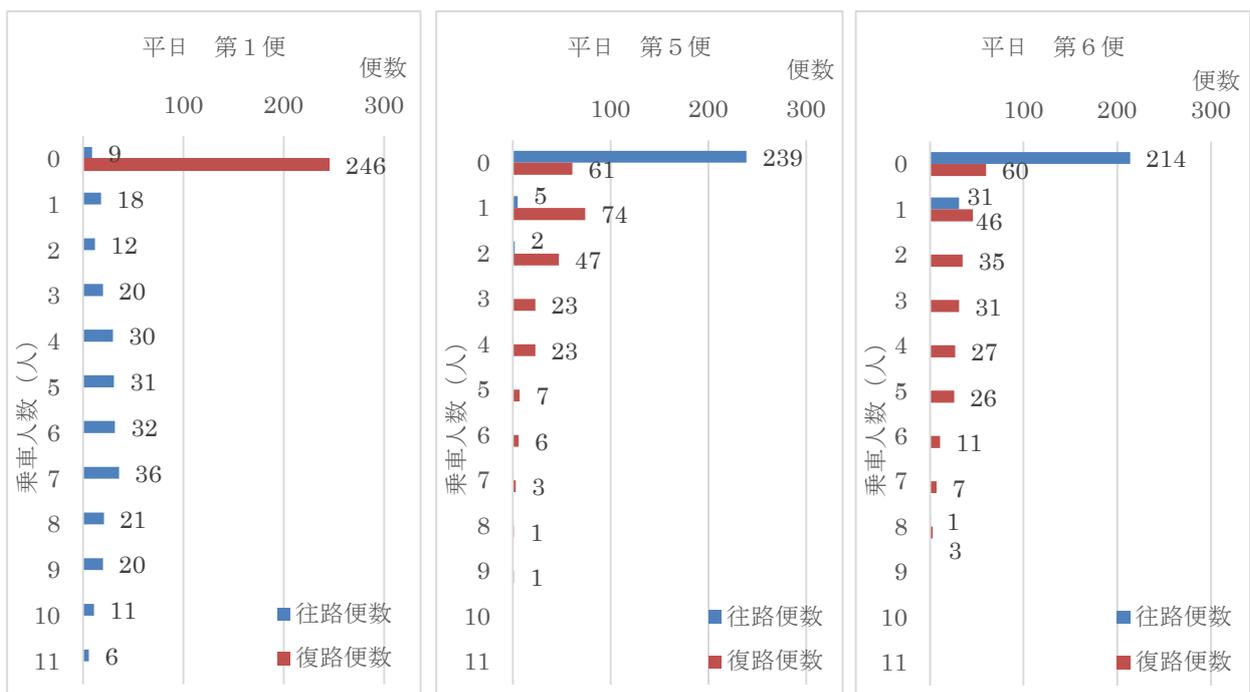


図 便当り輸送人数別運行便数 (平日)

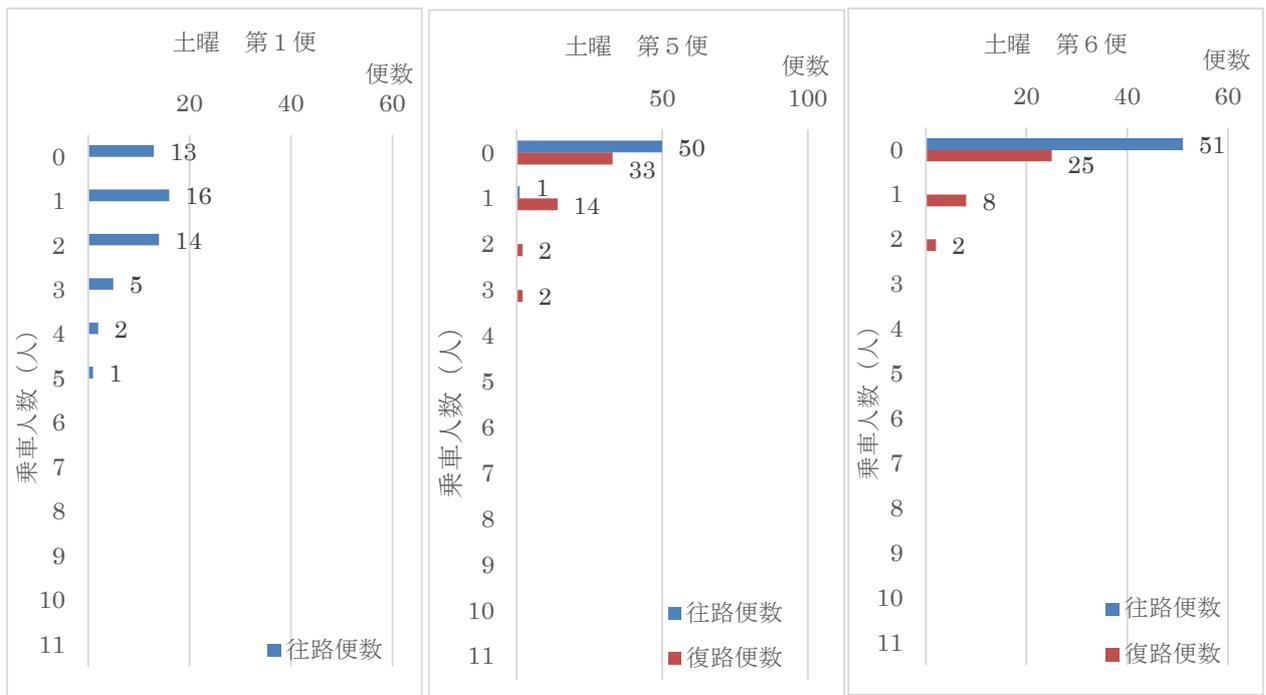


図 便当り輸送人数別運行便数 (土曜日)

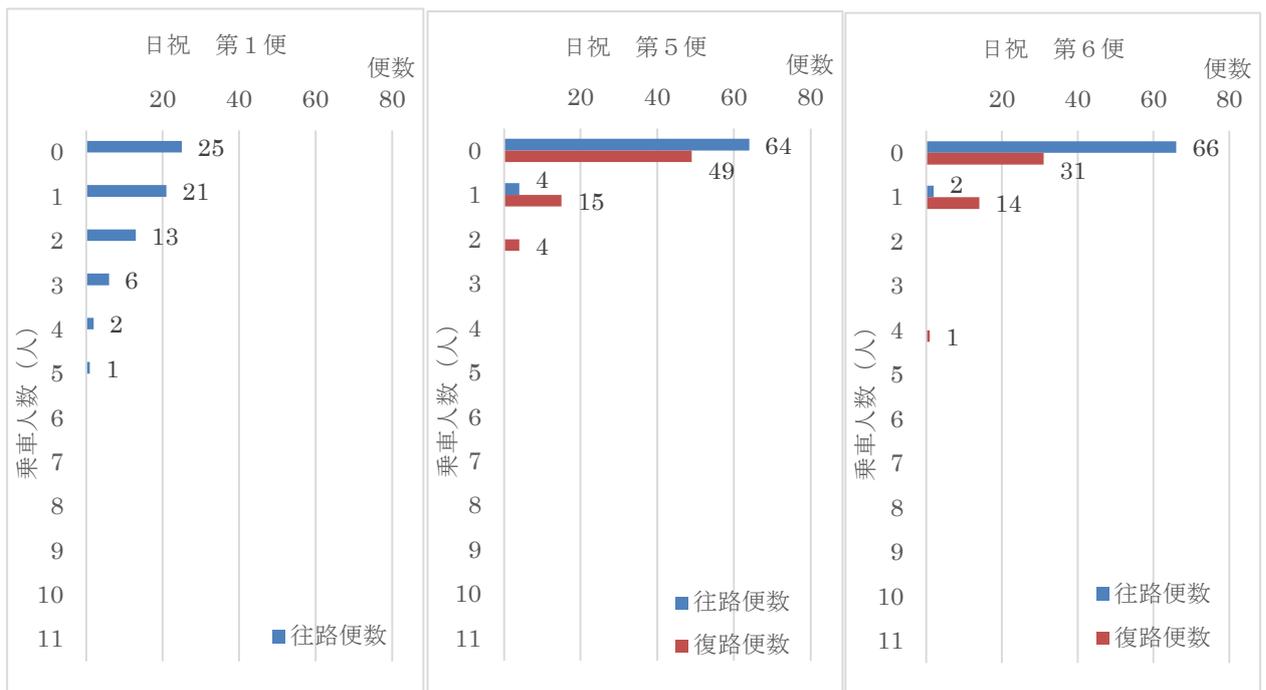


図 便当り輸送人数別運行便数 (日曜・祝日)



図 町営バス北竜追分線バス路線図

#### ④乗合タクシー

乗合タクシーは、和ハイヤー(有)がハイヤー車両を用い利用登録者の自宅前と市街地中心部等に設定している連絡施設 19 箇所との間を輸送するもので、「美葉牛碧水方面」と「竜西和方面」の2方面と「連絡施設間運行便」の運行を行っています。2方面の運行便数は平日が3便、土曜日が2便となっており、うち雨竜町追分市街にアクセス可能な便は1便となっています。「連絡施設間運行便」は4便が運行しています。

輸送人数は、令和3年度から令和4年度で減少していますが、通年で運行を開始した平成27年度と比較し、令和4年度は3倍弱の2,734人となっています。

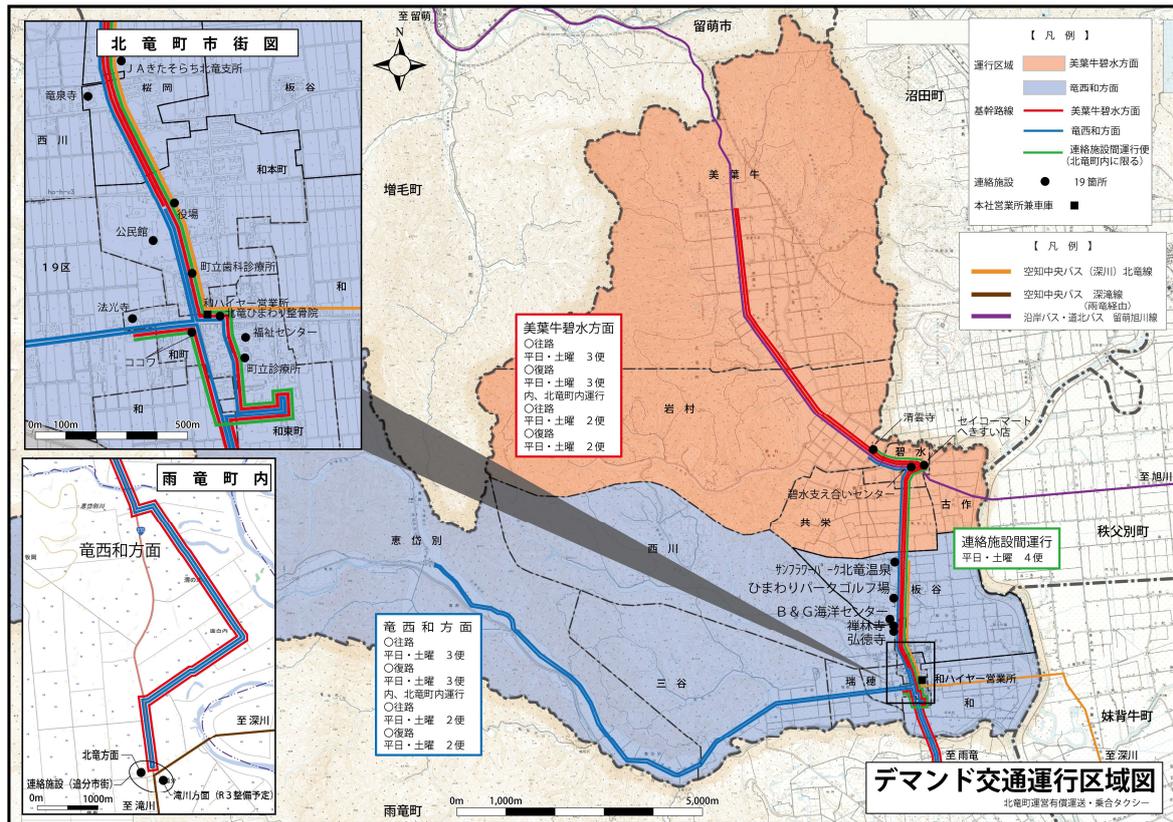


図 乗合タクシー運行区域図

資料：北竜町（令和5年4月現在）

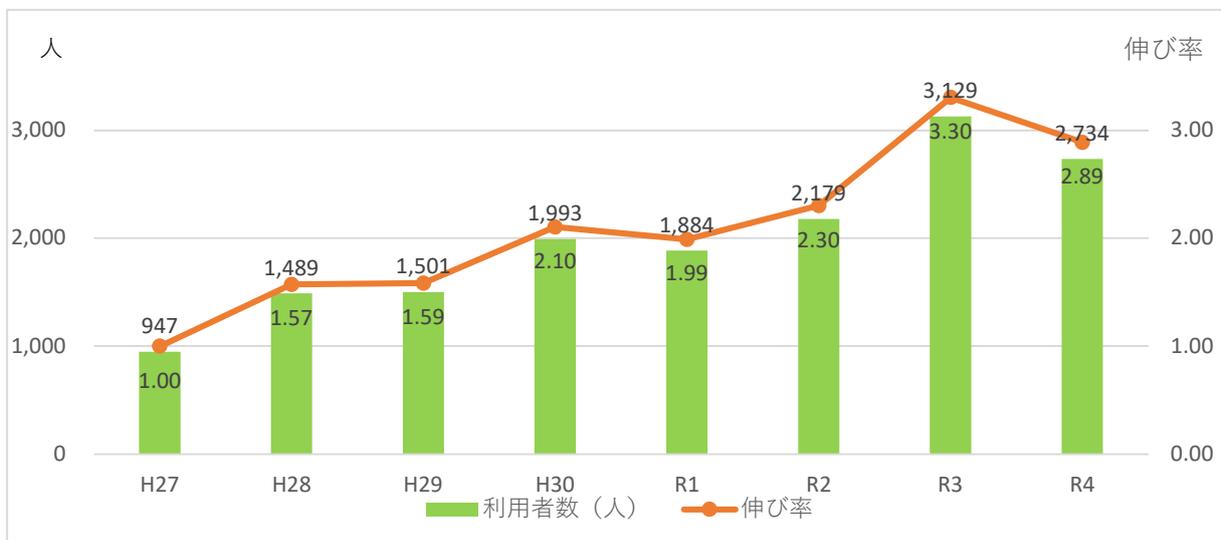


図 乗合タクシー輸送人数の推移

資料：北竜町、和ハイヤー(有)

## ⑤スクールバス

### 1)スクールバス路線・輸送人数

スクールバスは小学生と中学生の児童生徒の登下校だけではなく、北竜町運営有償運送により住民の輸送を行っています。バス路線は美葉牛線、碧水線及び竜西線の3路線となっていますが、少子化の影響によりバスに空席が目立つようになってきています。一般の輸送人数は減少しつつも令和4年度では2,085人が乗車しています。

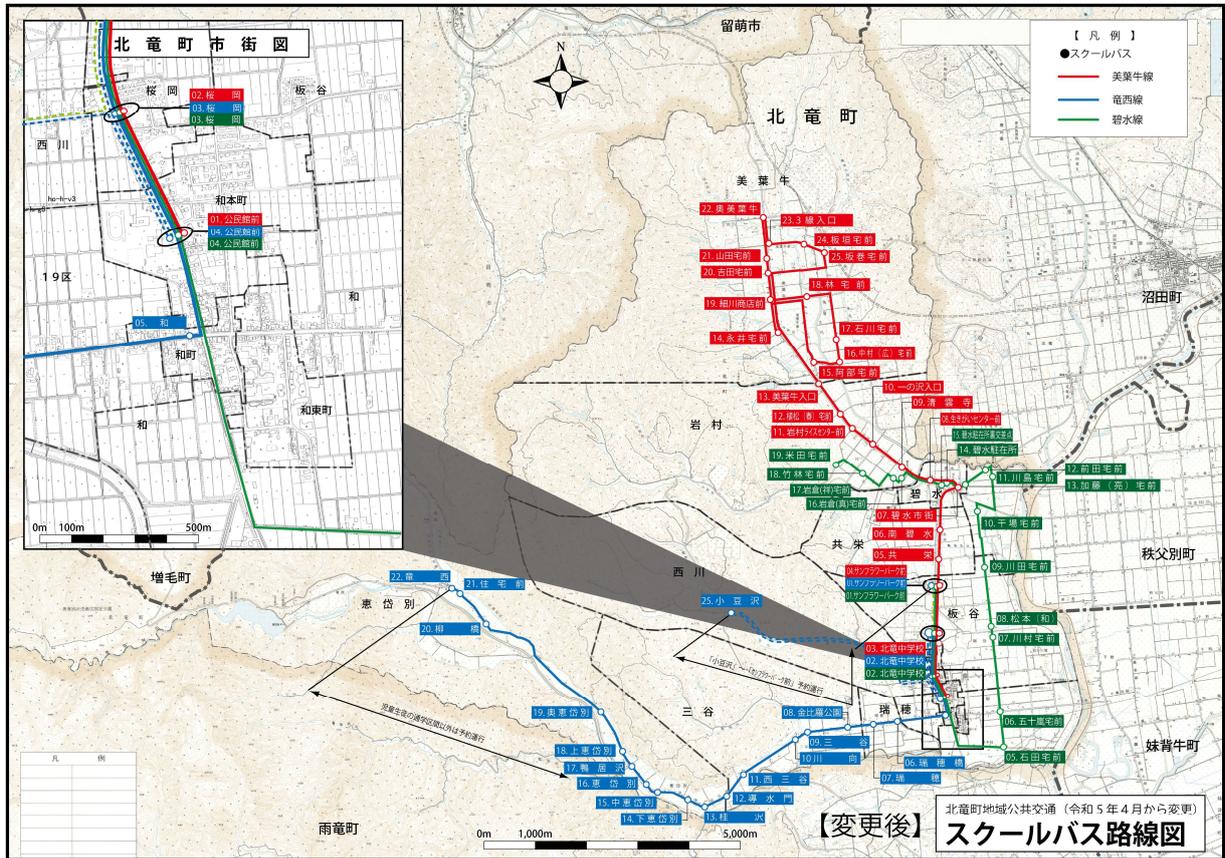


図 スクールバス路線網図

資料：北竜町(令和5年4月現在)

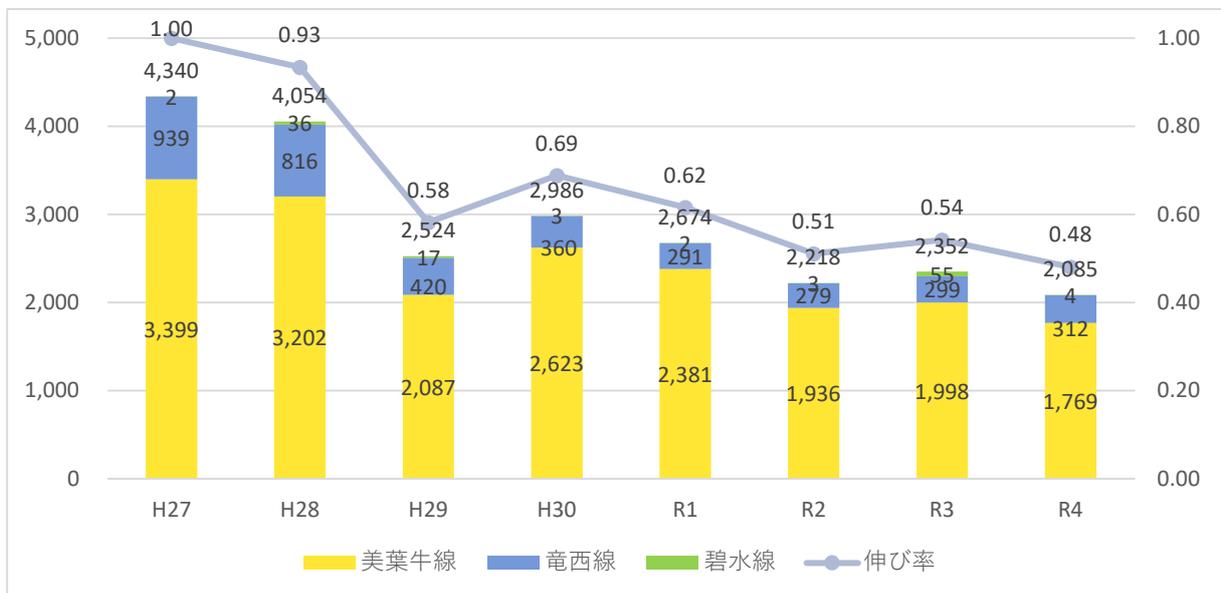


図 スクールバス一般利用輸送人数の推移

資料：北竜町

## ⑥公共交通の収支状況

地域間幹線系統及び広域生活交通路線は、収益率が 0.26 から 0.43 となっているものの、深滝線については事業者負担額が約 23,000 千円となっている。

地域内フィーダー系統など町内の輸送が主な路線は、収益率が 0.02 から 0.09 となっているものの、スクールバス普通交付税額が手厚いため、地域間幹線系統を含めた北竜町補助金を上回る収入となっており、地域公共交通全体としては収支状況は健全であります。

表 公共交通の収支現況

区分	路線名	支出		収入				
		経常費用	経常収益	国・道補助金等	市町村補助金等	内、北竜町	事業者負担	収入計
地域間幹線系	沿岸バス(株)	124,567	46,654	41,917	0	0	35,996	124,567
	留萌旭川線	1.00	0.37	0.34	0.00	0.00	0.29	1.00
広域生活交通路線	空知中央バス(株)	18,153	4,672	1,724	9,398	2,502	2,359	18,153
	(深川)北竜線	1.00	0.26	0.09	0.52	0.14	0.13	1.00
地域間幹線系	空知中央バス(株)	75,984	32,834	19,846	633	0	22,671	75,984
	深川滝川線	1.00	0.43	0.26	0.01	0.00	0.30	1.00
計 (地域間幹線系統・広域生活交通路線)		218,704	84,160	63,487	10,031	2,502	61,026	218,704
		1.00	0.38	0.29	0.05	0.01	0.28	1.00
地域内フィーダー系統	和ハイヤー(有)	6,059	527	2,674	2,271	2,271	587	6,059
	乗合タクシー	1.00	0.09	0.44	0.37	0.37	0.10	1.00
その他	町営バス	5,876	399	1,132	4,345	3,882	0	5,876
	北竜追分線	1.00	0.07	0.19	0.74	0.66	0.00	1.00
その他	スクールバス	11,791	187	19,095	-10,182	-10,182	0	9,100
	一般利用	1.00	0.02	1.62	-0.86	-0.86	0.00	0.77
計 (地域内フィーダー系統・その他)		17,850	714	21,769	-7,911	-7,911	587	15,159
		1.00	0.04	1.22	-0.44	-0.44	0.03	0.85
合計		236,554	84,874	85,256	2,120	-5,409	61,613	233,863
		1.00	0.36	0.36	0.01	-0.02	0.26	0.99

令和4年度：各バス会社、ハイヤー会社からの提供データ

上段は金額(千円)、下段は経常費用に対する比率

スクールバス国・道補助金は普通交付税額で、基準財政決定額に対する普通交付税決定額の割合により低減した額

### ⑦タクシー・ハイヤー事業

北竜町内のタクシー・ハイヤー事業は、和ハイヤー(有)が行っています。運行車両は小型2台と運転手2名の小規模な事業所となっています。

### ⑧北竜町福祉有償運送

北竜町の住民の福祉の向上、または交通空白地域の解消を図り、公共の福祉の増進を図るため、北竜町による福祉有償運送を行っています。

令和4年度は、町内の在住の17名を対象に深川市と滝川市の病院への通院で、計94人の輸送を行っています。

### ⑨サンフラワーパーク北竜温泉送迎バス（無料）

(株)北竜町振興公社では、夜の時間帯においてサンフラワーパーク北竜温泉の無料送迎を行っています。

運行概要は以下のとおりとなっていますが、令和4年度からスクールバスの運行に従事している運転手を加えるかたちで、スクールバス運行業務に従事しています。

表 無料送迎バスの概要

運行曜日：毎週日曜日～木曜日（金曜日と土曜日は運休）
運行回数：1日1往復
運行方面：和方面、碧水方面
運行時間：行き19時台、帰り20時～21時台
運転手：4名

資料：(株)北竜町振興公社

## 2-2. 上位関連計画等による公共交通の位置づけ

### (1) 北竜町総合計画

2019年度から2028年度における10か年の北竜町のテーマを

## 「あかるい農法 ひまわりの北竜町」

と掲げ、6つの基本目標を定めている。

地域公共交通に関係する基本目標は「安心して生活できる晴れやかなまち」としており、町民生活の基本となる生活インフラを持続的・安定的に提供できるまちづくりを進めるとともに、防災・防犯等の安全面における生活機能の向上を図り、町民がいつまでも安心して安全に暮らせるまちづくりを進めるとしています。

地域公共交通についての現状と課題は以下の2点が挙げられています。

- ・広域公共交通については、町民の交通手段の一つであるバス路線の確保のため、バス事業者に対し支援を行っているが、便数が減少している状況にあり、今後も現行路線の維持・確保が求められている。
- ・本町では、地域公共交通として住民混乗のスクールバスを運行しているほか、乗合タクシーの運行も行っている。乗合タクシーの利用者は年々増加傾向にあるが、連絡施設の追加要望があることから今後の対応が課題となっている。

現状と課題に対して次のとおり基本方針を設定しています。

- ・町民の交通手段の一つであるバス路線の確保のため、バス事業者への支援を継続する。
- ・交通弱者への支援として、地域公共交通の充実に努める。

基本方針を実現するために以下の主要施策を設定しています。

#### ○広域バス路線の維持

- ・町民の生活交通を確保するため、関係機関やバス事業者と連携し運行に努める。
- ・広報誌やホームページを活用し、地球温暖化の防止や交通事故の減少をはじめとするバス利用のメリットについてのPRや、町ぐるみで地域の生活交通を守り育てていく意識の啓発を行い、バスの利用促進に努める。

#### ○地域公共交通対策

- ・今後も交通弱者対策として地域公共交通対策を継続するとともに、乗合タクシーは連絡施設の追加について運行事業者を含めた協議を進める。

地域公共交通の成果目標を以下のとおり設定しています。

- ・地域公共交通登録者数 229人（2018年度末） → 240人（2023年度末）

「地域公共交通」と連携を図るべき事項として、「土地利用計画」、「高齢者福祉」及び「観光」からまちづくりに関する事項を抽出すると以下のとおりとなります。

### ①土地利用

#### ○基本方針

- ・町の一体的・持続的発展に向け、農業振興地域整備計画等の土地利用関連計画に基づき、計画的な土地利用を推進します。
- ・豊かな自然を活かし、景観に配慮した快適で機能的な市街地整備を積極的に推進します。

#### ○主要施策：土地利用に関する指針の策定と調整

- ・適切な土地利用の推進を図ります。
- ・全町的に整合性のとれた土地利用を推進するため、農業振興地域整備計画等の土地利用関連計画の見直し・総合調整を行います。

### ②高齢者福祉

#### ○基本方針

- ・高齢者が充実した生活を送ることができるよう、地域活動等の生きがいづくりを推進します。
- ・地域支え合いセンターなどの施設を活用した介護予防や生きがいづくり活動及び社会参加における町民の主体的な活動を支援します。

#### ○主要施策：高齢者の生きがい、社会参加の促進

- ・高齢者が生きがいを持って充実した生活を送れるよう、老人クラブ活動の支援や高齢者事業団の充実支援、生涯学習の場の提供に努めます。
- ・ボランティア団体の協力のもと、碧水地域支え合いセンター及び和地域支え合いセンター等の集いの場を活用した生きがいづくり活動を推進します。

### ③観光振興

#### ○基本方針

- ・近隣自治体や関係団体との連携により、魅力ある観光資源をネットワーク化した広域観光ルートの設定や通過型観光から滞在型観光へのシフトを推進します。

#### ○主要施策：観光・交流資源の充実

- ・ひまわりの里及び周辺エリアについて、ひまわりの里やサンフラワーパーク北竜温泉等の建物の老朽化対策や施設・設備の適正管理を進めます。
- ・インバウンド観光の受け入れ体制の強化を図るとともに、観光客の増加に対応できる施設・設備の整備に努めます。
- ・町内観光とリンクしたフットパス、キャンプ及び農業体験などの機能の創出を図り、観光・交流拠点としての一層の機能強化と有効活用に努めます。
- ・町民及び関係団体の参画・協働のもと、町最大のイベントであるひまわりまつりの充実に努めます。
- ・町民及び観光関連事業者のホスピタリティ21の向上に向けた啓発活動の推進や学習機会の提供を図るとともに、ボランティアで観光案内等を行う観光ボランティアの育成に努めます。

## (2) 北竜町まち・ひと・しごと創生総合戦略

北竜町の人口ビジョンとの関係を整理する中で、北竜町人口ビジョン（将来目標人口）が以下のとおり示されています。

令和2年人口 1,798 人に対し、令和7年における目標人口は 1,650 人となっています。

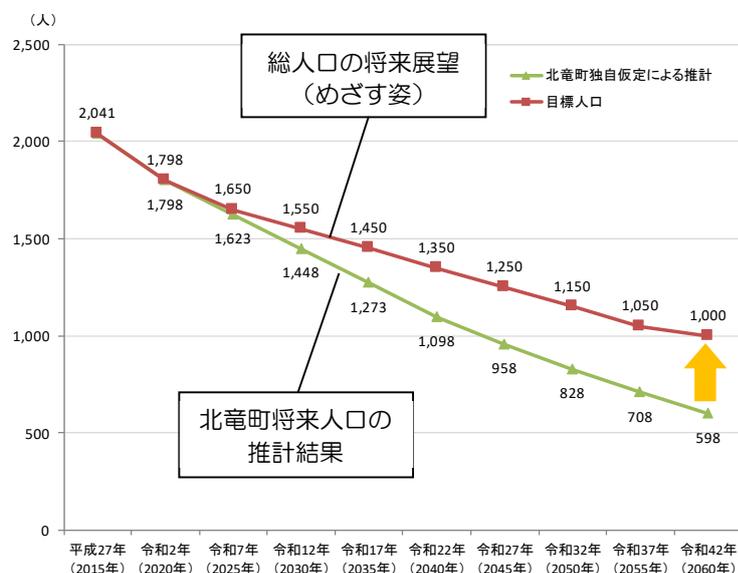


図 北竜町人口ビジョン

総合戦略において地域公共交通に関連する基本目標、基本的方向、事業内容としては以下が示されています。

### 【地域公共交通】

- 基本目標：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。
- 基本的方向：安全で安心な暮らしの推進にあたっては、近隣市町や北海道との連携を図る。
- 事業内容：時代に合った地域の形成を支援するものとして、地域公共交通運行事業を継続する。

その他、まちづくりに関する事項として「市街地形成」、「観光振興」に関わるものとして以下が示されています。

### 【市街地形成】

- 基本目標：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
- 基本的方向：定住政策として住宅環境の整備を図る。  
医療・買い物等利便性の高い市街地への居住地の移動を図る。  
空家空地対策計画により快適な生活空間の確立を推進する。  
冬期間の快適な生活環境を創造する。

### 【観光振興】

- 基本目標：魅力ある北竜町をつくるとともに、安定した雇用を創出する
- 基本的方向：サンフラワーパーク北竜温泉やひまわりの里の充実を図り、観光における競争力強化による雇用創出に取り組む。
- 事業内容：ひまわりの里整備事業（観光のインターナショナル事業）

## 第3章 地域公共交通実態調査

### 3-1. 住民アンケート調査

#### (1) 目的

住民アンケート調査は、(深川)北竜線等の利用者ニーズを把握するとともに、住民の生活交通を効率的に確保する地域公共交通計画立案のための基礎データを収集することを目的とします。

#### (2) 調査の概要

アンケート調査は、一般アンケート調査と中学生・高校生アンケート調査を実施します。質問の概要は以下のとおりです。

表 アンケート調査の質問の概要

種別	質問の概要
一般アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 個人属性（お住まい、世帯人数、性別、年齢、学生と社会人の区分）</li><li>・ 自家用車の状況（利用状況、運転状況など）</li><li>・ 公共交通の利用状況（滝川北竜線、(深川)北竜線、最寄りのバス停）</li><li>・ 交通実態（時間帯、目的、交通手段、行先）</li><li>・ 代替交通手段、新たな輸送方法</li><li>・ 自由記述</li></ul>
中学生・高校生アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 個人属性（お住まい、高校生の人数、性別、学年、学校名、交通手段）</li><li>・ 利用している運行便（登下校、部活時）</li><li>・ 最寄りのバス停</li><li>・ 滝川北竜線、(深川)北竜線が運休した場合の利用交通手段</li><li>・ 自由記述</li></ul>

### (3) 配付・回収方法

アンケートの配付・回収方法は、以下のとおりです。

表 配付・回収方法

種別	配付方法	回収方法
一般アンケート調査	日本郵便(株)の配達地域指定郵便物 (タウンメール)による発送 (事業所を含め全戸配布)	郵送による回収
中学生・高校生 アンケート調査	【高校生】 ・ 郵送による発送 (高校1、2年生がいる世帯すべて に配付)	
	【中学生】 ・ 全生徒を対象に学校を通して配布	学校を通して回収

### (4) 配付・回収のスケジュール

アンケートの配付・回収スケジュールは、以下のとおりです。

表 配付・回収スケジュール

種別	配付日	回収期日
一般アンケート調査	令和2年2月25日(火)～29日(日)	令和2年3月15日(日)
中学生・高校生 アンケート調査	令和5年3月1日(水)	令和5年3月10日(金)

### (5) 配付・回収数

各アンケートの配付・回収の状況は、以下のとおりです。

表 配付・回収数

種別	配付数	回収数(回収率)
一般アンケート調査	747世帯	360世帯(48.2%)
中学生・高校生 アンケート調査	高校生 24世帯 中学生 35人	15世帯(62.5%) 22人(62.9%)

※回収期日までの回収数

※高校生アンケート24件回収の内、3件は町外在住者のため、この3件を差し引いた21件を有効回答として取り扱います。

## (6) 調査結果の概要

### ①一般アンケート調査

問1 お住まいの地域、ご家族の構成、年齢等
<ul style="list-style-type: none"><li>・お住まいは、「和本町」が2割で最も多い</li><li>・世帯人数は、「2人」が4割で最も多い</li><li>・性別は、男女とも概ね5割</li><li>・就学の状況は、「学生以外」が9割強</li><li>・年齢区分は、「70～79歳」が2割強と最も多い</li><li>・学生の区分は、「高校」が6割弱、「大学等」が2割強</li></ul>
問2 自家用車の運転や利用状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・運転免許証の保有状況は、「非保有」が2割強</li><li>・自家用車の使用状況は、「家族等が運転する車に同乗」が1割強</li><li>・事故を回避できる運転への自信は、「80歳以上」でも「自信がある」が半数以上</li></ul>
問3 公共交通の利用状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通の利用状況は、「ほとんど利用していない」が5割強</li><li>・利用している公共交通は、「中央バス高速るもい号（滝川経由）」が最も多い</li><li>・最も利用している公共交通は、「JR函館本線」が最も多い</li></ul> <p>【中央バス滝川北竜線】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用目的は、「通院」が最も多く、続いて「買物」、「趣味・娯楽」の順</li><li>・利用頻度は、「年に数回」が7割強と最も多い</li><li>・滝川北竜線の廃止（予定）に対しては、「まったく困らない」と「ほとんど困らない」が2割と最も多い</li></ul> <p>【空知中央バスの（深川）北竜線】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用目的は「通院」が最も多く、続いて「買物」、「趣味・娯楽」の順</li><li>・利用頻度は、「年に数回」が7割と最も多い</li><li>・（深川）北竜線の廃止（想定）に対しては、「まったく困らない」が2割弱と最も多い</li></ul> <p>【中央バス滝川北竜線・空知中央バス（深川）北竜線】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・最寄りの停留所は「北竜役場前」が最も多く、続いて、「碧水市街」、「和」の順</li></ul> <p>【沿岸バス・道北バス留萌旭川線】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・最寄りのバス停留所は、「碧水」が最も多く、続いて「美葉牛十字街」</li></ul> <p>【停留所までの歩行時間】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「16～30分」、「31分以上」を回答した方が1割弱</li></ul>
問4 交通実態（一週間の外出状況）
<p>【外出時間帯】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・外出は、平日で「8時台」が最も多く、続いて「9時台」件、「7時台」順</li><li>・土日は、「10時台」が最も多く、続いて「9時台」、「8時台」及び「13時台」の順</li><li>・帰宅は、平日で「18時台」が最も多く、続いて「17時台」、「16時台」の順</li><li>・土日は、「12時台」が最も多く、続いて「18時台」、「16時台」の順</li></ul> <p>【外出目的】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・平日は、「通勤」が最も多く、続いて「その他の私用」、「趣味・娯楽」の順</li></ul>

- ・土日は、「その他の私用」が最も多く、続いて「買物」、「趣味・娯楽」及び「通勤」の順
- 【交通手段】**
- ・「自家用車（自ら運転）」が最も多く、続いて「公共交通・送迎バス」、「自家用車（同乗）」の順
  - ・「公共交通・送迎バス」の内訳は、「中央バス滝川北竜線」が最も多く、続いて「空知中央バス（深川）北竜線」、「中央バス高速るもい号（滝川経由）」の順
- 【外出先】**
- ・「北竜町内」が5割弱と最も多く、続いて「深川市」、「滝川市」、「旭川市」の順
- 【交通分布】**
- ・平日は町内で「碧水」、「和本町」、「和」、「西川」への移動が多い
  - ・町外では「碧水」から「深川市」の移動が多い
  - ・土日は町内で「碧水」、「西川」、「和本町」への移動が多い
  - ・町外では「碧水」から「深川市」、「和本町」から「滝川市」、「板谷」から「深川市」の移動が多い

**問5 代替交通手段の検討**

- ・コストを削減した輸送方法の検討へは、「賛同できる」が8割弱
- ・新たな輸送方法の検討にあたっては、「直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保」が最も多い
- ・自宅から町内の目的施設までの輸送手段は、「乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送」及び「コミュニティバスによる輸送」とも4割程度

**②中・高校生アンケート調査**

- ・居住地は、「和」が2割強と最も多い
  - ・各世帯の中学生・高校生の人数は、1世帯を除き「1人」
  - ・性別は、「女性」が6割、「男性」が4割
  - ・中学生の学年は、「1年生」が4割と最も多い
  - ・高校生の学年は、「1年生」「2年生」とも5割弱
  - ・中学生が志望する高校は、「深川西高校」が5割と最も多い
  - ・高校生が通学する学校は、「深川西高校」が5割弱と最も多い
  - ・中学生は、2割弱が自宅からの通学を考えていない
  - ・中学生は、4割強がクラブ・サークルへの所属を希望
  - ・高校生は、7割強がクラブ・サークルへ所属
  - ・クラブ・サークルへ所属している高校生の帰宅時間帯は、「19時台」が7割
- 【利用交通手段】**
- ・中学生が滝川市内の高校に通学する場合は、「北竜追分線」が5割強
  - ・同様に深川市内の高校に通学する場合は、「(深川)北竜線」が8割弱
  - ・高校生が滝川市内の高校に通学する場合は、「北竜追分線」が7割強
  - ・同様に深川市内の高校に通学する場合は、「(深川)北竜線」が9割弱
  - ・同様にその他地域の高校に通学する場合、「留萌旭川線」が5割
- 【自宅とバス停間の交通手段】**
- ・夏期、冬期とも「徒歩」がそれぞれ7割強、8割と最も多い

- ・仮に「(深川) 北竜線」が取りやめになる場合の代替交通手段は、「1. 北竜追分線」が4割強と最も多い

**【自由意見】**

- ・中学生が6件、高校生が7件の自由意見があった

## (7) 一般アンケート調査結果

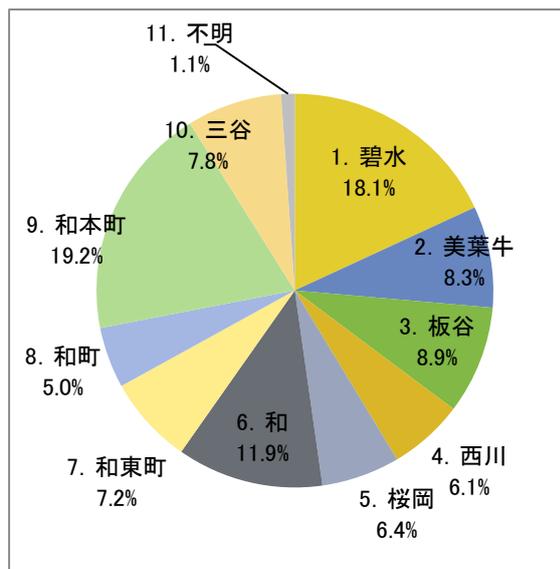
### 問1 お住まいの地域、ご家族の構成、年齢等をお答えください。

Q1 お住まいの「地域」をお答えください。(一つに○)

回答世帯の居住地は、「9. 和本町」が2割、「1. 碧水」が2割弱及び「6. 和」が1割強となっています。

図表 回答世帯の居住地

回答項目	件数
1. 碧水	65
2. 美葉牛	30
3. 板谷	32
4. 西川	22
5. 桜岡	23
6. 和	43
7. 和東町	26
8. 和町	18
9. 和本町	69
10. 三谷	28
11. 不明	4
合計	360

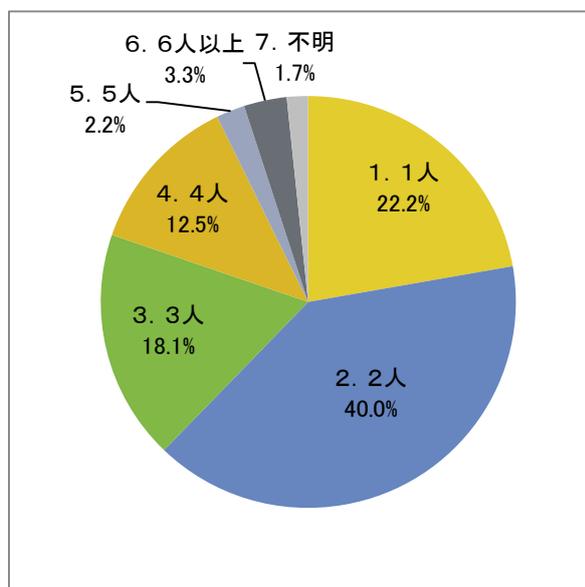


Q2 世帯の「人数」をお答えください。(一つに○、必要な内容を記載)

回答世帯の人数は、「2人」が4割と最も多く、続いて「1人」が2割強、「3人」が2割弱となっています。

図表 回答世帯の人数

回答項目	件数
1. 1人	80
2. 2人	144
3. 3人	65
4. 4人	45
5. 5人	8
6. 6人以上	12
7. 不明	6
合計	360

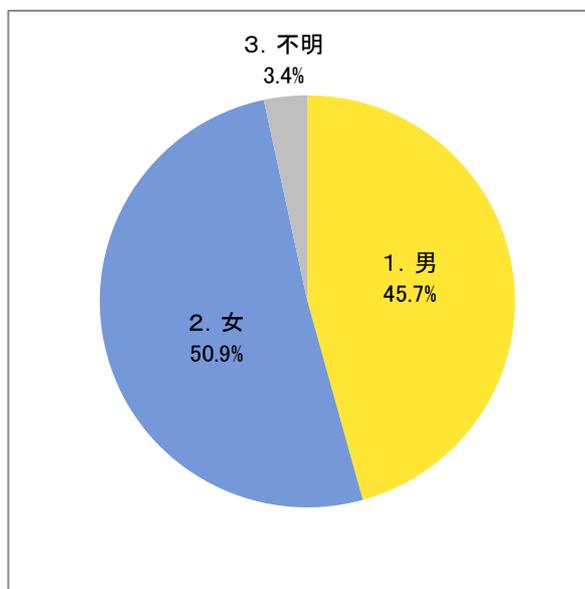


Q 3 性別をお答えください。(それぞれ一つに○)

回答者（以降は「回答者」にて集計）の性別は、「2. 女性」が5割、「1. 男性」が5割弱となっています。

図表 回答者の性別

回答項目	回答者数
1. 男	351
2. 女	391
3. 不明	26
合計	768

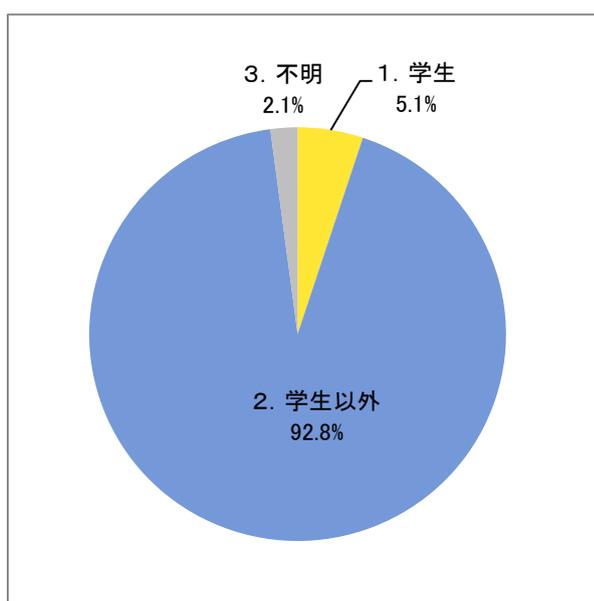


Q 4 学生・学生以外のいずれかをお答えください。(それぞれ一つに○)

就学の有無は、「2. 学生以外」が9割強となっています。

図表 回答者の就学の有無

回答項目	回答者数
1. 学生	39
2. 学生以外	713
3. 不明	16
合計	768

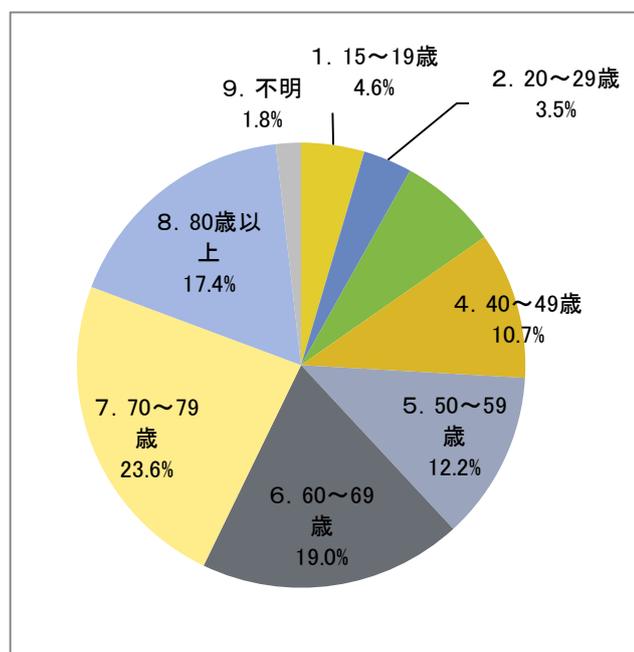


Q 5 年齢区分をお答えください。(それぞれ一つに○)

年齢区分は、「70～79歳」が2割強と最も多く、続いて「60～69歳」と「80歳以上」が2割弱となっています。

図表 回答者の年齢区分

回答項目	回答者数
1. 15～19歳	35
2. 20～29歳	27
3. 30～39歳	55
4. 40～49歳	82
5. 50～59歳	94
6. 60～69歳	146
7. 70～79歳	181
8. 80歳以上	134
9. 不明	14
合計	768

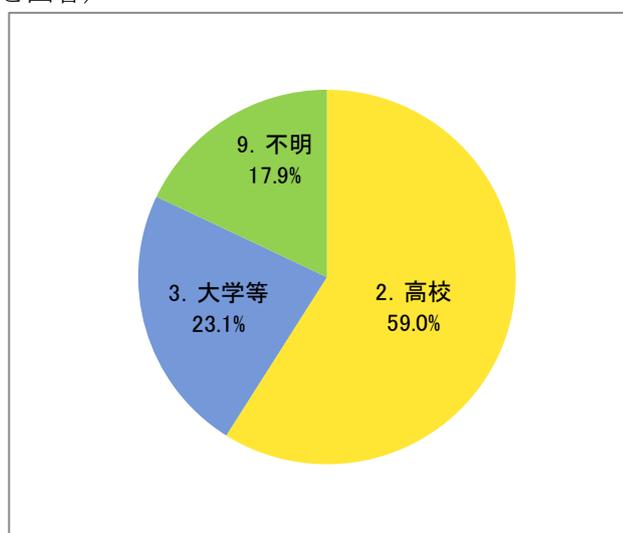


Q 6 学生の区分をお答えください(社会人等の方は「1. 該当なし」に○)。

Q 4で「学生」と回答した人の学生区分は、「2. 高校」が6割弱、「3. 大学等」が2割強となっています。

図表 回答者の学生区分 (Q 4で「学生」と回答)

回答項目	回答者数
1. 該当なし	729
2. 高校	23
3. 大学等	9
9. 不明	7
合計	768



※「1. 該当なし」を除く

## 問2 自家用車の運転や利用状況についてお聞きします。

Q7 運転免許証をお持ちですか。(それぞれ一つに○)

運転免許証の保有状況は、「1. 保有」が7割強となっており、これを年齢階層別に見ると、「3. 30～39歳」から「6. 60～69歳」までが9割以上、「7. 70～79歳」は8割弱、「8. 80歳以上」では3割強となっています。

図表 回答者の運転免許証の保有状況

回答項目	回答者数
1. 保有	573
2. 非保有	174
3. 不明	21
合計	768

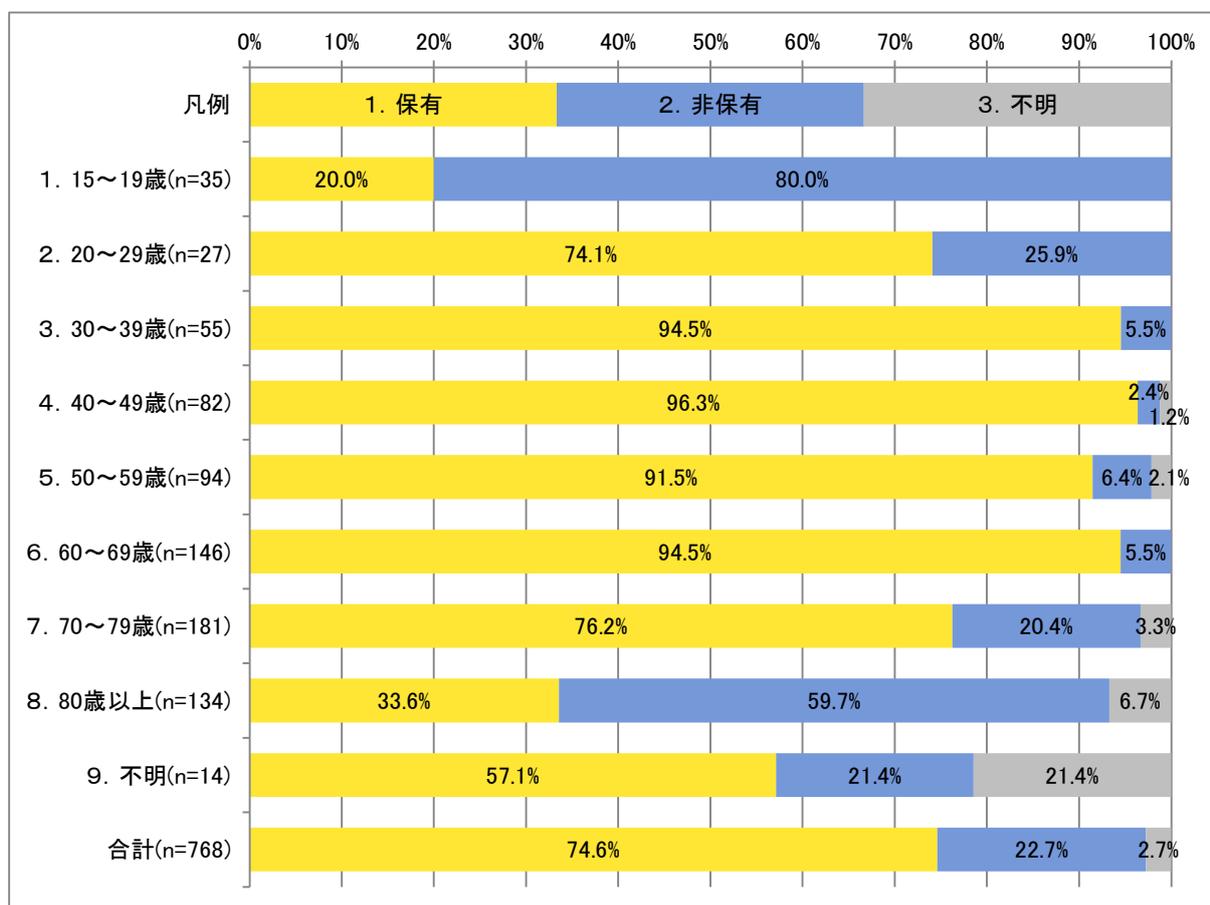
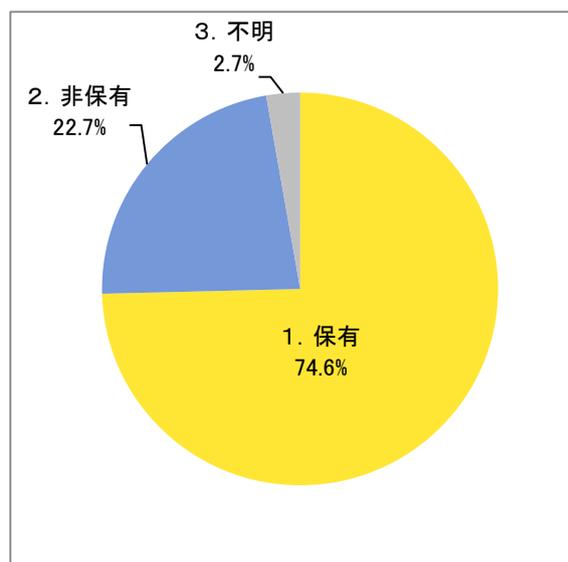


図 運転免許証の保有状況 (年齢階層別)

Q 8 自家用車の使用状況をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

自家用車の使用状況は、「1. 自ら所有の車を運転」が6割弱と最も多く、続いて「2. 家族所有の車を運転」が2割弱、「3. 家族等が運転する車に乗車」が1割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 自ら所有の車を運転」は、「3. 30～39歳」から「6. 60～69歳」が7割前後に対し、「7. 70～79歳」は5割強、「8. 80歳以上」では3割弱となっています。「8. 80歳以上」では「3. 家族等が運転する車に乗車」と「4. 車は使用しない」が「1. 自ら所有の車を運転」と同率程度(3割弱)となっています。

図表 回答者の自家用車使用の状況

回答項目	回答者数
1. 自ら所有の車を運転	423
2. 家族所有の車を運転	134
3. 家族等が運転する車に乗車	96
4. 車は使用しない	57
5. 不明	58
合計	768

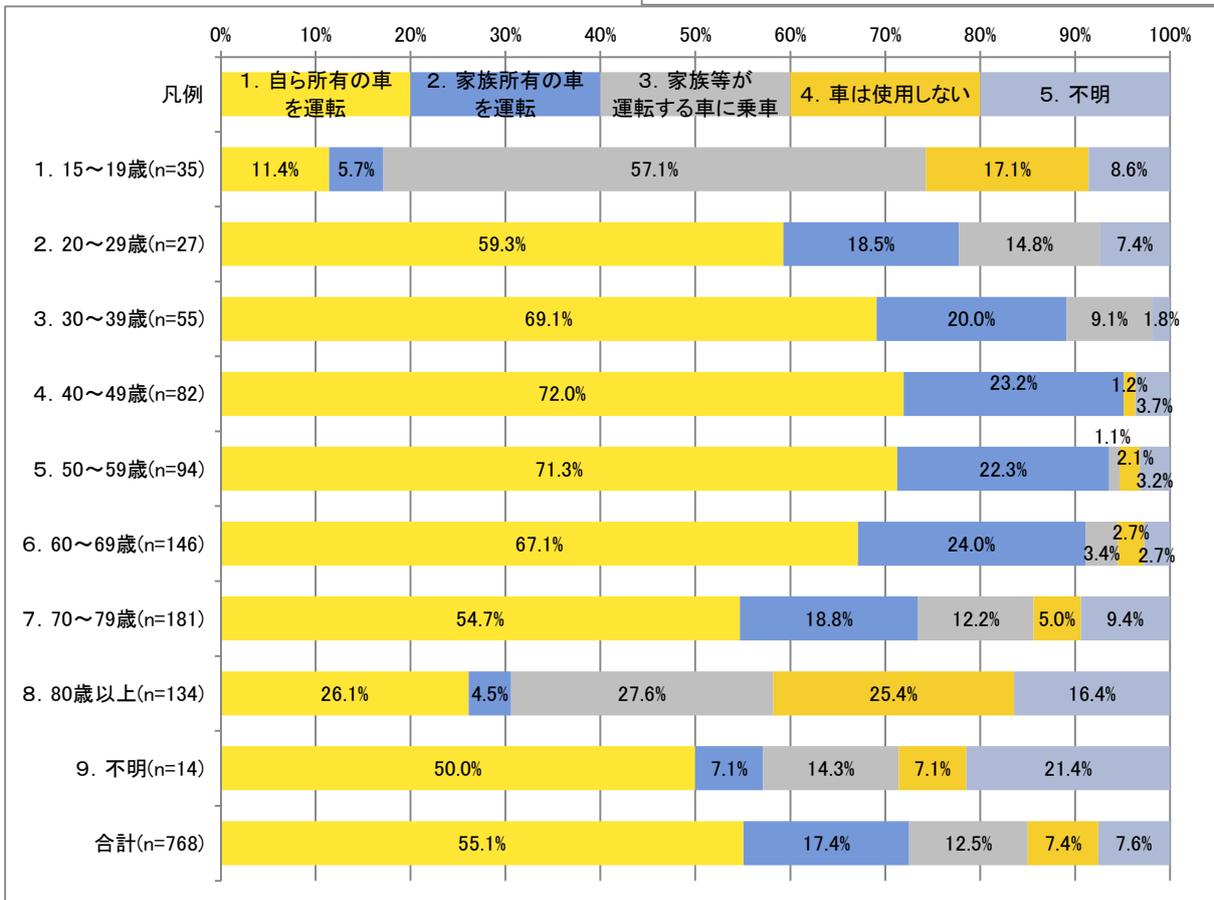
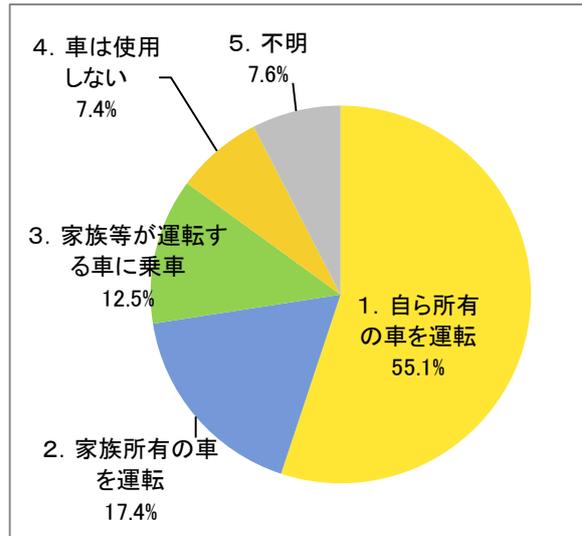


図 自家用車使用の状況 (年齢階層別)

Q9 あなたは自分の運転テクニックで事故を回避する自信がありますか。

事故を回避できる自信については「2. 自信がある」を回答した方は6割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「2. 20～29歳」から「7. 70～79歳」まで6割前後が「2. 自信がある」としています。また「8. 80歳以上」でも半数以上が「2. 自信がある」としています。

図表 回答者の事故を回避できる自信の状況

回答項目	回答者数
1. 運転免許を持っていない・運転しない	170
2. 自信がある	372
3. 自信がない	175
4. 不明	51
合計	768

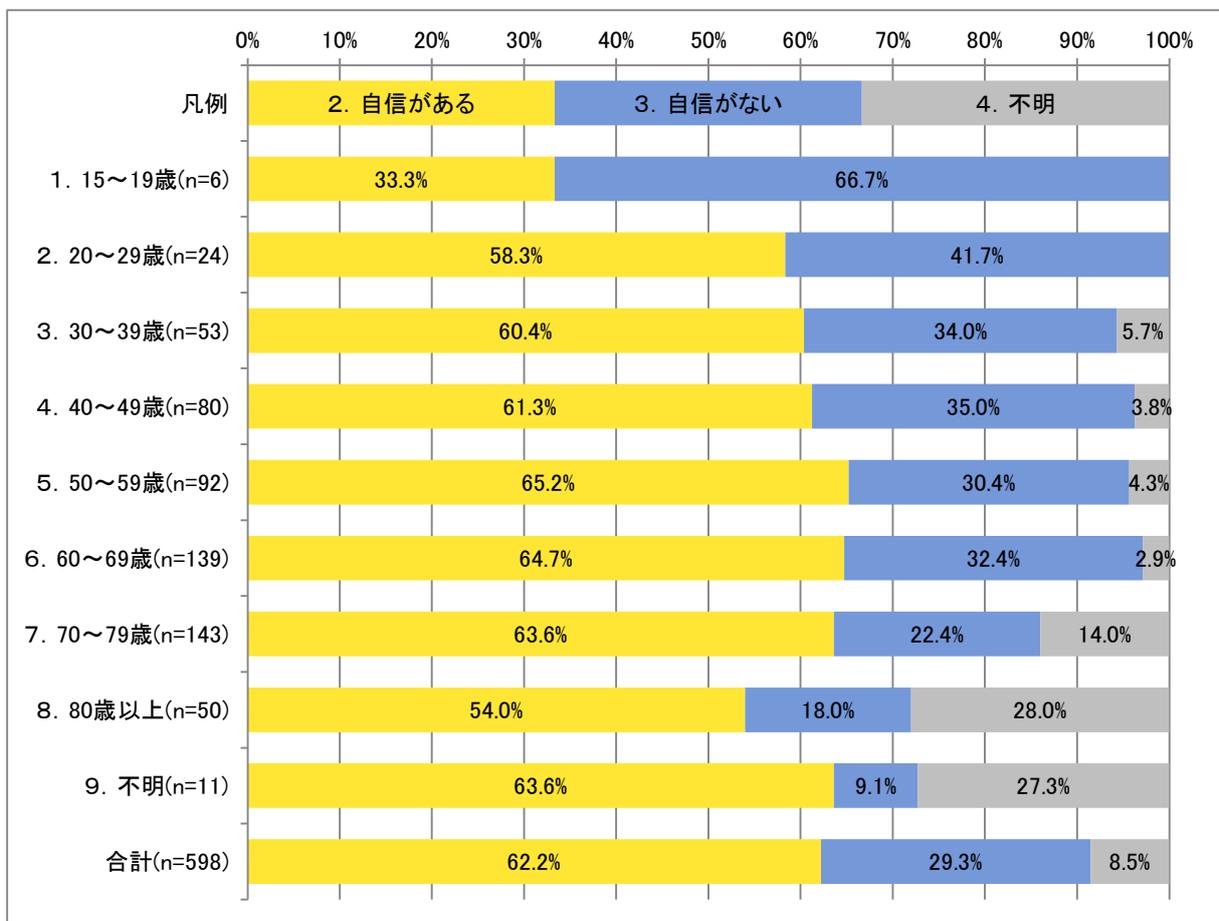
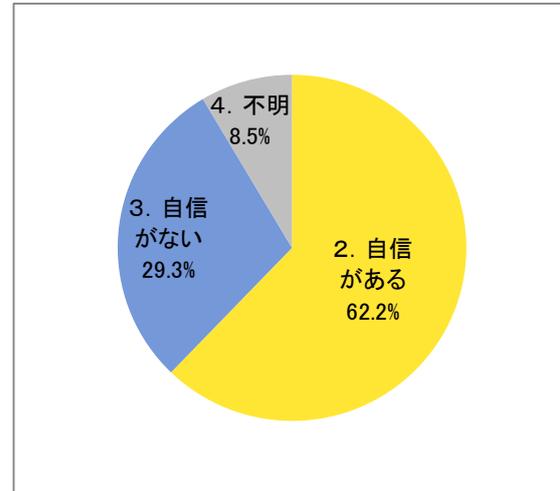


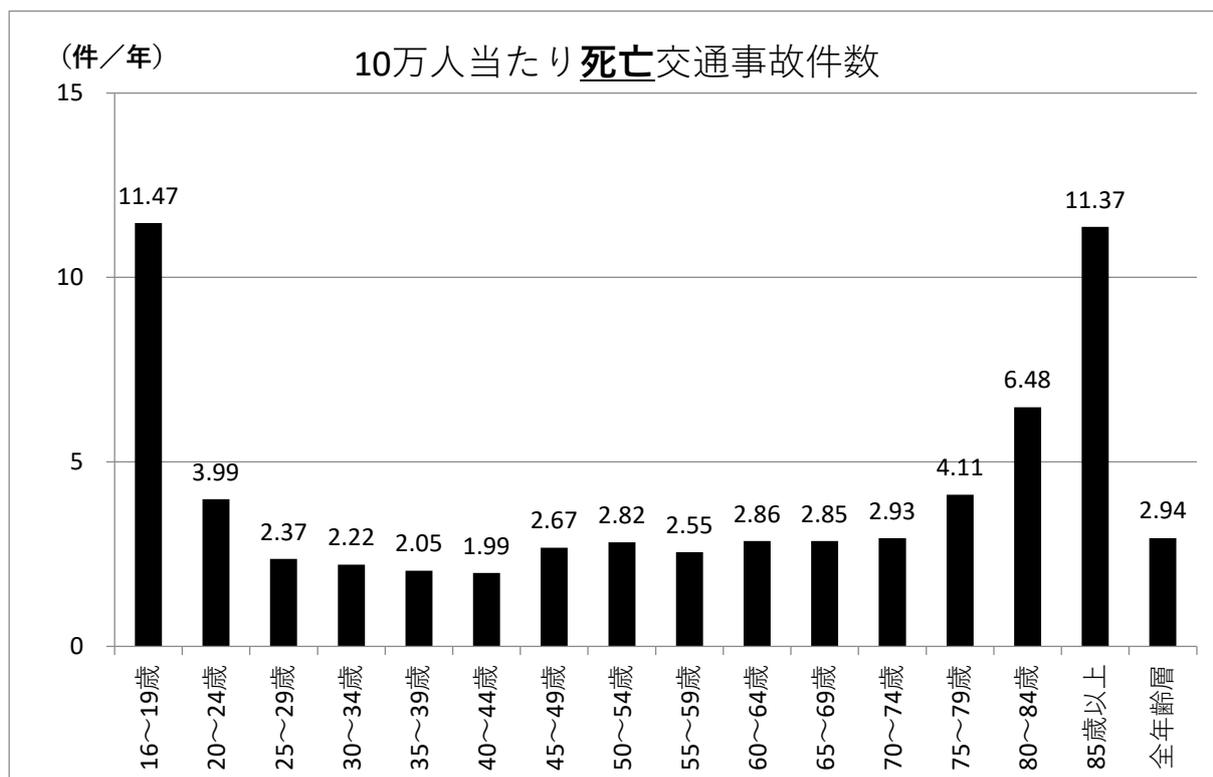
図 事故を回避できる自信の状況 (年齢階層別)

※「1. 運転免許を持っていない・運転しない」を除く

(参考) 原付以上運転者（第1当事者）の年齢層別免許保有者10万人当たり死亡事故件数の推移

参考までに令和2年における年齢別10万人当たり死亡事故件数は以下のとおりです。

事故を回避できる運転テクニックへの自信は年齢別に見ても変わらないことに対し、死亡事故件数は75歳以上で件数が多くなる傾向を示しています。



資料:令和3年2月18日 警察庁交通局

Q10 運転免許証の返納についてお答えください。

運転免許証の返納については、「2. 返納が必要な年齢ではない」が6割強と最も多く、続いて「3. 検討中」と「5. 返納は考えられない」が1割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「2. 返納が必要な年齢ではない」は、「2. 20～29歳」から「6. 60～69歳」までが8割以上となっています。これに対し「7. 70～79歳」と「8. 80歳以上」ではそれぞれ3割強、0割強となっており、「3. 検討中」と「4. 既に返納した」が増加している状況です。

図表 回答者の運転免許証返納の意向

回答項目	回答者数
1. 運転免許を持っていない・運転しない	115
2. 返納が必要な年齢ではない	410
3. 検討中	84
4. すでに返納済み	28
5. 返納は考えられない	74
6. 運転はしないが、証明書として保有しておきたい	5
7. 不明	52
合計	768

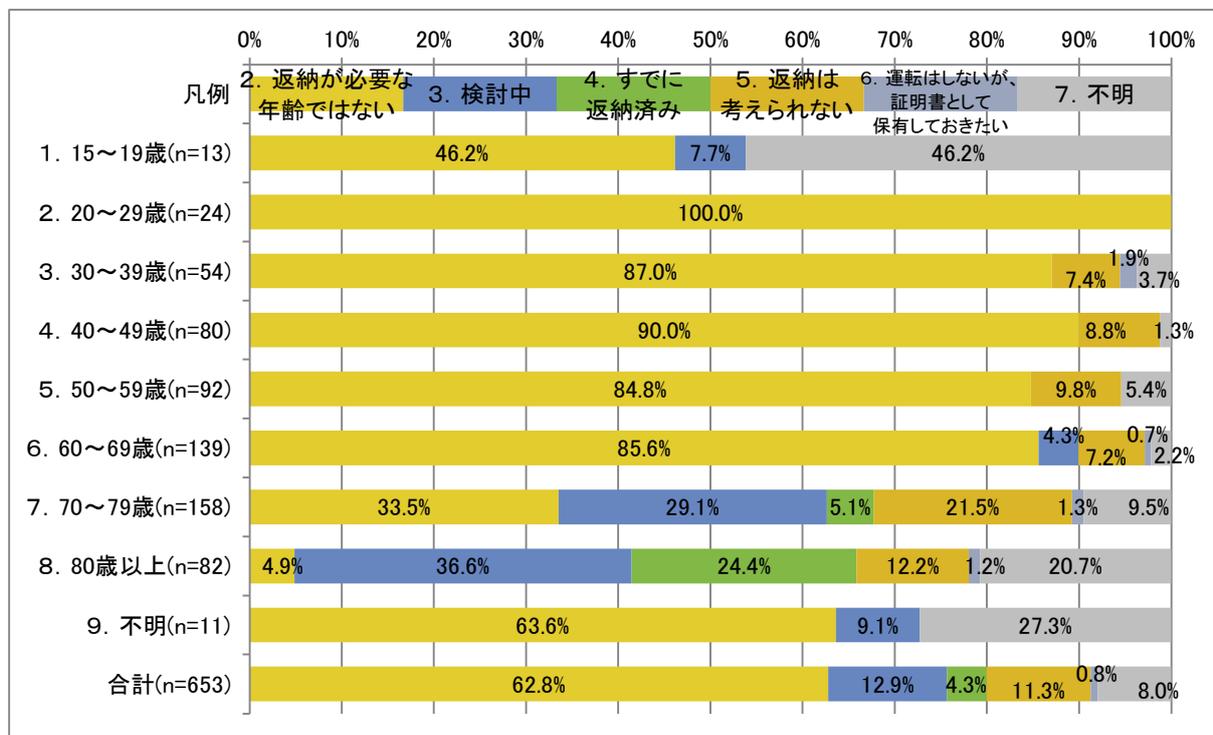
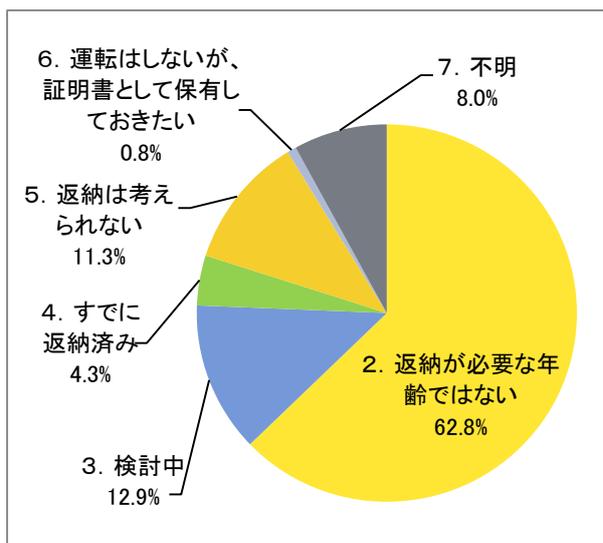


図 運転免許証返納の意向 (年齢階層別)

※「1. 運転免許を持っていない・運転しない」を除く

### 問3 公共交通の利用状況をお聞きします。

Q11 利用している公共交通をお答えください。

公共交通の利用状況は、「利用している」が6割弱、「ほとんど利用していない」が4割弱となっています。

利用している公共交通の内訳（複数回答可）は、「3. 中央バス高速るもい号（滝川経由）」が136件と最も多く、続いて「6. 空知中央バス（深川）北竜線」が109件、「1. JR函館本線」が101件の順となっています。

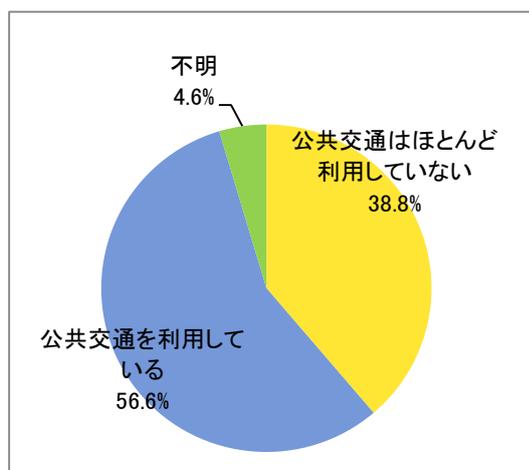


図 公共交通の利用の有無

表 利用している公共交通内訳

回答項目	回答者数
0. 公共交通はほとんど利用していない	419
1. JR函館本線	101
2. JR留萌線	1
3. 中央バス高速るもい号（滝川経由）	136
4. 中央バス高速るもい号（深川経由）	22
5. 中央バス滝川北竜線	70
6. 空知中央バス（深川）北竜線	109
7. 沿岸バス・道北バス留萌旭川線	57
8. タクシー・ハイヤー	53
9. 乗合タクシー	22
10. スクールバス美葉牛線	14
11. スクールバス竜西線	6
12. スクールバス碧水線	2
13. 生きがいディサービス送迎バス	16
14. 社会福祉協議会による移送サービス	3
15. その他（記述）	0
16. 不明	50
合計	1,081

Q12 最も利用している公共交通をお答えください。

最も利用している公共交通の内訳は、「1. JR函館本線」が81件と最も多く、続いて「3. 中央バス高速るもい号（滝川経由）」が68件、「6. 空知中央バス（深川）北竜線」が58件の順となっています。

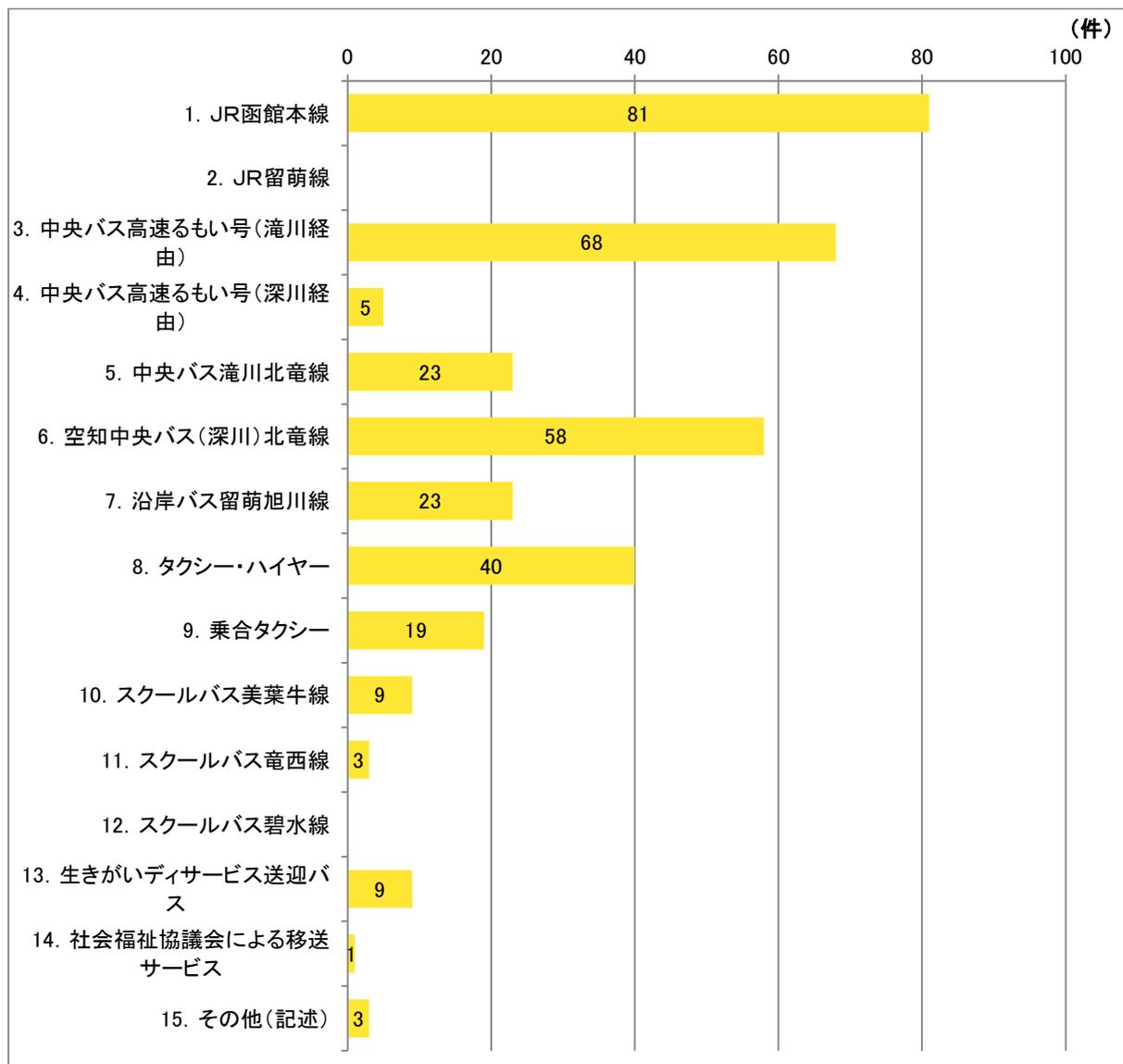


図 最も利用している公共交通内訳

Q13 中央バスの滝川北竜線についてお答えください。

①どのような目的で利用していますか。(選択肢から番号を全て選んで記載)

滝川北竜線の利用目的は、「3. 通院」が64件と最も多く、続いて「4. 買物」が51件、「5. 趣味・娯楽」が38件の順となっています。

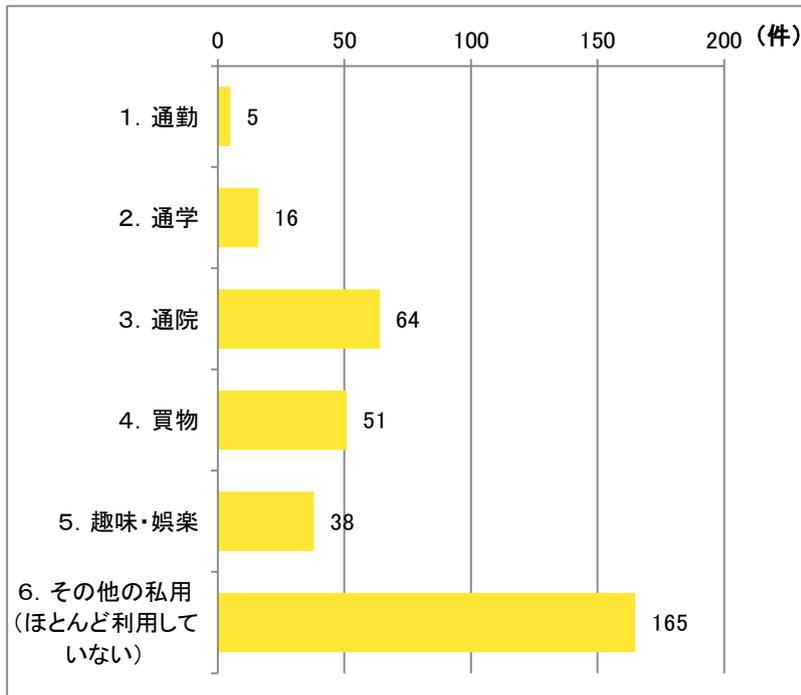


図 滝川北竜線の利用目的

②どのぐらいの頻度で利用していますか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

滝川北竜線の利用頻度は、「6. 年に数回」が7割強と最も多く、続いて「5. 月に数回」が1割強となっています。

これを利用目的別に見ると「1. 通勤」は「2. 週に4, 5回」、「2. 通学」は「1. ほとんど毎日」が多いことに対し、「3. 通院」、「4. 買物」、「5. 趣味・娯楽」及び「6. その他の私用」が「6. 年に数回」が多い状況となっています。

図表 滝川北竜線の利用頻度

回答項目	回答数
1. ほとんど毎日	11
2. 週に4, 5回	7
3. 週に2, 3回	17
4. 週に1回	4
5. 月に数回	36
6. 年に数回	230
7. 不明	12
合計	317

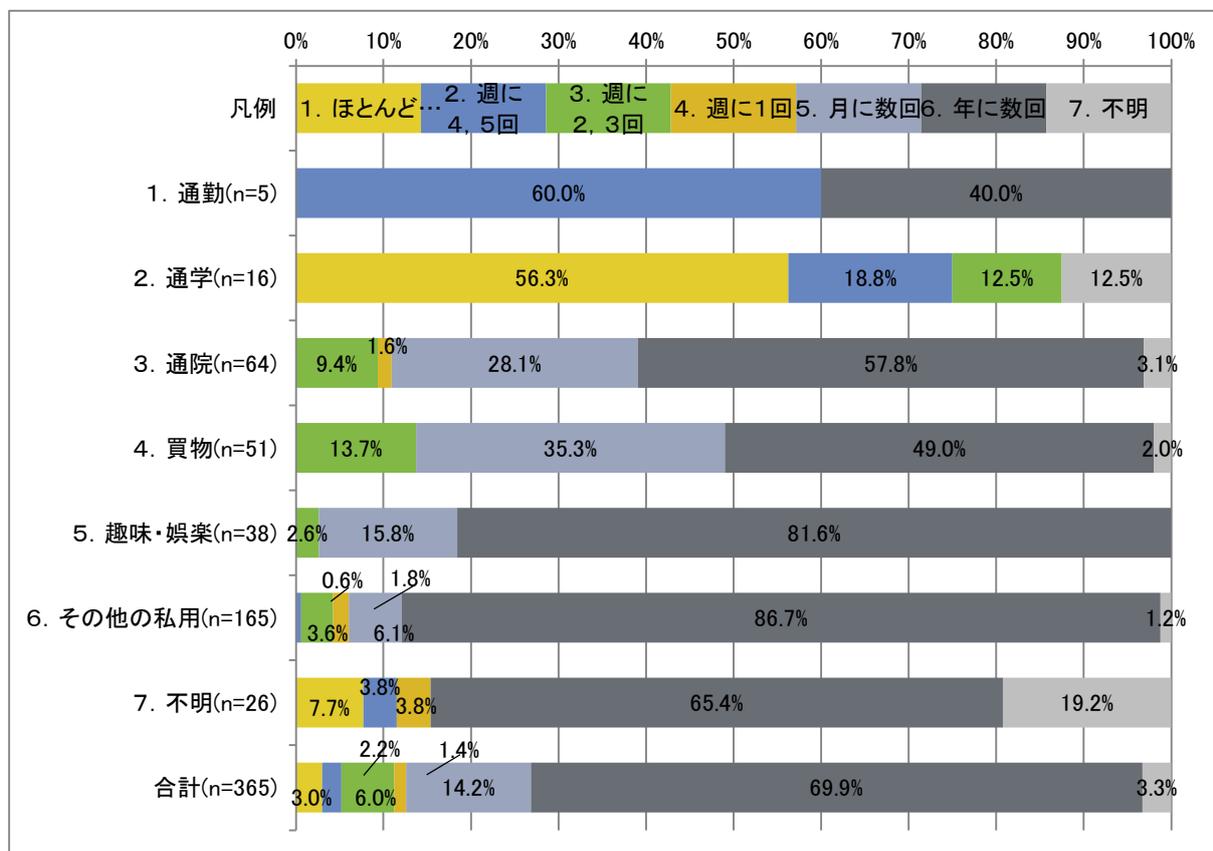
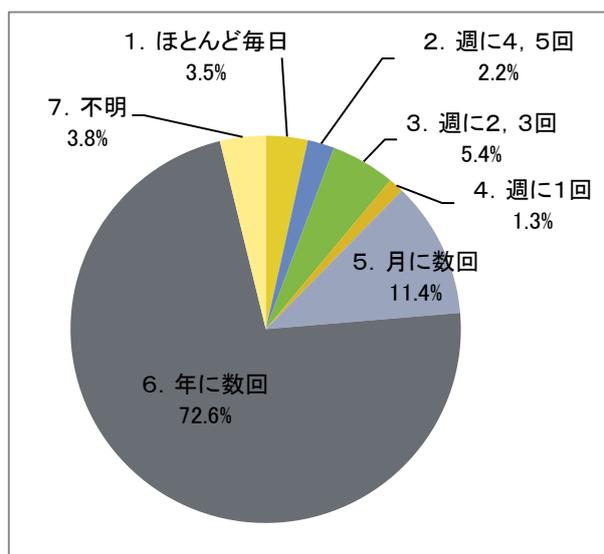


図 滝川北竜線の利用頻度（利用目的別）

③滝川北竜線が廃止（予定）になると困りますか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

仮に滝川北竜線が廃止になると困りますかとの問いに対しては、「1. まったく困らない」と「2. ほとんど困らない」が2割と多く、続いて「3. 少し困る」が2割弱となっています。

「4. 困る」と「5. 大変困る」は1割強となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」では「5. 大変困る」が最も多いものの、他の年齢階層では全体の傾向と同様の結果となっています。

図表 滝川北竜線が廃止（予定）

回答項目	回答数
1. まったく困らない	160
2. ほとんど困らない	150
3. 少し困る	134
4. 困る	99
5. 大変困る	95
6. 不明	130
合計	768

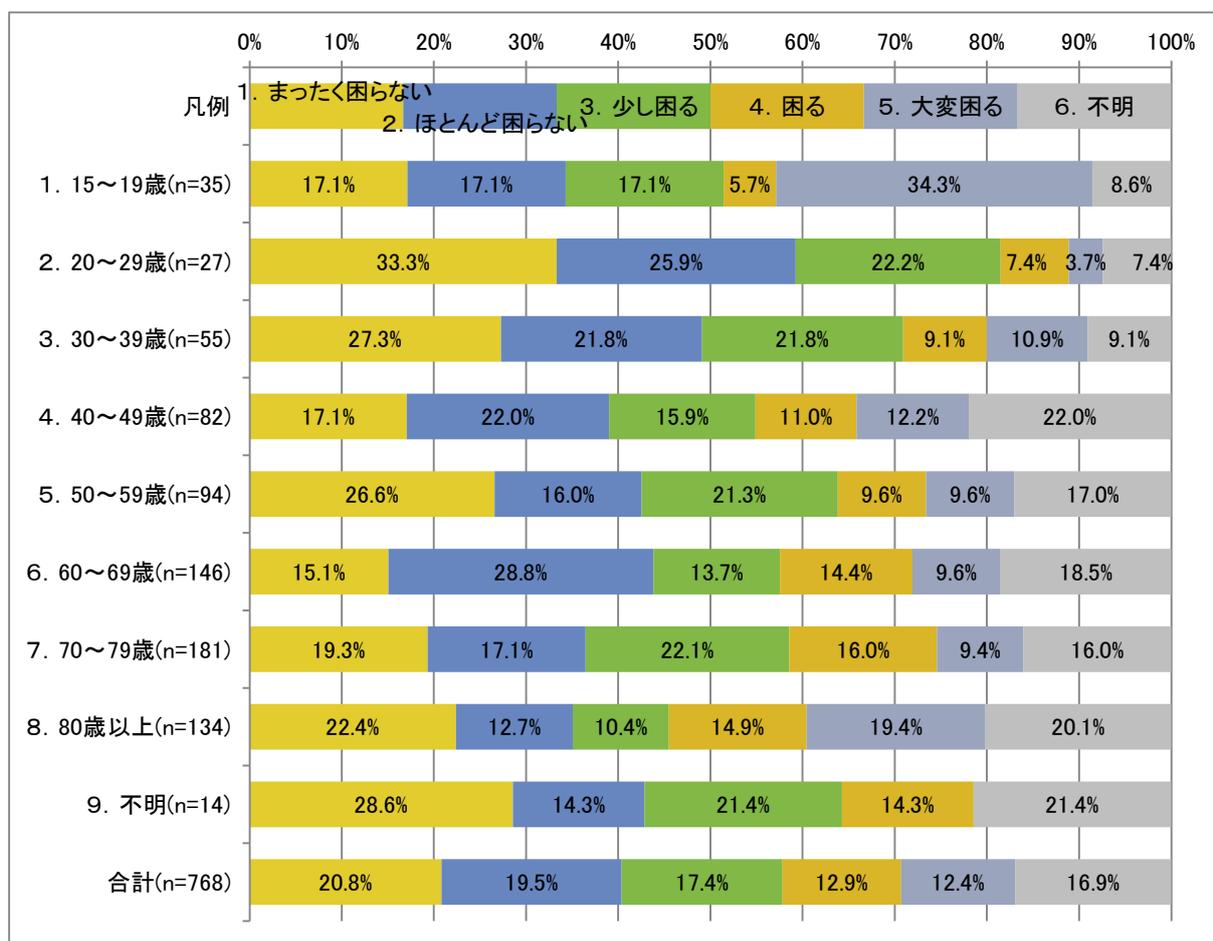
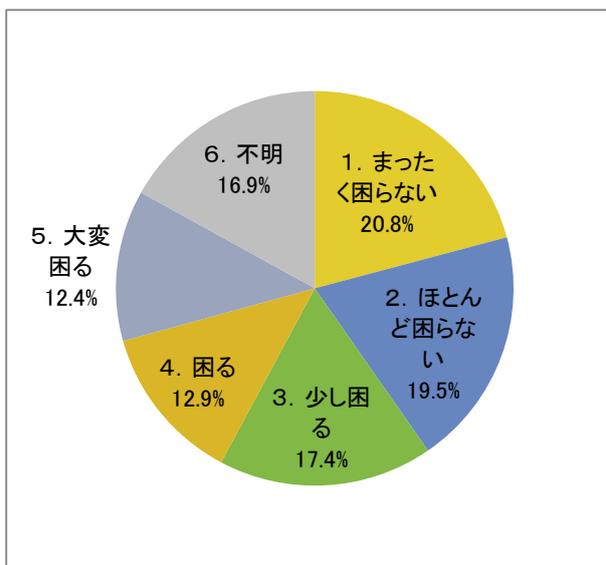


図 滝川北竜線が廃止（予定）（年齢階層別）

Q 1 4 空知中央バスの（深川）北竜線についてお答えください。

①どのような目的で利用していますか。（選択肢から番号を全て選んで記載）

（深川）北竜線の利用目的は「3. 通院」が108件と最も多く、続いて「4. 買物」が71件、「5. 趣味・娯楽」が26件の順となっています。

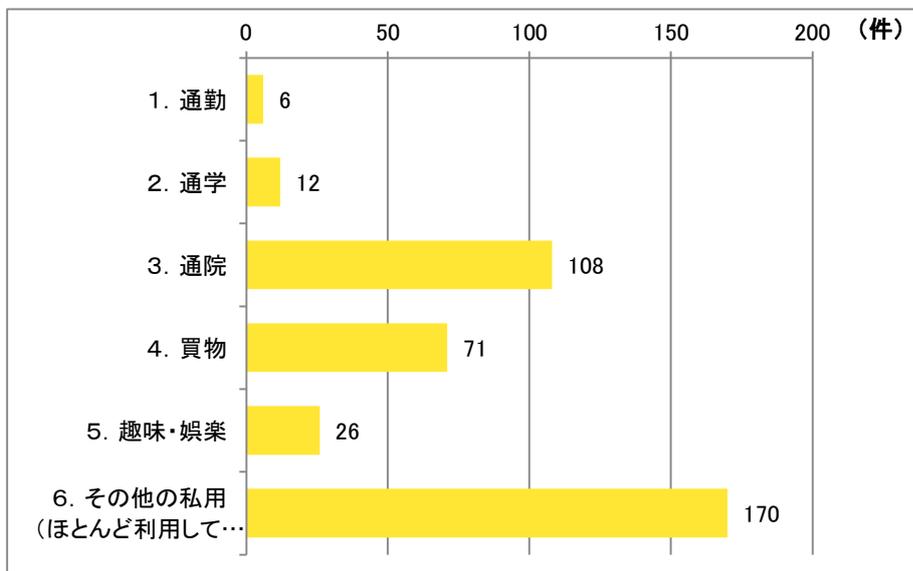


図 （深川）北竜線の利用目的

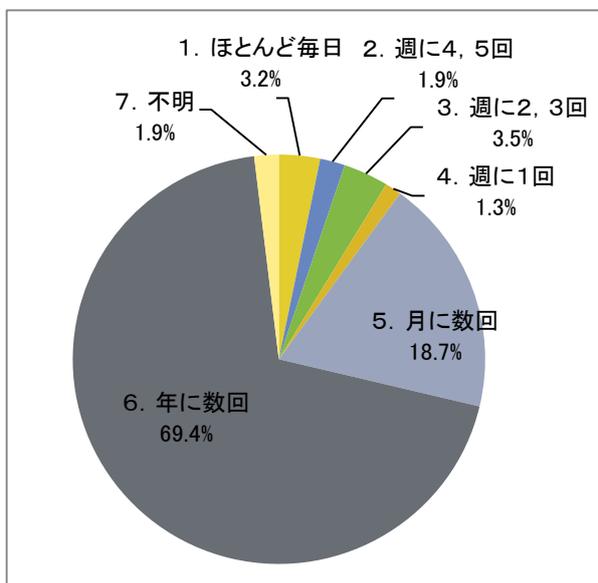
②どのぐらいの頻度で利用していますか。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

（深川）北竜線の利用頻度は、「6. 年に数回」が7割と最も多く、続いて「5. 月に数回」が2割弱となっています。

これを利用目的に見ると「1. 通勤」、「2. 通学」では「1. ほとんど毎日」がそれぞれ3割強、4割強となっているものの、「3. 通院」、「4. 買物」、「5. 趣味・娯楽」及び「6. その他使用」では「6. 年に数回」が最も多い状況となっています。

図表 （深川）北竜線の利用頻度

回答項目	回答数
1. ほとんど毎日	10
2. 週に4, 5回	6
3. 週に2, 3回	11
4. 週に1回	4
5. 月に数回	58
6. 年に数回	215
7. 不明	6
合計	310



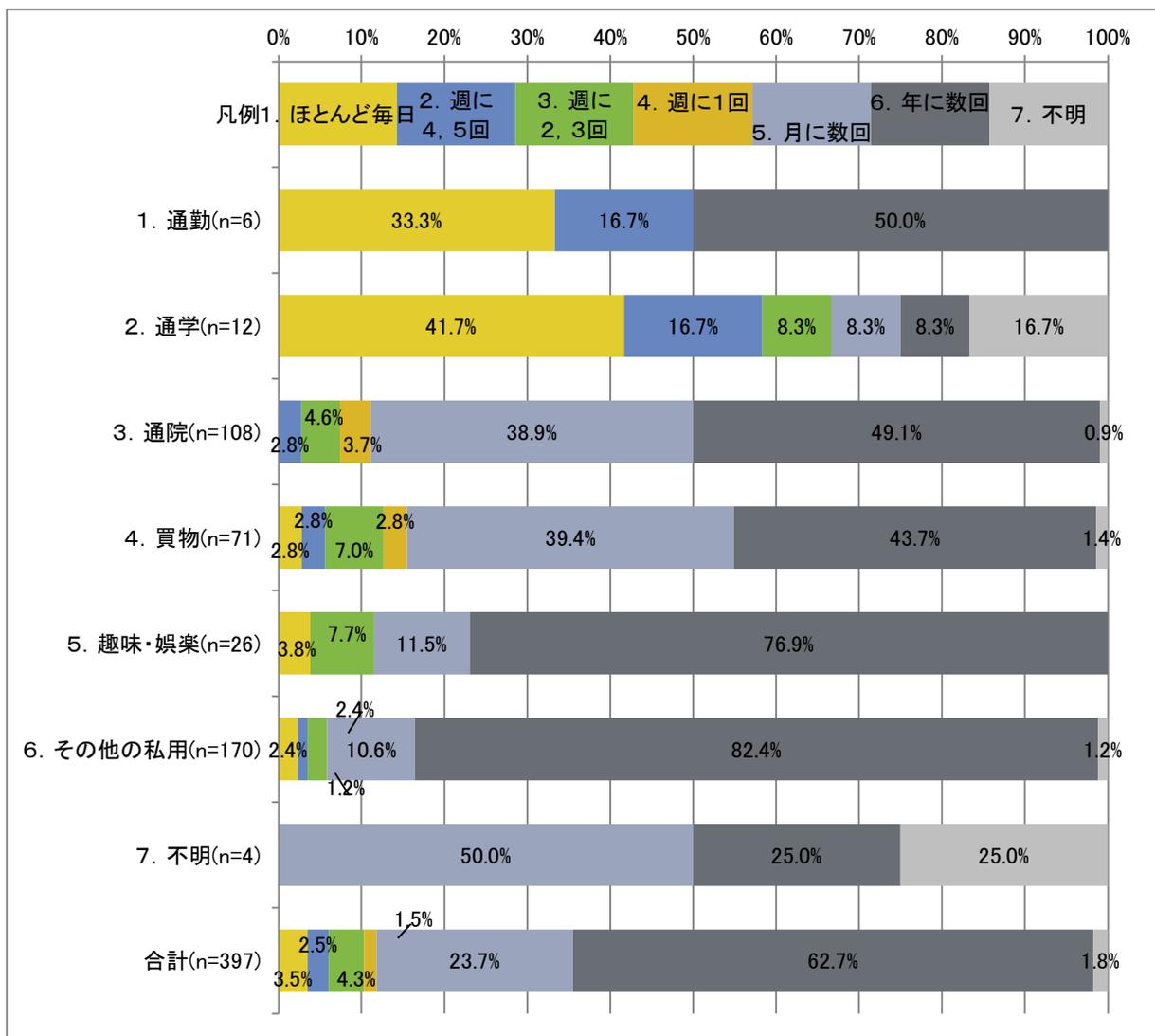


図 (深川) 北竜線の利用頻度 (利用目的別)

③ (深川) 北竜線が廃止 (想定) になると困りますか。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

仮に (深川) 北竜線が廃止になると困りますかとの問いに対しては、「1. まったく困らない」が2割弱と最も多く、他の選択肢は14%前後となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」では「4. 困る」、「8. 80歳以上」では「5. 大変困る」が最も多い状況となっているものの、他の年齢階層は全体と同様の傾向となっています。

図表 (深川) 北竜線が廃止 (想定)

回答項目	回答数
1. まったく困らない	146
2. ほとんど困らない	105
3. 少し困る	121
4. 困る	114
5. 大変困る	112
6. 不明	170
合計	768

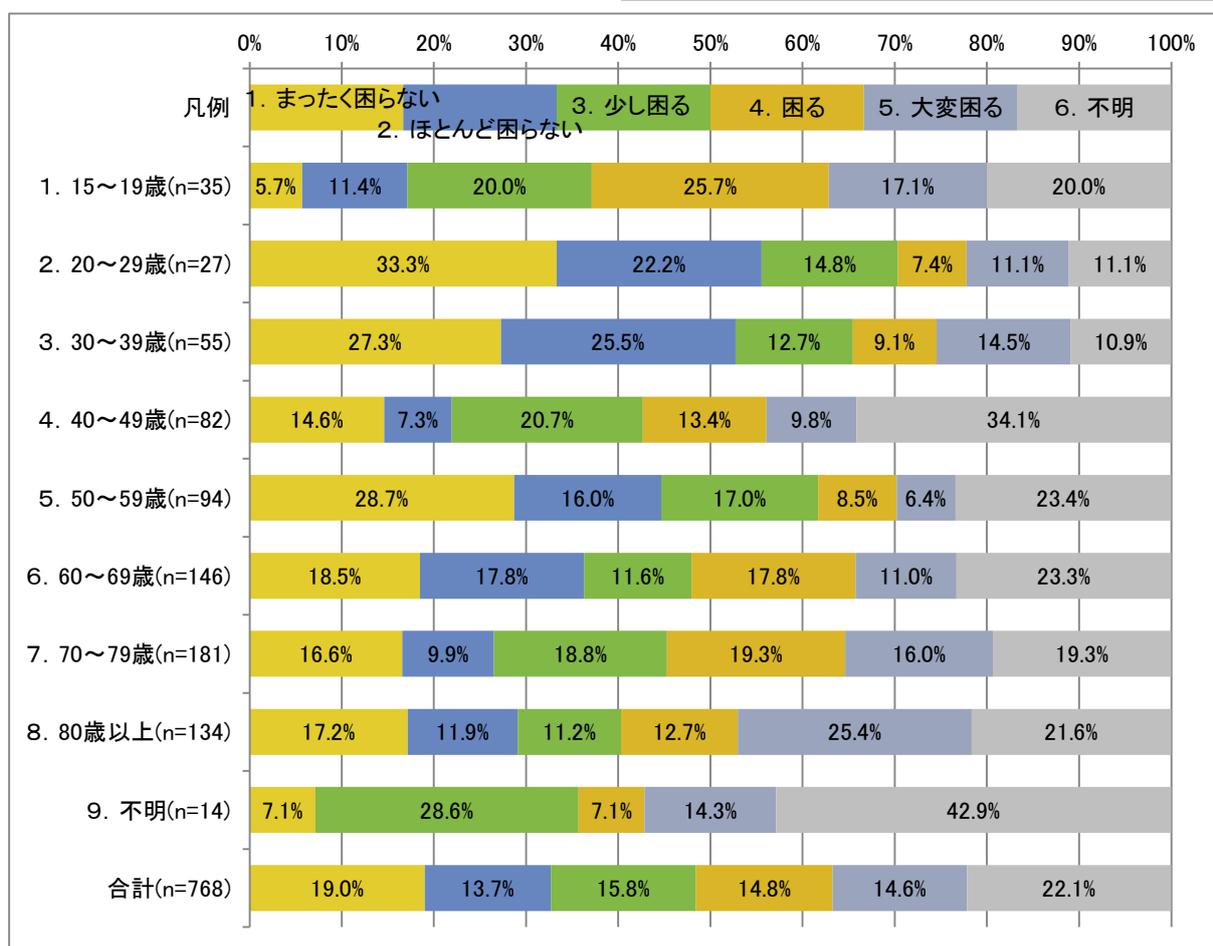
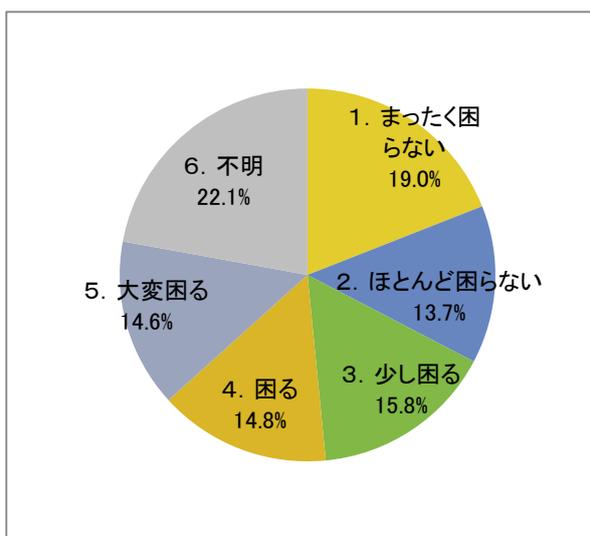


図 (深川) 北竜線が廃止 (想定) (年齢階層別)

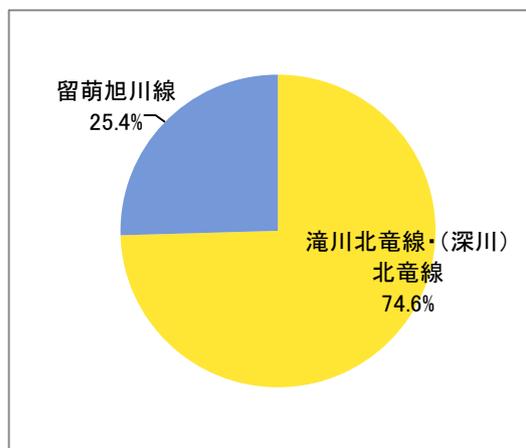
Q15 路線バスを利用する場合についてお聞きします。

①ご自宅の最寄りの停留所名をお答えください。(一つに○)

最寄りの停留所を運行経路である「中央バス滝川北竜線・空知中央バス(深川)北竜線」と「沿岸バス・道北バス留萌旭川線」の区分で見ると、「中央バス滝川北竜線・空知中央バス(深川)北竜線」が7割強を占めています。

図表 運行経路別の最寄りの停留所

項目	計
滝川北竜線・(深川)北竜線	296
留萌旭川線	101
合計	397



滝川北竜線・(深川)北竜線の最寄りのバス停留所は、「8. 北竜役場前」が112件と最も多く、続いて、「1. 碧水市街」が49件、「9. 和」が45件の順となっています。

留萌旭川線の最寄りのバス停留所は、「20. 碧水」が64件と最も多く、続いて「16. 美葉牛十字街」が15件となっています。



図 最寄りの停留所

(滝川北竜線・(深川)北竜線)

(留萌旭川線)

②最寄りの停留所までの歩行時間をお答えください。(それぞれ一つに○)

最寄りの停留所までの歩行時間は、「滝川北竜線・(深川)北竜線」が「留萌旭川線」よりも「1. ~5分」の回答率が高いため、「滝川北竜線・(深川)北竜線」の停留所までの徒歩アクセス性が高い状況です。

一方で、両バス路線とも「3. 16~30分」、「4. 31分以上」を回答した方が1割弱となっています。

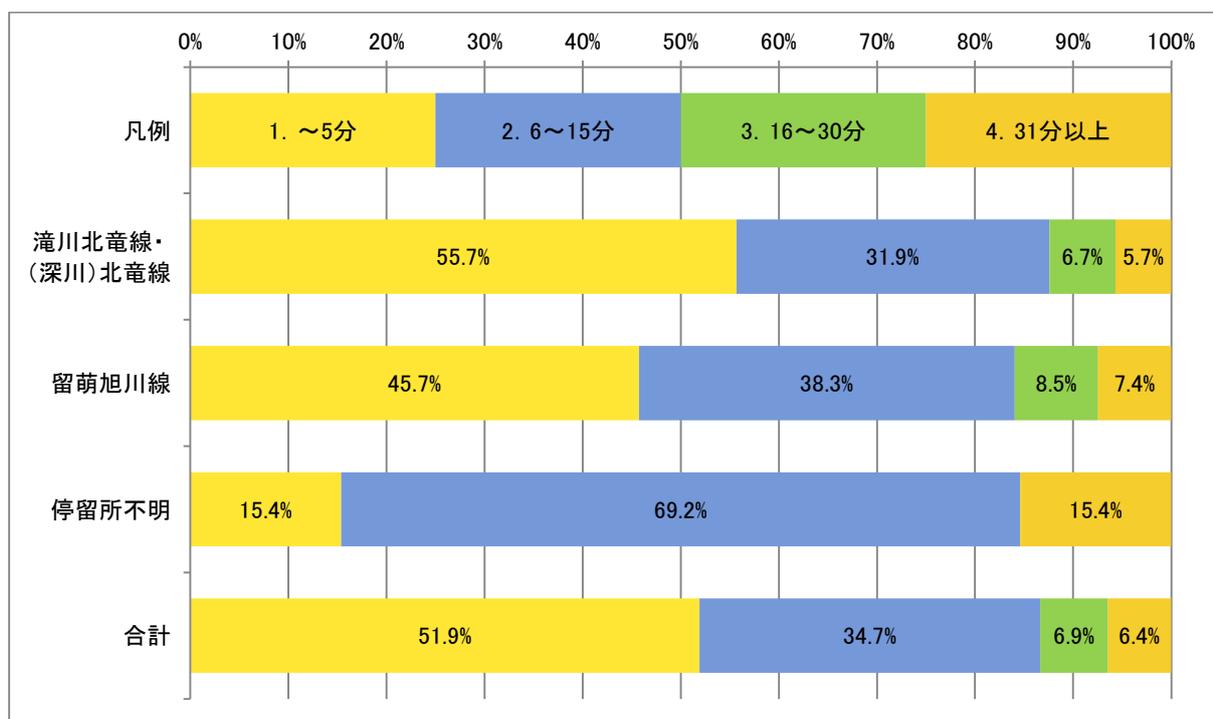


図 最寄りの停留所までの歩行時間

## 問4 交通実態

Q16 先週の一週間の外出状況についてお答えください。

①外出時間帯をお答えください。

・外出時間帯

平日の外出時間帯は、「8時台」が494件と最も多く、続いて「9時台」が260件、「7時台」が232件の順となっています。

土日の外出時間帯は、「10時台」が86件と最も多く、続いて「9時台」が78件、「8時台」と「13時台」が61件の順となっています。

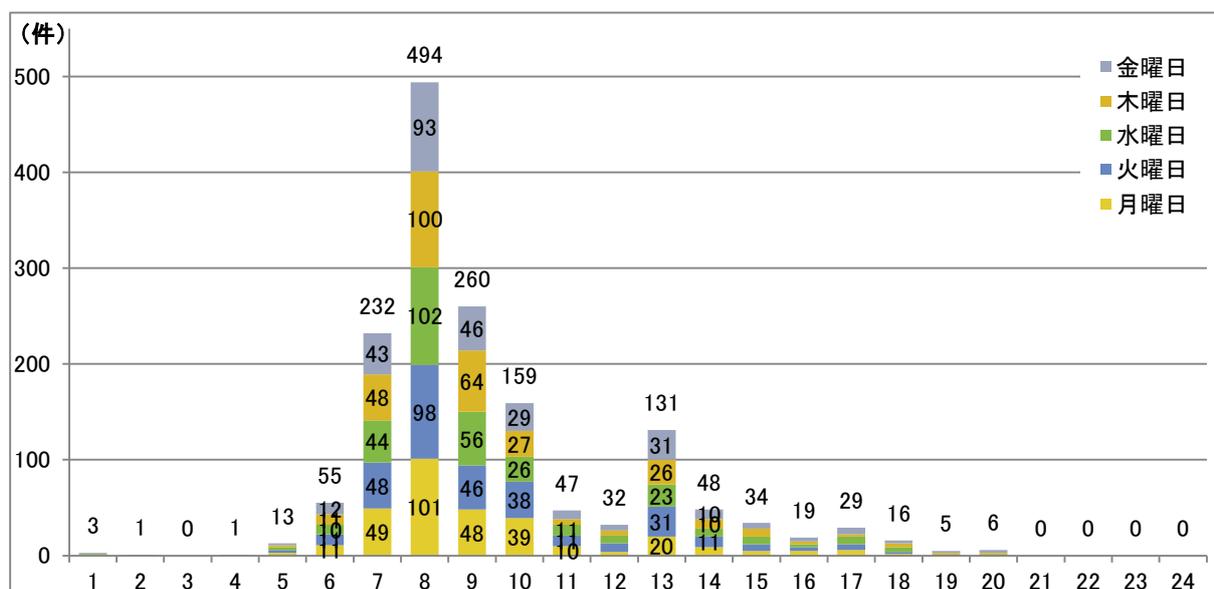


図 外出時間帯 (平日)

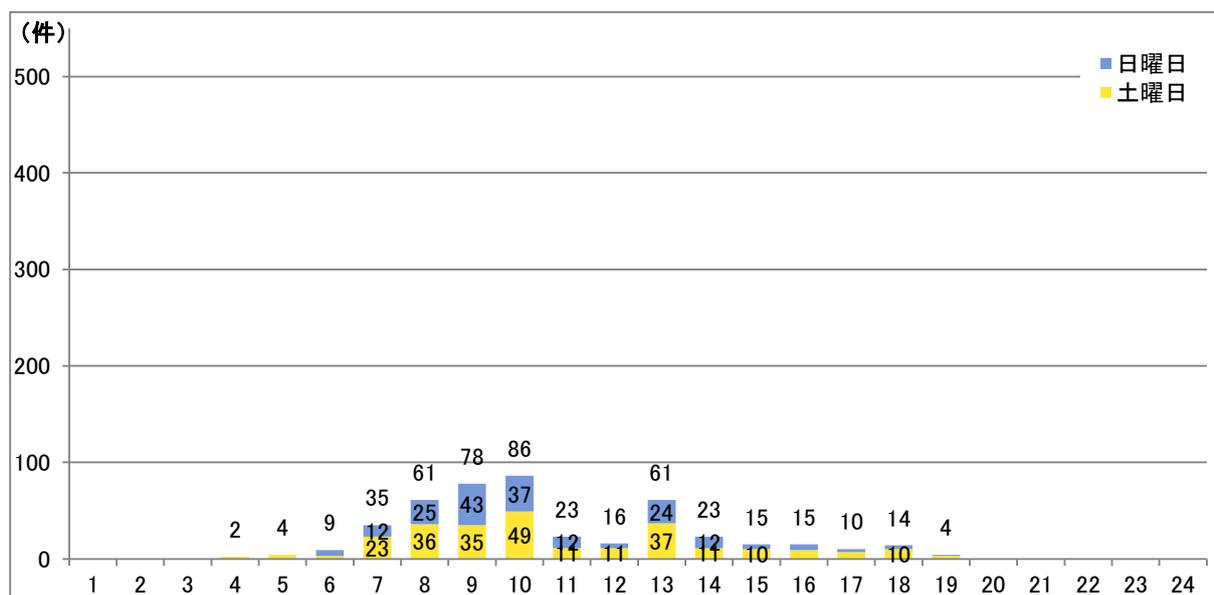


図 外出時間帯 (土日)

・帰宅時間帯

平日の帰宅時間帯は、「18時台」が381件と最も多く、続いて「17時台」が217件、「16時台」が177件の順となっています。

土日の帰宅時間帯は、「12時台」が69件と最も多く、続いて「18時台」が63件、「16時台」が56件の順となっています。なお平日と比較して帰宅時間帯が分散する状況となっています。

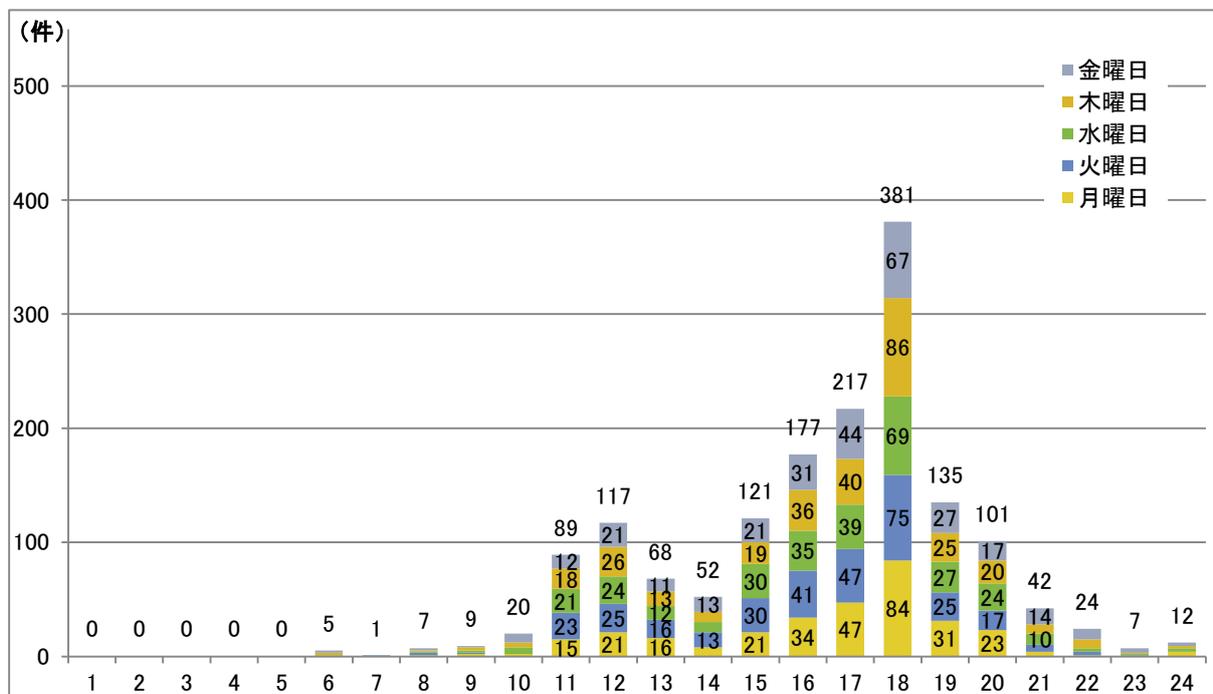


図 帰宅時間帯（平日）

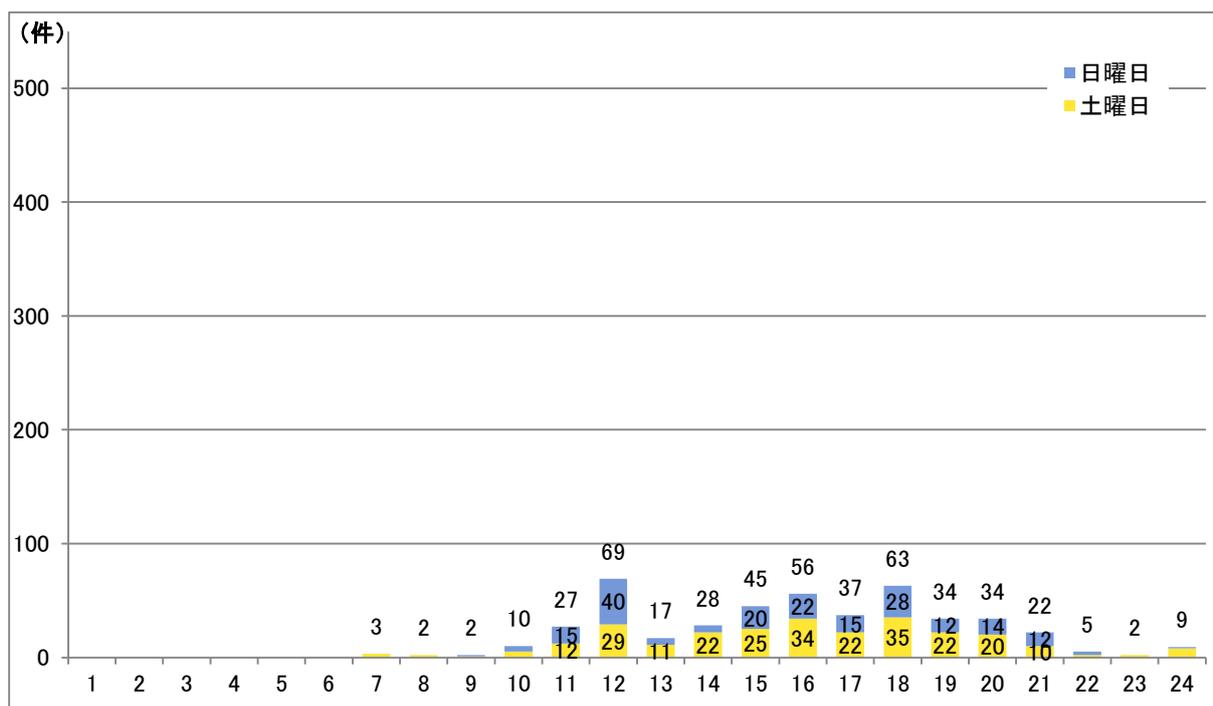


図 帰宅時間帯（土日）

②外出目的をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

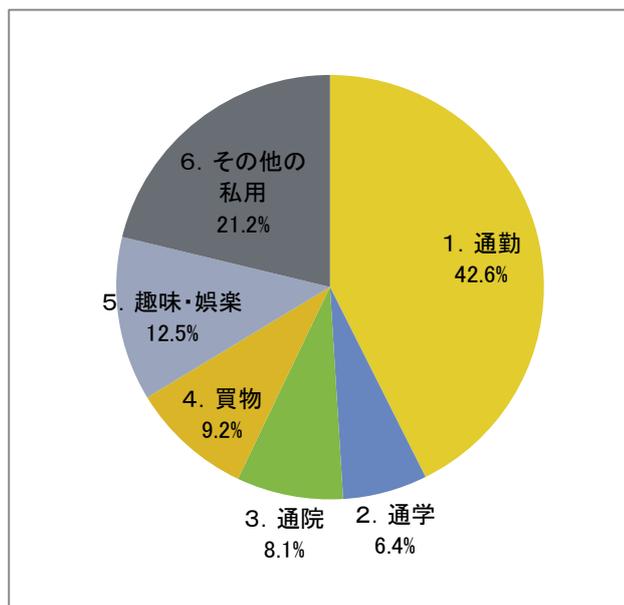
平日の外出目的は、「1. 通勤」が4割強と最も多く、続いて「6. その他の私用」が2割強、「5. 趣味・娯楽」が1割強の順となっています。

土日の外出目的は、「6. その他の私用」が3割強と最も多く、続いて「4. 買物」が3割、「5. 趣味・娯楽」と「1. 通勤」が2割弱の順となっています。

1週間平均を年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」は「2. 通学」が8割強、「2. 20～29歳」から「5. 50～59歳」までは「1. 通勤」が5割以上と最も多くなっています。なお、「6. 60～69歳」から「8. 80歳以上」は他の年齢階層と比較し、「3. 通院」、「4. 買物」及び「5. 趣味・娯楽」の構成比が高い状況となっています。

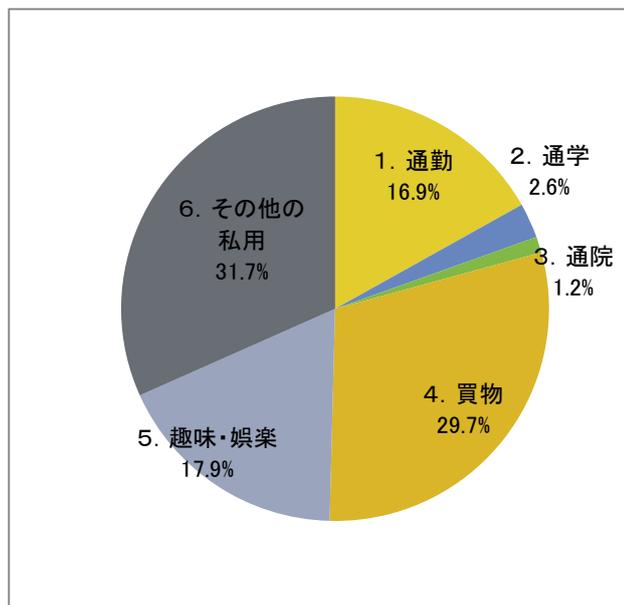
図表 外出目的（平日）

回答項目	回答数
1. 通勤	720
2. 通学	108
3. 通院	136
4. 買物	156
5. 趣味・娯楽	211
6. その他の私用	358
合計	1,689



図表 外出目的（土日）

回答項目	回答数
1. 通勤	83
2. 通学	13
3. 通院	6
4. 買物	146
5. 趣味・娯楽	88
6. その他の私用	156
合計	492



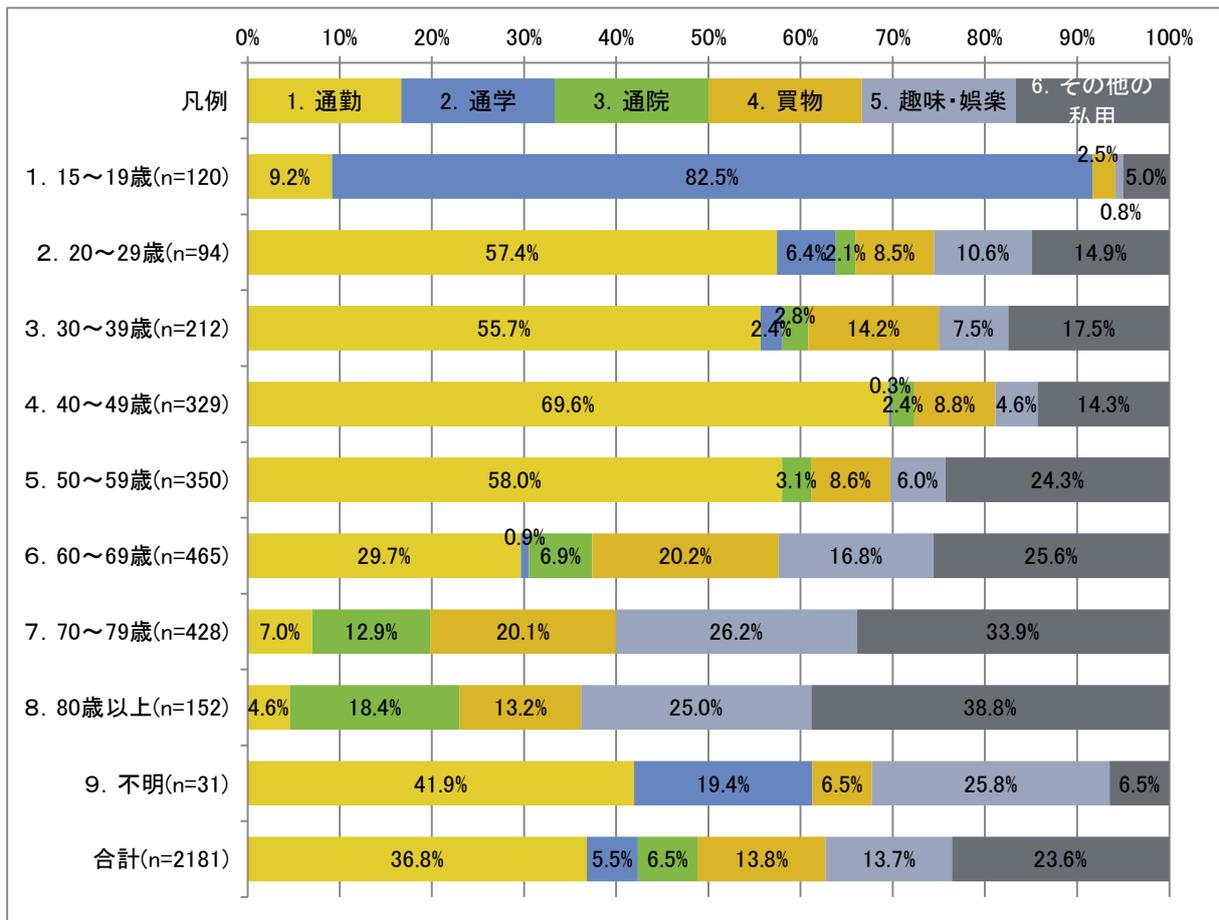


図 外出目的（1週間平均）（年齢階層別）

③交通手段をお答えください。(選択肢から番号を全て選んで記載)

交通手段は、「23. 自家用車(自ら運転)」が1,600件と最も多く、続いて「1～14. 公共交通・送迎バス」が405件、「24. 自家用車(同乗)」が325件の順となっています。

「1～14. 公共交通・送迎バス」の内訳は、「5. 中央バス滝川北竜線」が89件と最も多く、続いて「6. 空知中央バス(深川)北竜線」が79件、「3. 中央バス高速るもい号(滝川経由)」が45件の順となっています。

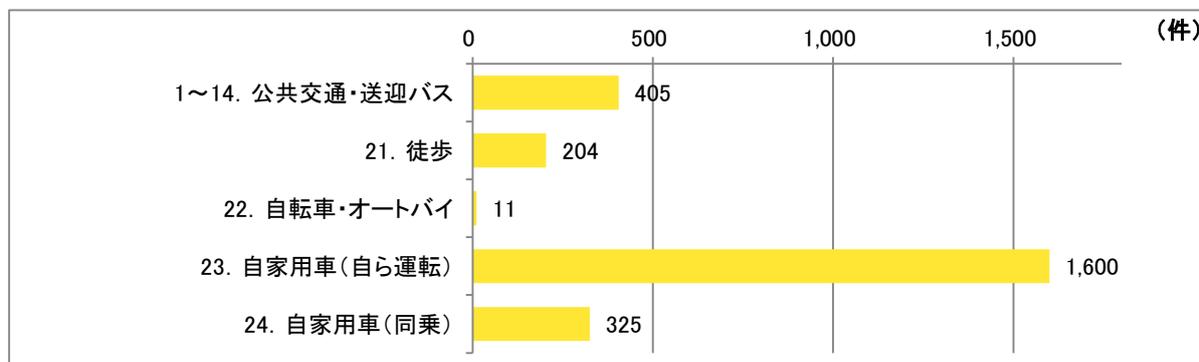


図 交通手段(全体)

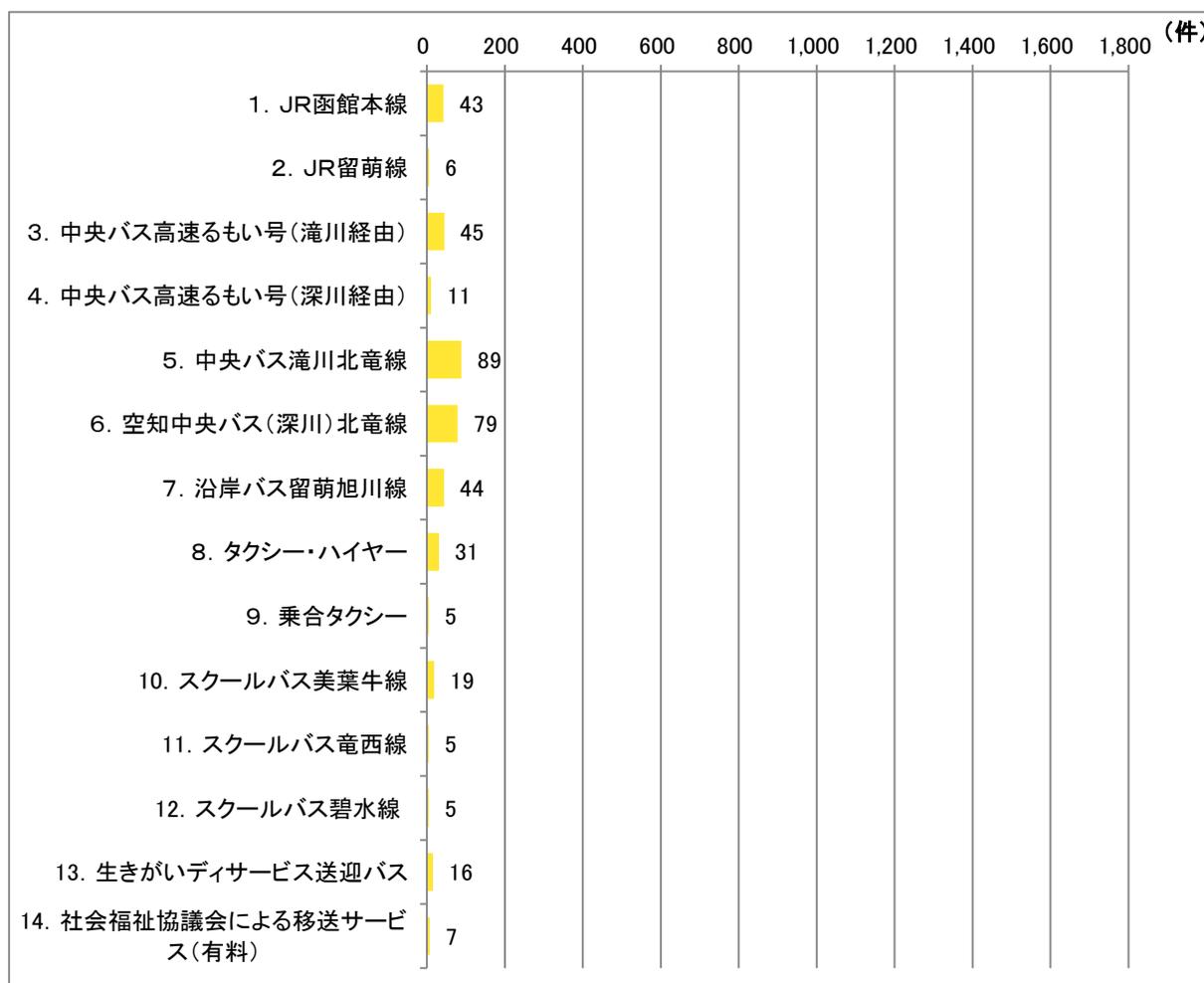


図 交通手段(「公共交通・送迎バス」の内訳)

④外出先（市町村名）をお答えください。（選択肢から番号を一つ選んで記載）

外出先は、「町外」が5割強で「北竜町内」は5割弱となっています。

町外の内訳は、「3. 深川市」が586件と最も多く、続いて「2. 滝川市」が270件、「7. 旭川市」が102件となっています。

図表 外出先

項目	計
北竜町内	1,100
町外	1,241
合計	2,341

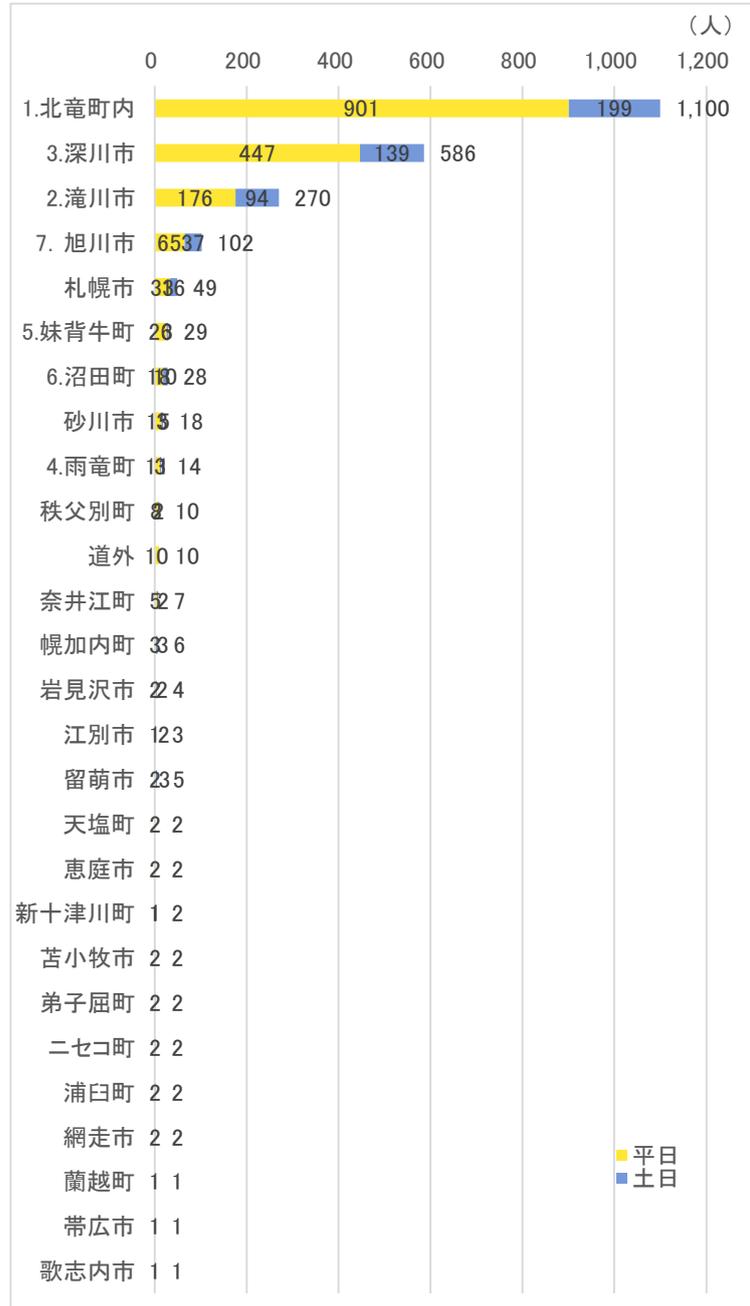
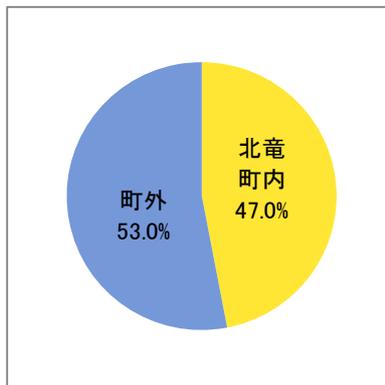


図 外出先（市町村名）

(参考) 交通分布

前述の(3)交通手段及び(4)外出先に回答者の居住地域を加え、交通量分布を以下のとおり整理します。

・平日

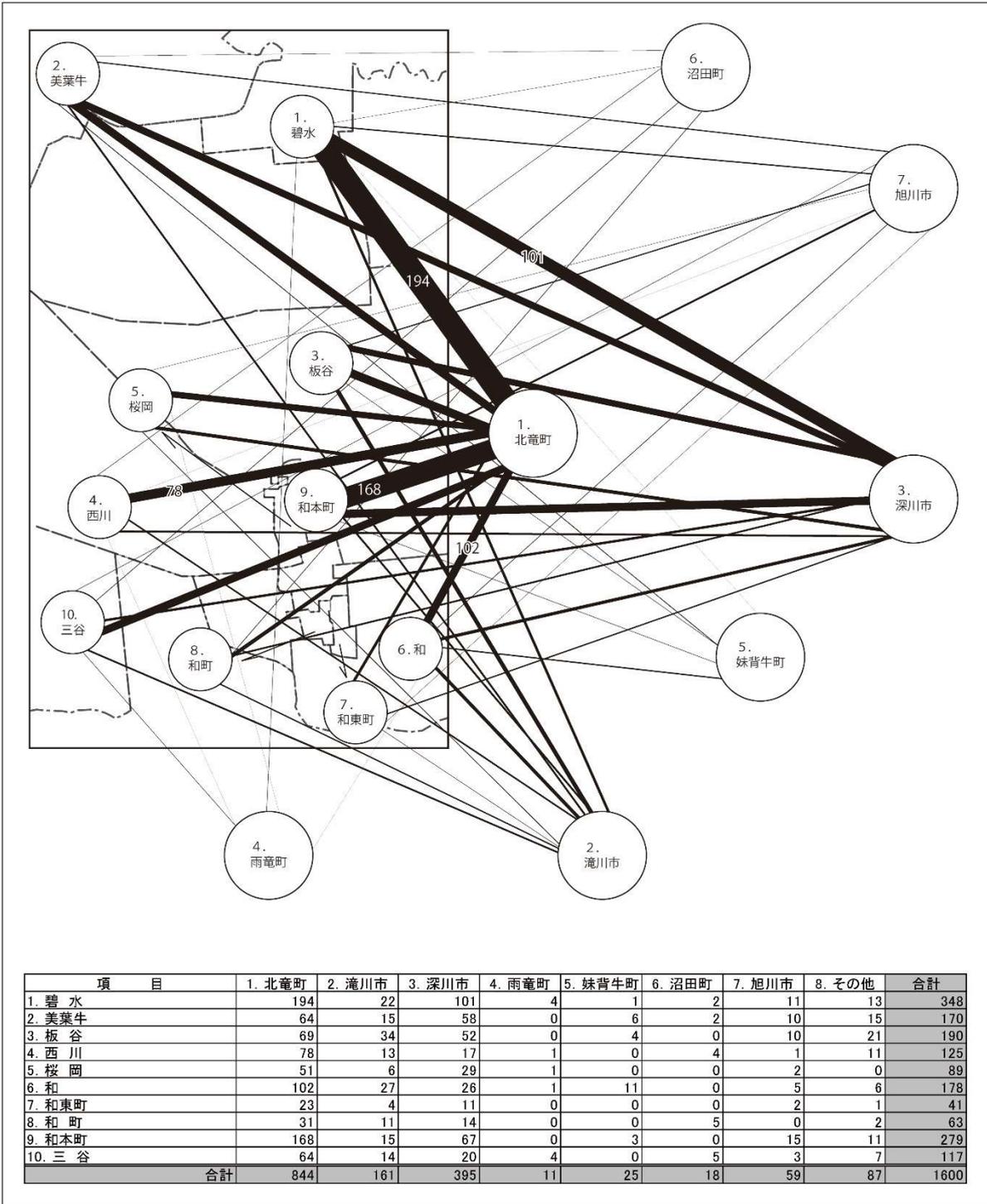
平日の町内移動では「1. 碧水」の194人、「9. 和本町」の168人、「6. 和」の102人及び「4. 西川」の78人が多い状況となっています。また町外移動では「1. 碧水」と「3. 深川市」との間の101人が多い状況となっています。

一方、公共交通での移動では、町内移動で「4. 西川」の22人、「1. 碧水」の15人、町外の移動では「1. 碧水」と「3. 深川」の14人、「3. 板谷」と「3. 深川」の13人、「6. 和」と「2. 滝川市」の10人が多い状況となっています。

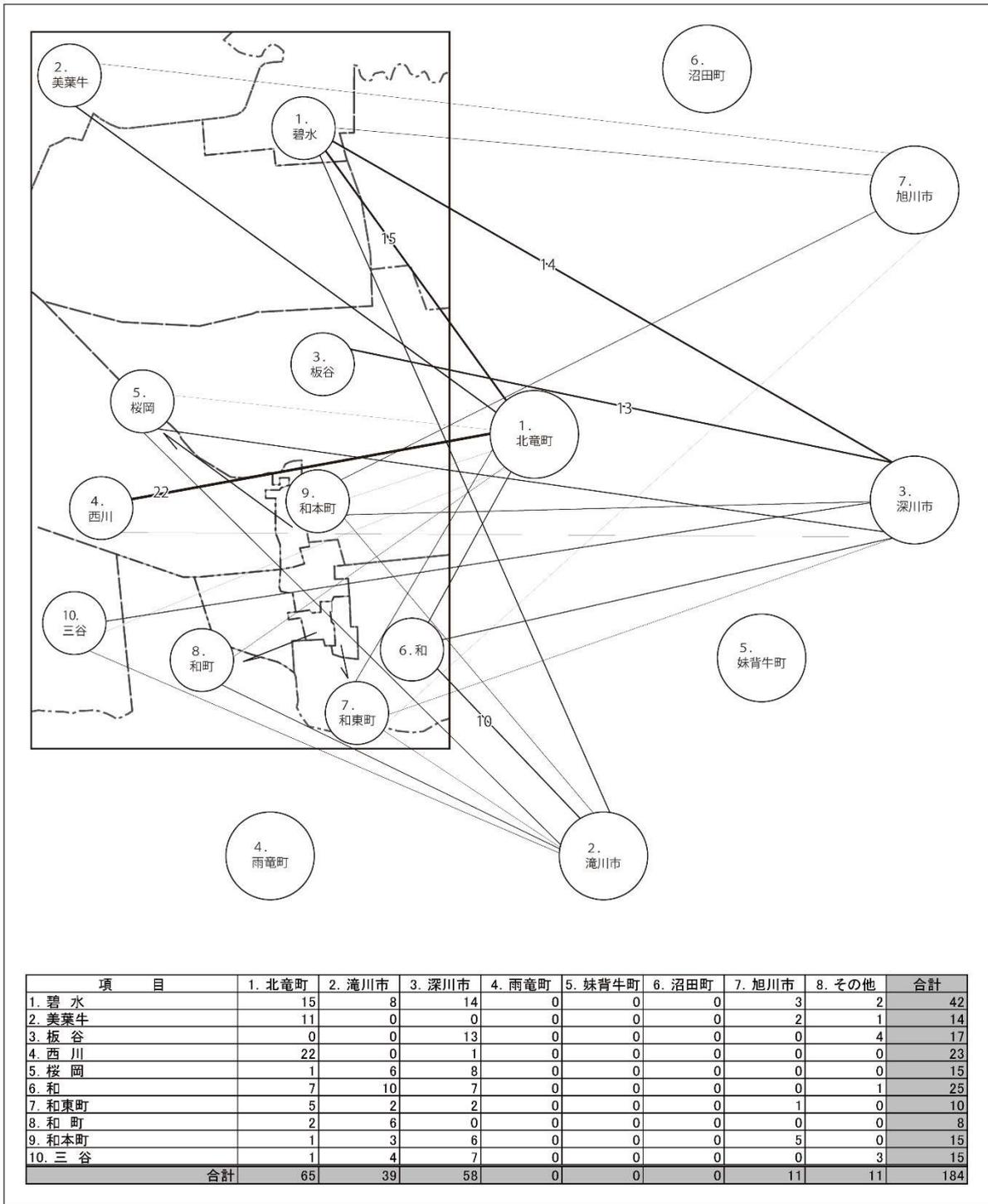
・土日

土日の町内移動では「1. 碧水」の44人、「4. 西川」の26人、「9. 和本町」の20人、町外の移動では「1. 碧水」と「3. 深川市」の23人、「9. 和本町」と「2. 滝川市」の22人、「3. 板谷」と「3. 深川市」の20人が多い状況となっています。

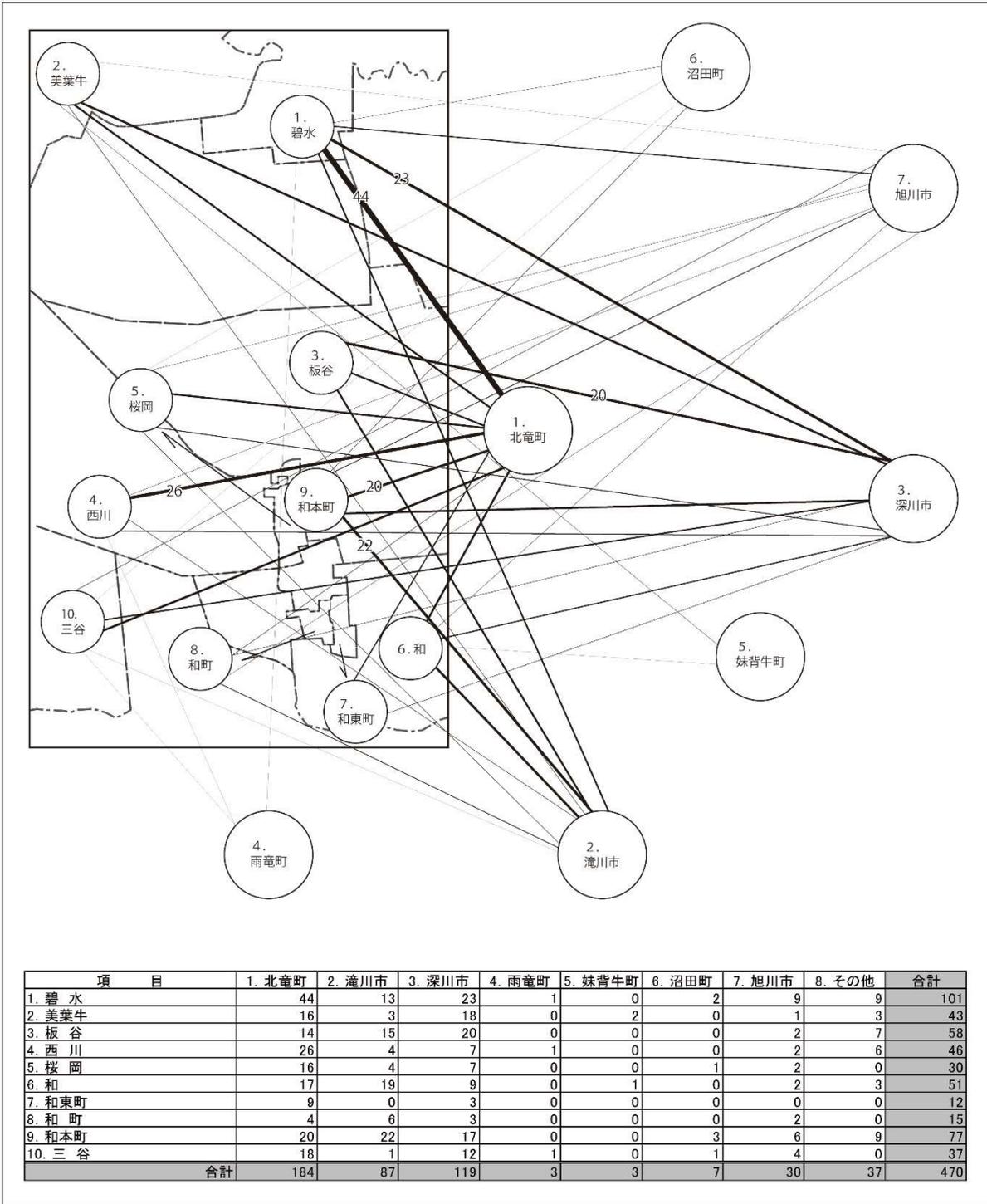
交通分布図 (平日) / (全体)



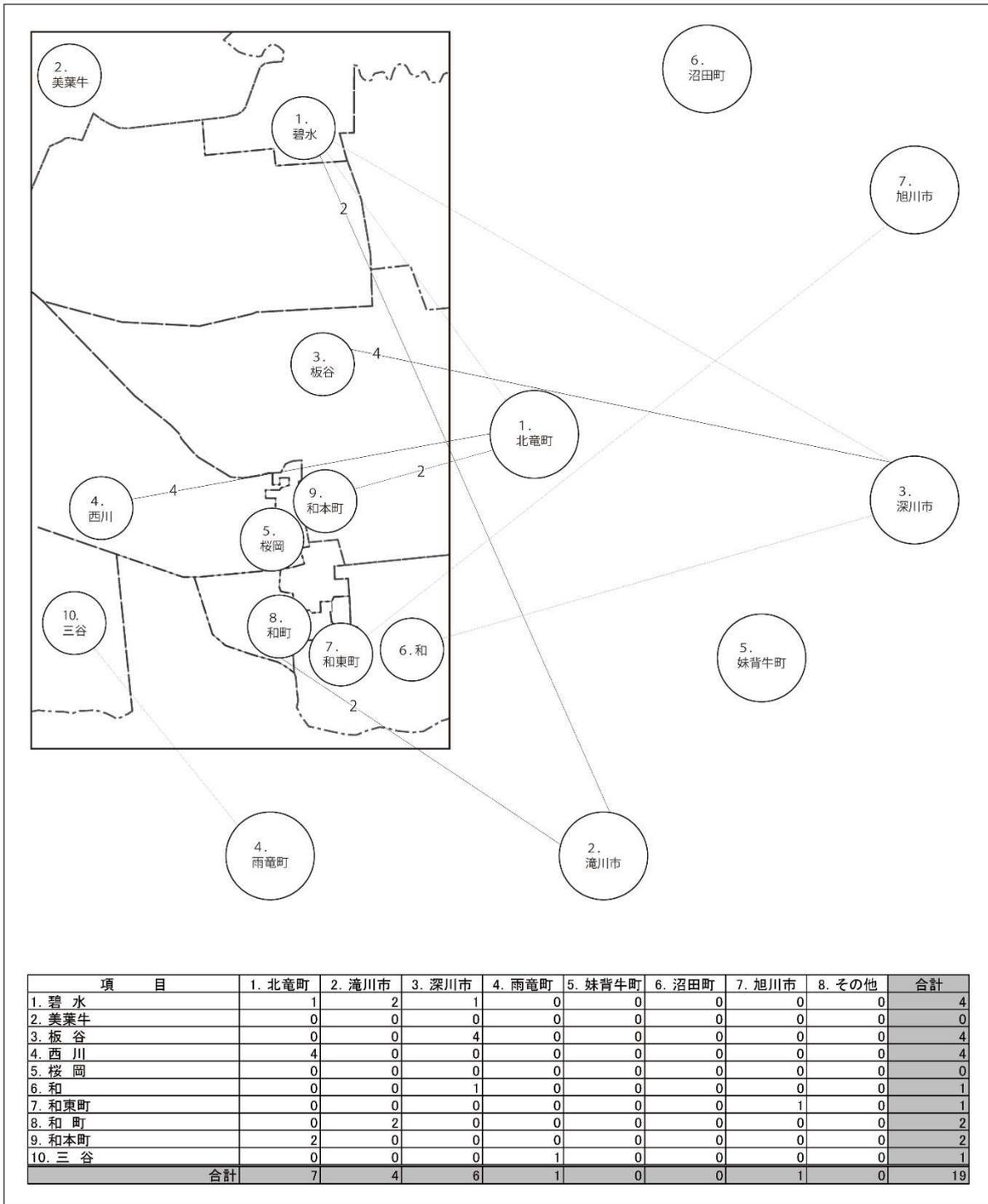
交通分布図 (平日) / (公共交通)



交通分布図 (土日) / (全体)



交通分布図 (土日) / (公共交通)



## 問5 代替交通手段の検討

Q17 路線バス利用者の減少に伴い、滝川北竜線と（深川）北竜線を維持するためには、北竜町がバス会社に年間1,300万円程度（人口一人当たり7,000円程度）を助成しなければなりません。滝川北竜線と（深川）北竜線とは別に新たなコストをできるだけ削減した輸送方法を検討していく必要があります。あなたは、この考えに賛同できますか。（一つに○、理由を記載）

コストを削減した輸送方法の検討に対しては、「1. 賛同できる」が8割弱となっており、「2. 賛同できない」の1割強を大きく上回っています。

これを年齢階層別にみた場合、全年齢階層とも同様の傾向を示しています。

図表 コストを削減した輸送方法の検討

回答項目	計
1. 賛同できる	283
2. 賛同できない	42
3. 不明	35
合計	360

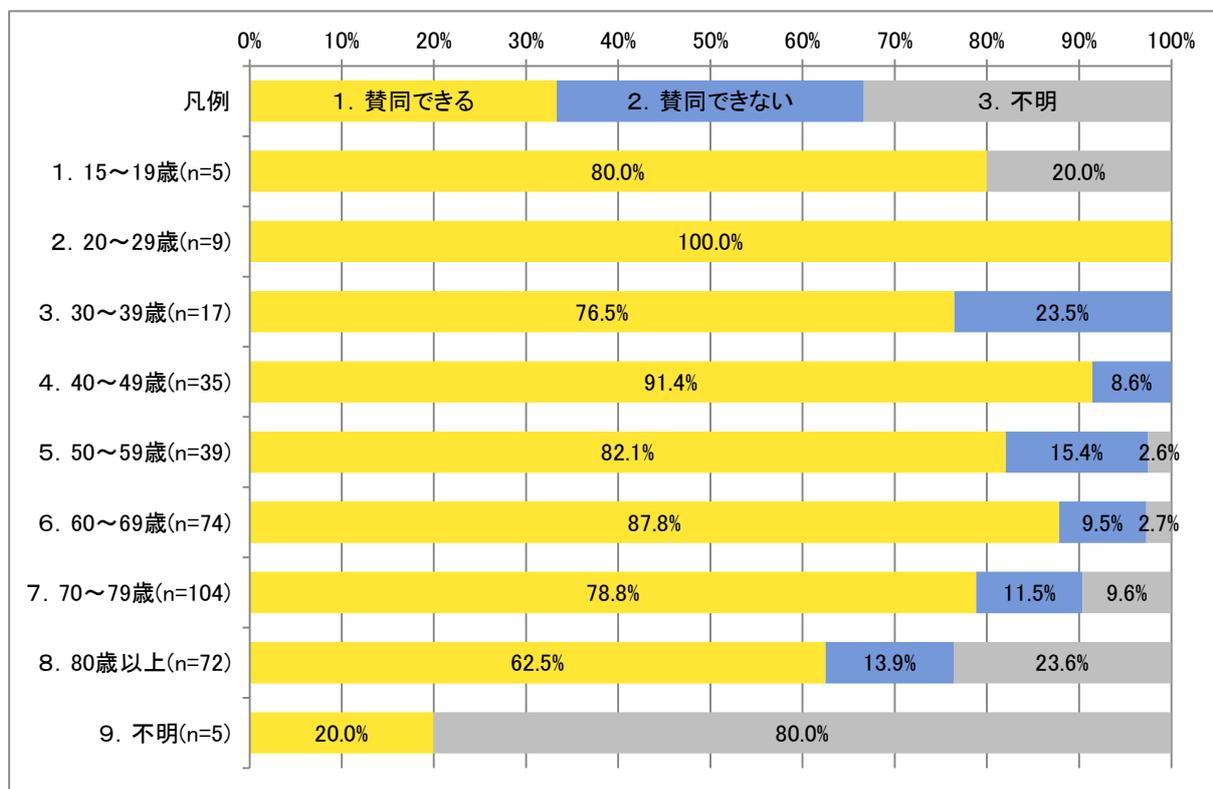
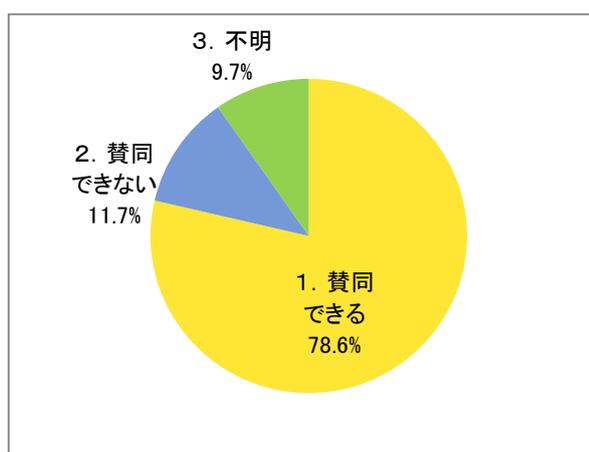


図 コストを削減した輸送方法の検討（年齢階層別）

## ○その他の意見

### 【深川・滝川直通便の維持】(38件)

- ・お金がかかっても深川や滝川への直通便を維持してほしい。
- ・家から深川や滝川と旭川への通院手段をぜひ考えてほしい。新十津川から砂川市立病院往復のワゴン車を見かけた。
- ・小型バスに転換する。
- ・深川や滝川直通の北竜町でデマンド型バスを運行してはどうでしょう。
- ・滝川北竜線と深川北竜線は、高齢者、高校生の大事な足なので、継続を希望。
- ・町外への通院も多いので、滝川北竜線と（深川）北竜線について広域的（近隣市町）に協議した方が良い。
- ・私は深川、滝川の病院に行っているのでバスがなければ困ります。ハイヤーばかりでは行けません。お願いします。
- ・交通手段がなくなる。                      ・他の支出を見直してバスの助成に充てる。
- ・高校の通学のために必要。                ・子供が将来高校に行けなくなる。
- ・高校の通学や町の維持のために必要。
- ・深川まで行くのであれば、妹背牛や追分から乗り換えせずに直接行けたらいい。
- ・今は車運転出来るが、運転出来なくなったらこの町に住めるか心配になりました。私としては特に深川への足はどうしても確保してほしいと願っています。
- ・オンデマンドタクシーを運行する。                ・現状維持。
- ・滝川や深川に行ける手段を確保するのは、必ずしも負担増にはならない。町独自で運行する方が安上がりになる。
- ・国と道の支援を仰ぐべき。
- ・北竜町内停留所の効率化を検討し、北竜から深川・滝川へは直接運行を希望する。
- ・将来、子どもが大きくなると深川、滝川への公共交通手段が必要になります。もし多少の個人負担を伴ったとしても何とか確保していただきたい。
- ・バスを小型化して北空知圏での合同運用する。
- ・町外との交通手段が途絶えることは、高校生の通学に大きな支障を来すので、追分や妹背牛等の乗換えでなく、しっかり目的地迄の路線を確保してほしい。
- ・北竜町の担い手となるかも知れない学生の通学や通院の足は必要。必要なムダも我慢する必要があると思う。
- ・深川の病院までの送迎バスを運行してほしい。
- ・タクシーだと高いので、バスを維持してほしい。
- ・通学生はいないが高校への通学に必要な事であり、必要不可欠である。
- ・このままで行くと高校生通学、老人の通院が心配。                      ・病院に行けなくなる。
- ・滝川北竜線と（深川）北竜線について全く利用する事はなかったが、これから自家用車の運連ができなくなり和市街に居住するような事になれば公共の交通手段は必要と考えます。乗り継ぎは大変と思うので直通便が必要。
- ・乗り継ぎは大変なので、町が小型バス、ドライバーはボランティアで直接深川や滝川まで運行。
- ・高齢化に伴い足腰が弱り、乗り換えや待ち時間が大変なので、維持してほしい。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・不便になる。</li> <li>・本数を減らしても直接行ける方が良い。</li> <li>・国・道の支援が必要だ。</li> <li>・子供が高校生になるとバス利用は必要になるので、なくなるのは困ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの通学ができなくなる。</li> <li>・免許証返納した後、町外に出るのに困る。</li> <li>・通学に必要なので、現路線の維持を希望。</li> </ul>
<p><b>【検討の必要なし】(8件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和線は無くても困らない。</li> <li>・利用者が少ない。</li> <li>・負担が大きすぎる。</li> <li>・乗る人がいない。</li> <li>・使用しない。</li> <li>・現状は車を使用するので、不自由を感じない。</li> <li>・人それぞれ目的地や行く理由が違う。</li> <li>・助成する必要はない。</li> </ul>	
<p><b>【妹背牛、追分の両方へアクセスが必要】(6件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝川北竜線と(深川)北竜線について、「追分」(滝川方面行)と「妹背牛」(深川方面行)を交互に走らせてほしい。</li> <li>・町が保有するバスで追分や妹背牛まで町民を輸送する。</li> <li>・深川方面は妹背牛、滝川方面は追分の両方を運行する。</li> <li>・深川方面は妹背牛町内の小藤から妹背牛の関係、滝川方面は雨竜町内の渭の津から追分の関係もあるので、各町との協力体制が必要。滝川方面については沼田町との関わりも出てくるかもしれない。</li> <li>・滝川北竜線と(深川)北竜線の問題について一番困るのは高校への通学であり、次いで車のない人の通院や買物なので、適切な対策が必要である。</li> <li>・学生の通学手段である路線バスが北竜まで来ないのは人口減少にもつながると考えます。朝の通学1本と夕方4～5時の時間帯の1本は妹背牛、もしくは追分までの輸送を町で運行してもらえると保護者は助かると思います。ですが、1回乗車するに当たり公共交通代ぐらいの負担をしてもらって良いと考えます。高齢者の通院などのバス利用者については朝1本、お昼頃、帰る時間帯1本、妹背牛もしくは追分までの輸送を予約制で行ってはどうかと思います。町内施設までというのを妹背牛か追分まで延ばしてはどうでしょうか。</li> </ul>	
<p><b>【碧水から追分への運行】(2件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留萌旭川線の「碧水市街」から深滝線「追分」まで輸送手段を確保して、滝川・深川に行けるようにして、便数も増やす。</li> <li>・北竜町は、ひまわりの里を観光資源としている以上、インバウンドや個人の旅行者を受け入れる必要があります。公共交通に求めるものは安心と便利さです。北竜町の発展のためにも沿岸バスで追分区間のバス運行をしていただき、住民と旅行者の利便性を追求していただきたいと思います。</li> </ul>	
<p><b>【その他】(5件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滝川北竜線と(深川)北竜線の代替交通手段については、出来れば良い方法を検討して下さい。</li> <li>・小型のマイクロバスでの運行が大型バスより燃料がかからなく良いと思います。</li> <li>・高校生にとっては大変問題です。ぜひ、バスについて検討して下さい。部活も安心してできるようにしてもらいたいです。</li> <li>・深川・滝川への交通手段の確保は必要。通学、通院、買い物は保障してほしい。</li> <li>・町の負担が一人7,000円は高すぎ。自営で誰かにお願ひできないか。</li> </ul>	

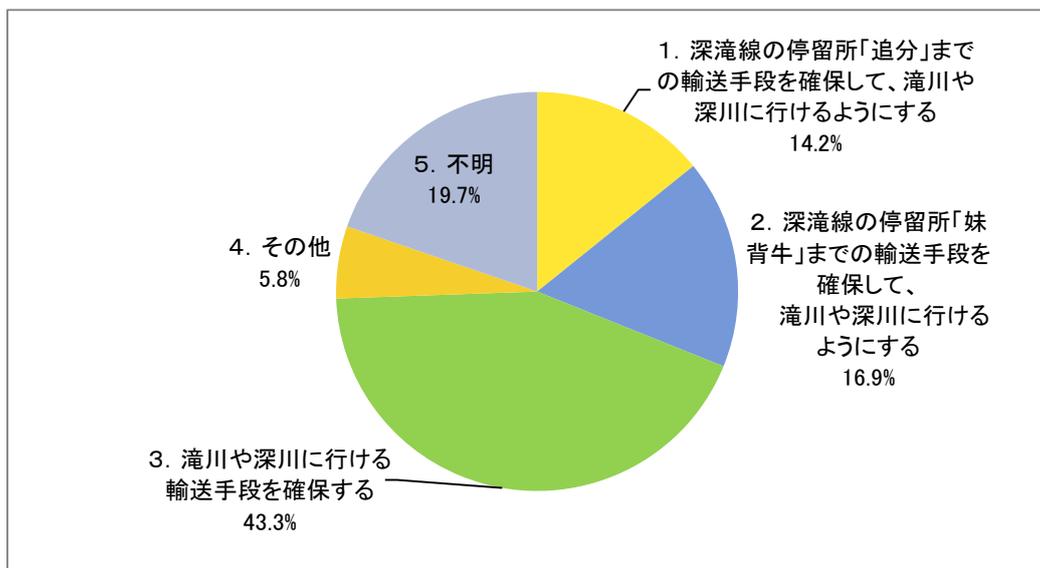
Q18 新たな輸送方法を検討するにあたって、滝川市方面と深川市方面への新たな輸送ルートについて、妥当と考えるものをお選びください。（一つに〇、必要な事項を記載）

新たな輸送方法の検討にあたっては、「3. 直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保」が4割強と最も多く、続いて「2. 深滝線停留所の『妹背牛』に接続」が2割弱、「1. 深滝線停留所の『追分』に接続」が1割強の順となっています。

これを年齢階層別に見ると「1. 15～19歳」は「1. 深滝線停留所の『追分』に接続」、「2. 20～29歳」は「2. 深滝線停留所の『妹背牛』に接続」、「5. 50～59歳」以上の年齢階層は「3. 直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保」が多く、年齢階層で傾向が異なる状況となっています。

図表 新たな輸送方法の検討

回答項目	計
1. 深滝線の停留所「追分」までの輸送手段を確保して、滝川や深川に行けるようにする	51
2. 深滝線の停留所「妹背牛」までの輸送手段を確保して、滝川や深川に行けるようにする	61
3. 直接、滝川や深川に行ける輸送手段を確保する	156
4. その他	21
5. 不明	71
合計	360



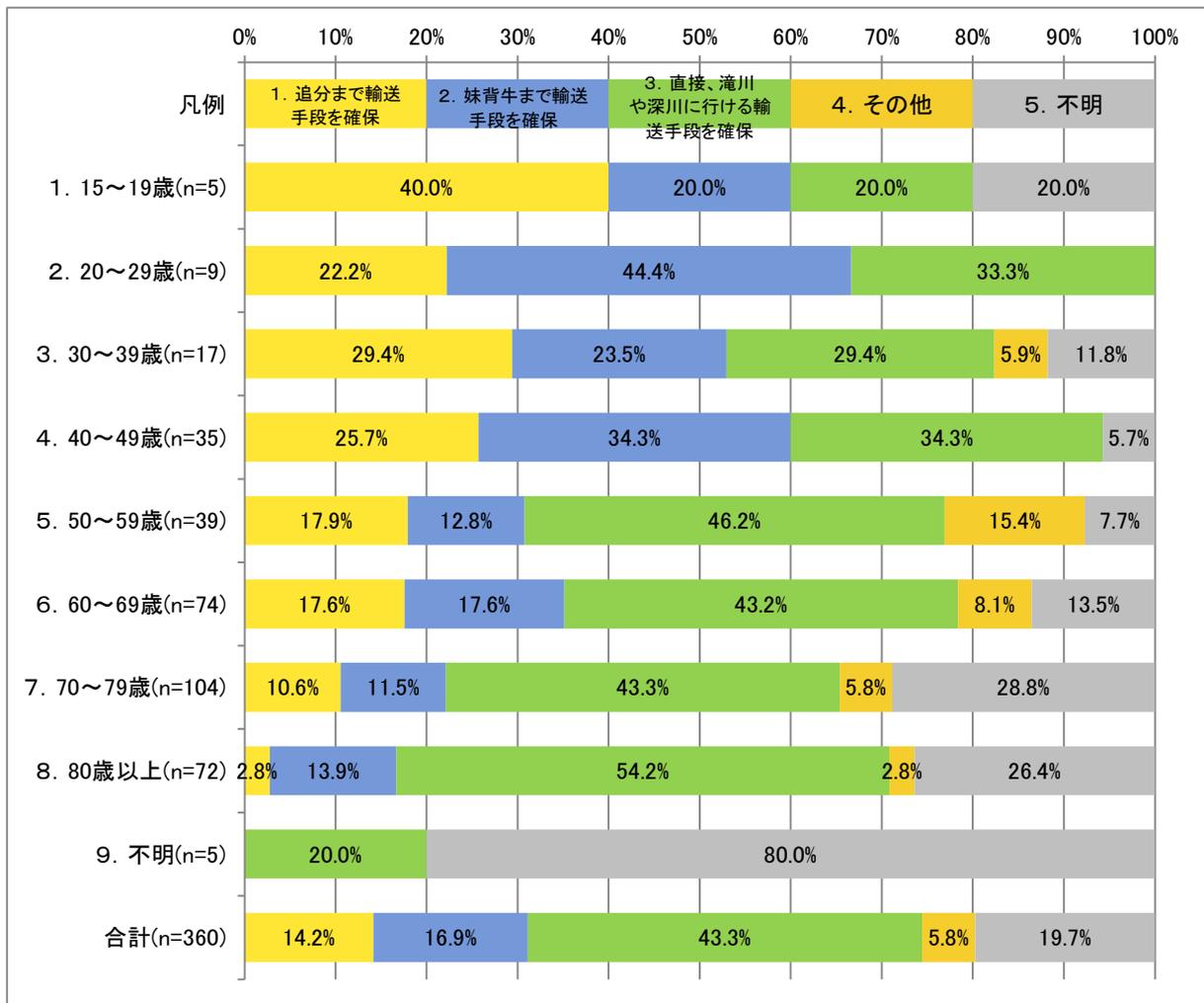


図 新たな輸送方法の検討（年齢階層別）

○その他の意見

【コミュニティバス】（10件）

- ・コミュニティバス（有料）があれば、その時間に合わせた生活ができる。
- ・コミュニティバスの運行を望む。
- ・ワゴン車を用いて今までのバス停を利用して決められた路線を定時で走る。予約が不要で利用しやすい。夏季の観光客も利用できるようにする。これを広く周知するとともに、利用少なければデマンド型を併用する。
- ・コミュニティバスについては停留所の数を多くするか、自宅前の人も載せるなどきめ細かなサービスで対応してほしい。
- ・コミュニティバスは中型バス～マイクロバスにする。
- ・コミュニティバスで、バス停→病院→アクロスプラザのように、まとめて買い物に行ける場所というように利用が一番多い所に行けるバスがあると便利だと思います。
- ・路線バスを小型化して維持費を削減する。
- ・現在の町内運行ワゴン車を増強しての運用する。
- ・使いやすさやコストを考えると、どれも難しい。人口減少の中で多くの利用があるとも思えない。デマンドは現状を見ると不便、面倒くさい。1日2～3往復のコミュニティバスが良

いのではないかと思います。町の負担がどれくらいになるのかが要・不要の分岐点だと思います。

- ・病院に行く際のコミュニティバスのようなものを日に何回か行きと帰りあった方が良いのではないのでしょうか。

**【デマンド交通】(9件)**

- ・乗合タクシーの運行をもう少し考えてほしい。
- ・乗合タクシーと町内の運転者グループを結成して、相互に補完するような仕組みが出来れば良いと思います。
- ・料金1,300円以下で乗合タクシーを新設。
- ・スクールバスより乗合タクシーの運行費用が安いのなら乗合タクシーの運賃を安くしてはどうか。
- ・オンデマンドタクシーの運行。
- ・乗合タクシーの回数を1~2回程度増やしたり、バス停や郵便局など連絡施設を増やしてほしい。
- ・歩く事が出来ないので、乗合タクシーをお願いしてるが、もう少し考えてほしいです。
- ・いずれは免許証の返納をしなければならない。乗合タクシーの利用が多くなる事と思う。特段の配慮を望む。
- ・車の運転ができなくなり家族も仕事をしていたり自由にどこにでも行けないお年寄りが多くなっています。コミュニティバスを前日までに予約をうけて自宅前まで送迎してもらえると助かります。
- ・乗合タクシーを利用したことなく実情が分からないが、年配者にとって自宅まで来てもらうことに良さがあるような気がする。

**【スクールバス】(3件)**

- ・和ハイヤーによるスクールバスを増し、必要に応じて運行する。
- ・スクールバスの活用。
- ・スクールバスを運行する。

**【その他】(5件)**

- ・通常運行の他に季節的な輸送手段の検討も必要。
- ・役場、農協、床屋、病院などに行けなくなったら困ります。買物も困ります。年寄りに不安のない様をお願い致します。
- ・高校通学者からの負担金により運行。
- ・美葉牛に住んでいる人がココワまでハイヤーで行かなければならないのはあまりに可哀そう。
- ・自家用車も無く、サンフラワーに行くにも、ココワ、信金に行くにも不便である。

Q19 ご自宅から町内の目的施設までの輸送手段について、妥当と考えるものをお選びください。(一つに○、必要事項を記載)

自宅から町内の目的施設までの輸送手段は、「1. 乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送」及び「2. コミュニティバスによる輸送」とも4割の概ね同率の結果となりました。

これを年齢階層別に見ると、概ね「4. 40～49歳」までの年齢階層は「2. コミュニティバスによる輸送」が多いものの、「5. 50～59歳」以上の年齢階層は「1. 乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送」が多い状況となっています。

図表 町内の目的施設までの輸送手段

回答項目	計
1. 乗合タクシーなどのデマンド交通による輸送	144
2. コミュニティバスによる輸送	145
3. その他	17
4. 不明	54
合計	360

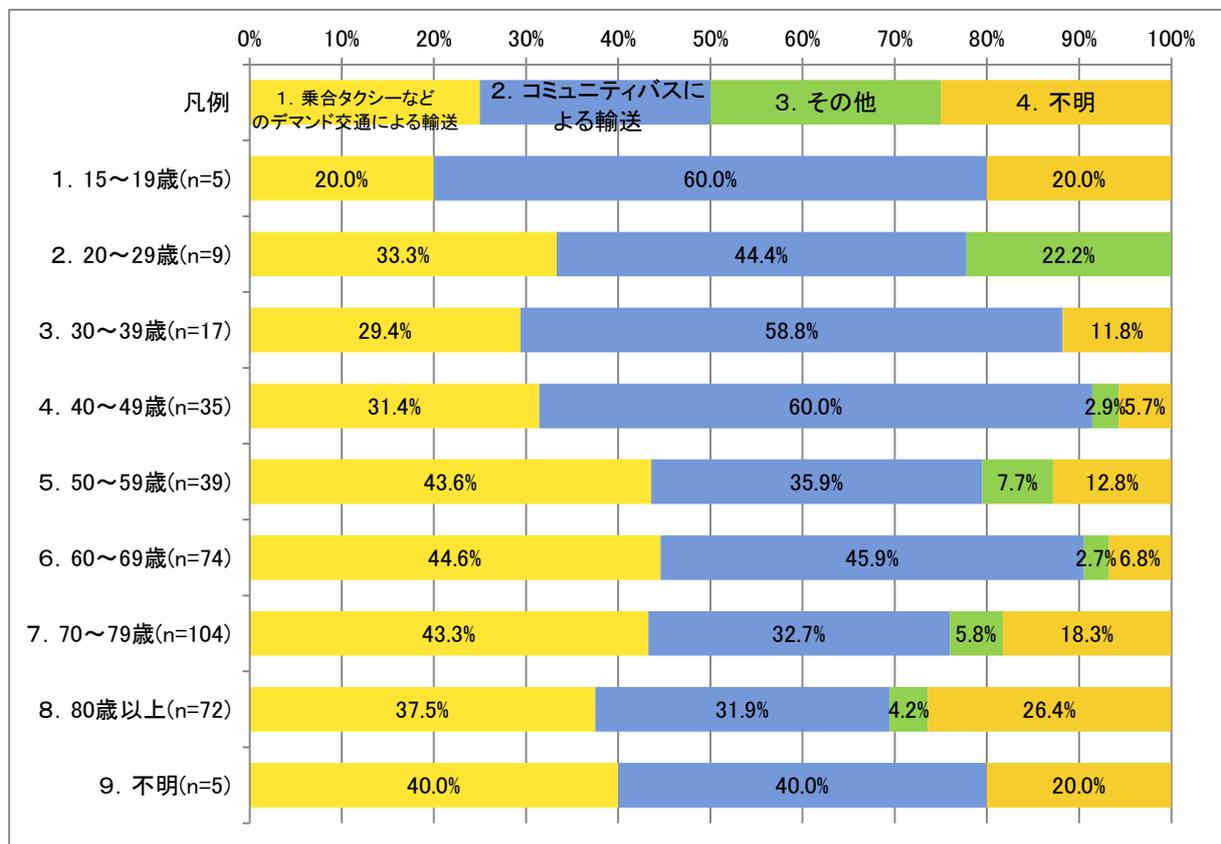
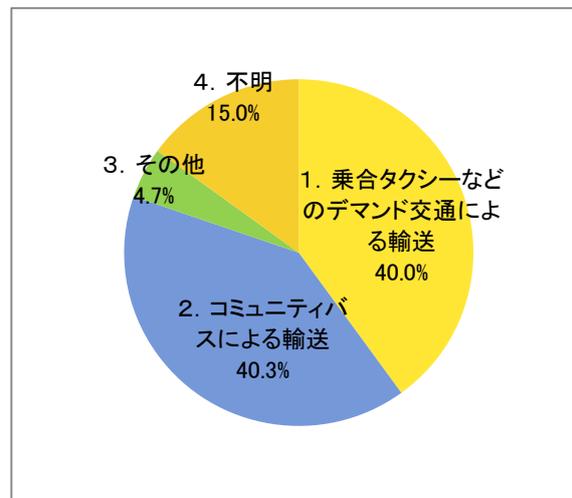


図 町内の目的施設までの輸送手段（年齢階層別）

## 問6 その他、公共交通についてご意見等がありましたらお書きください。

### 【利用しやすい公共交通の確保】(10件)

- ・高齢者や高校生等のためには利用しやすい形で維持すべきと考えます。
- ・人口減少、マイカー利用率増でバスの使用は減っている。バスが廃止(予定・想定)となると困る利用者様もいると思います。免許を返納してしまい自家用車を保有しない高齢者にとって、都合の良い代替交通手段が用意されることを願います。
- ・91歳で免許返納を検討中です。深川までの通院や北竜温泉までの移動手段がほしい。
- ・免許を持っていない若人の通学のために、公共交通を確保してほしい。老人は移動に時間をかけられるが学生は時間が定まっている。学生の住めない所に未来は無い。
- ・町内、町外への交通手段が増えることは良いことと思う。JRがない分バス利用が出来る可能性が広がれば良いと思う。ご老人やお子さん達メインではなく、町民全員が利用出来なければ意味がない。
- ・バスは絶対必要です。
- ・他市町村の集合タクシーやコミュニティバスを、お互いに利用できる様になれば良いと思う。例えば、他町村の病院の帰りでも、その町の公共交通を利用できる様にした方が良いと思う。
- ・乗り降りできる場所と運行時間を早くからにしてほしいです。朝から7時からの時間帯もお願いしたいです。場所も増やしてほしいです。遅い時間の運行してほしいです。
- ・北竜町は他の町に比べて、老人の交通手段をまったく考えていない。免許をもっていない老人はどこにも行けないのが現状である。タクシーを町内一律で低料金で運行したり、バスも本数を増やして走らせる方が良い。街の内に住んでいる人が良いが、農家地域の人は和や碧水に行くための手段がない。
- ・学生が通学する時の交通手段がないのは厳しい。共働きが多い中で、子の送迎は難しい。

### 【公共交通の維持】(5件)

- ・陸の孤島にならないようにするためには、ある程度の支出は考慮しなければならぬと思う。
- ・現在、我が家は自家用車でほとんど用が足りているが、子供の通学、高齢者の病院や買い物の足として必要な公共交通がなくなることは人口減少に直接つながることだと思う。将来に不安を持つ人も増えると思います。
- ・国と北海道の補助打切りはいつからですか。今の運行はいつまで続きますか。この辺りの情報発信をお願いします。
- ・私は一人暮らしをしております。車もなくつきに1~2回の通院をしていますので、バスを利用させて頂いております。バスが無くなると大変困ります。無くならないように宜しくお願いします。
- ・中央バスの運行を中止にしないで欲しい。鉄道が止まって以来、北竜町はどんどん人口が減って来た。さらにバスも通らなければ、一層、過疎になってしまい、そうなればもう住みたくない。

<p><b>【将来の利用を検討】</b> (5 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の所は免許があるので自家用車で行動していますが、いずれは公共交通にお世話になると思います。</li> <li>・運転出来なくなった時は、タクシー利用を考えている。</li> <li>・今後、数年後には集合タクシーを利用することになるでしょう。</li> <li>・今の状況は、まだ公共交通を利用する事がほとんどありませんが、その時が来た時は利用させてもらう事と思います。</li> <li>・現在は夫婦 2 人共、自家用車で行動できていますが、今後は交通機関のお世話になっていきます。日常的な利用としては、通勤、通学、通院、買物があると思われます。私たちシニアの人々にとって買物については必要でもあり楽しみ、運動でもあるので「買い物ミニバス」のように考えてみてはいかがでしょうか。</li> </ul>
<p><b>【将来への不安】</b> (6 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今は若いので車を運転できるが、将来を考えると不安。</li> <li>・これ以上、不便とならないような手段を講じてほしい。</li> <li>・今は必要ないと思いますが、自分が運転をしなくなった時の交通手段には不安があります。</li> <li>・現在は運転していますが、あと 2~3 年後が心配です。</li> <li>・孫が大きくなった時に不安を感じています。</li> <li>・滝川北竜線と（深川）北竜線は、交通手段がなければ身動きできません。交通難民になります。</li> </ul>
<p><b>【乗合タクシー】</b> (3 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和タクシーはお年寄りの乗り降りに時間がかかるので怒られると聞きました。</li> <li>・乗合タクシー時間帯を増やして欲しい。</li> <li>・他の人から聞いたのですが、乗合タクシーは目的地から少しづれただけでも拒否されるらしいので、改善して下さい。</li> </ul>
<p><b>【深滝線】</b> (2 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少は明らかで、町の負担を極力減らすにはやむを得ないと思います。深滝線は運行本数も多く、追分まで輸送すればどちらの通学、通勤、通院にも距離的にも良いと思います。</li> <li>・中央バス深滝線も、いずれ減便していくと思われるので、今から対策を考えていくべきと考える。</li> </ul>
<p><b>【免許返納制度】</b> (2 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象年齢に達したら、秩父別町のように年間数十枚かタクシー券を発行してはどうか。</li> <li>・免許返納に対して毎年補助するなど、手厚い支援をお願いします。</li> </ul>
<p><b>【シルバー人材の活用】</b> (1 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス運営をシルバー人材にお願いしてみても。</li> </ul>
<p><b>【バス運賃の値下げ】</b> (1 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの運賃がとても高いので安くしてほしいです。安くするといっぱいの人に乗るでしょう。</li> </ul>

<p><b>【バス停留所】</b> (1 件)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中央バスの碧水バス停は、知らない人がよく間違えるため一つに統合したほうが良いと思う。</li></ul>
<p><b>【(深川) 北竜線】</b> (1 件)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・空地中央バスの (深川) 北竜線は JR 妹背牛駅に経由してほしい。</li></ul>
<p><b>【路線バス時刻表の配付】</b> (1 件)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・バスの時刻表がなく、利用したいときに調べるのが大変だった。役場から転入した際に欲しかった。</li></ul>
<p><b>【留萌旭川線】</b> (1 件)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・留萌旭川線は運行を続けていただきたいです。</li></ul>

## (8) 中学生・高校生アンケート調査結果

Q1 お住まいの「地域」をお答えください。(一つに○)

中学生・高校生の居住地は、「6. 和」が2割強と最も多く、続いて「7. 和東町」が2割弱、「1. 碧水」と「2. 美葉牛」が1割強の順となっています。

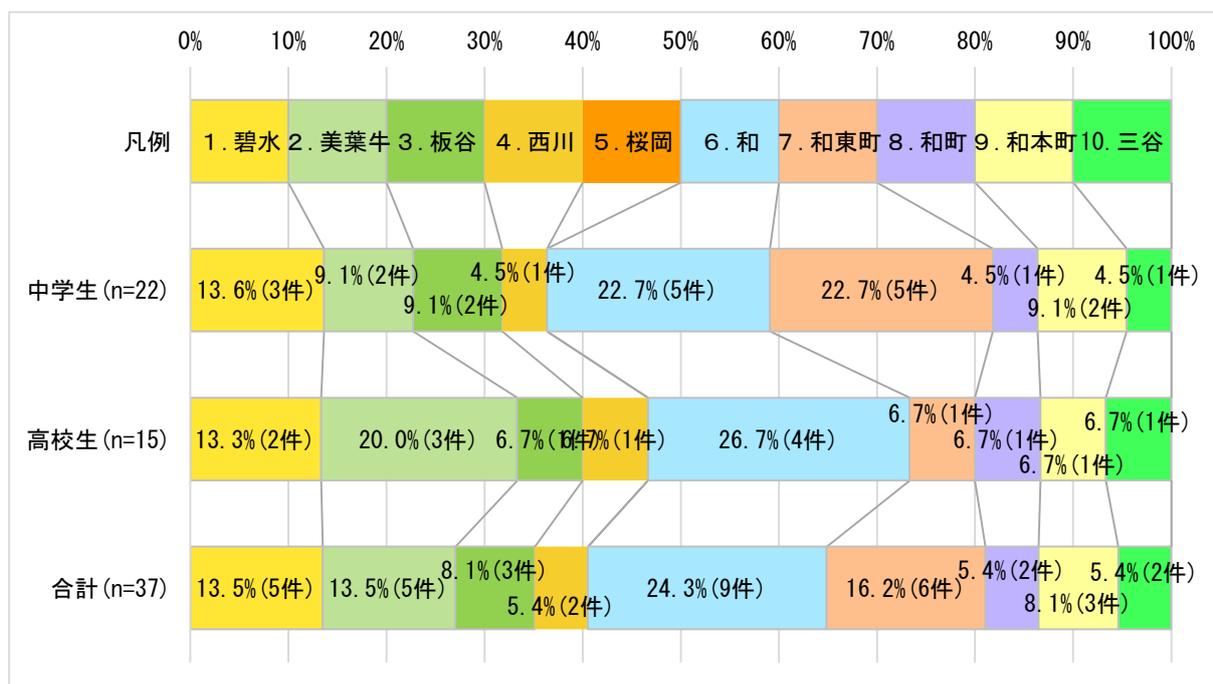


図 居住地

Q2 「人数」をお答えください。(一つに○)

各世帯の中学生・高校生の人数は、中学生の1世帯を除きすべて「1人」となっています。



図 人数

Q 3 性別をお答えください。(それぞれ一つに○)

中学生・高校生の性別は、「男性」が4割、「女性」が6割となっています。

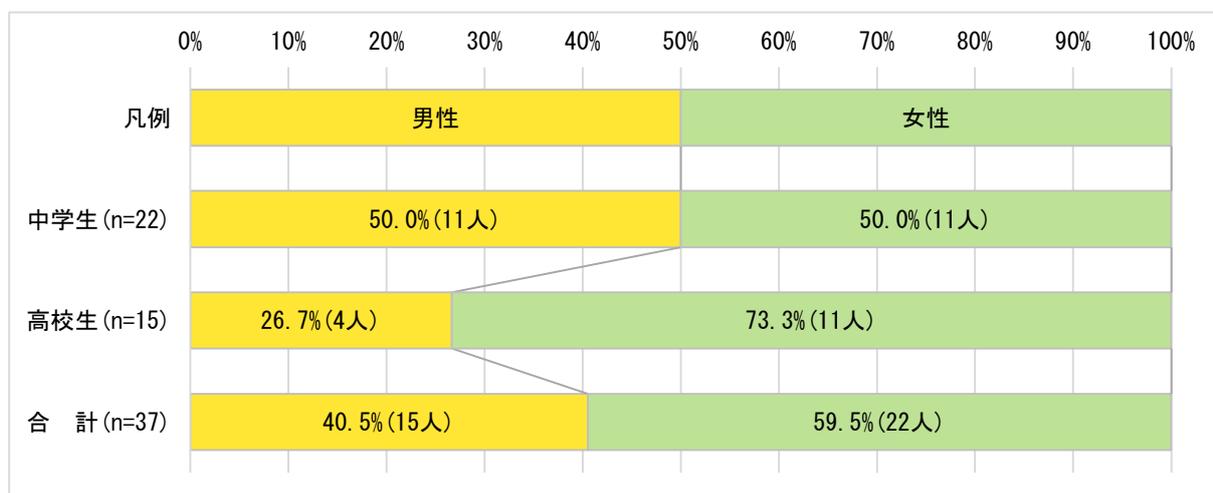


図 性別

Q 4 学年をお答えください。(それぞれ一つに○)

中学生の学年は、「1年生」が4割と最も多く、続いて「3年生」が3割強、「2年生」が3割弱の順となっています。

高校生の学年は、「1年生」「2年生」とも5割弱となっています（「3年生は調査対象外」）。

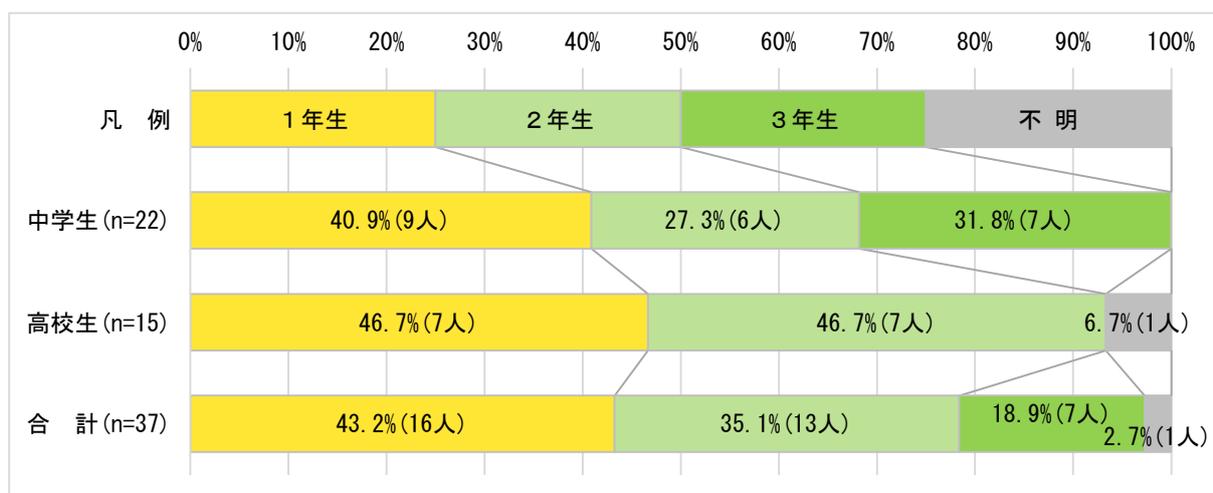


図 学年

Q 5 【中学生】 どの高校への進学をお考えですか。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

【高校生】 学校名をお答えください。(選択肢から番号を一つ選んで記載)

中学生が志望する高校は、「1. 深川西高校」が5割と最も多く、続いて「8. まだ考えていない」が2割強、「7. その他の高校」が2割弱の順となっています。

高校生が通学する学校は、「1. 深川西高校」が5割弱と最も多く、続いて「3. 滝川高校」が4割の順となっています。

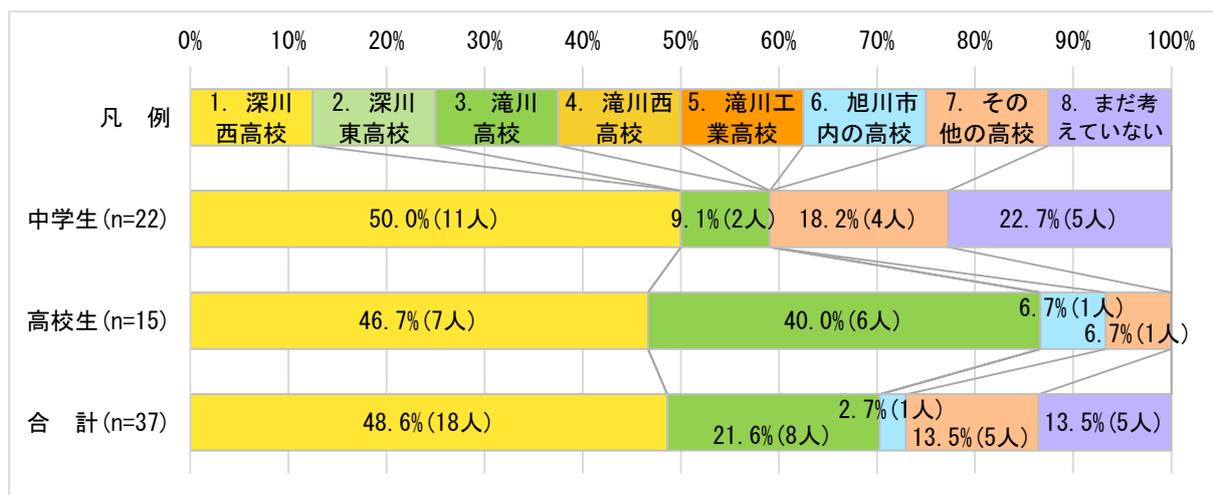


図 「中学生の志望校」と「高校生が通学する高校」

○その他の内容

【中学生】

- ・ 雨竜高等養護学校
- ・ 高等養護学校 (どこに行くかは未定)
- ・ 滝川高校か旭川市内の高校
- ・ 岩見沢農業高校

【高校生】

- ・ 雨竜高等養護学校

Q 6 【中学生】 高校への通学は、「ご自宅からの通学」を考えていますか。それとも「高校近くへの下宿等」を考えていますか。（それぞれ一つに○）

【高校生】 高校への通学は、「北竜町内のご自宅」からですか。それとも「高校近くの下宿先等」からですか。（一つに○）

自宅からの通学を考えていない回答は、「中学生」で2割強となっています。

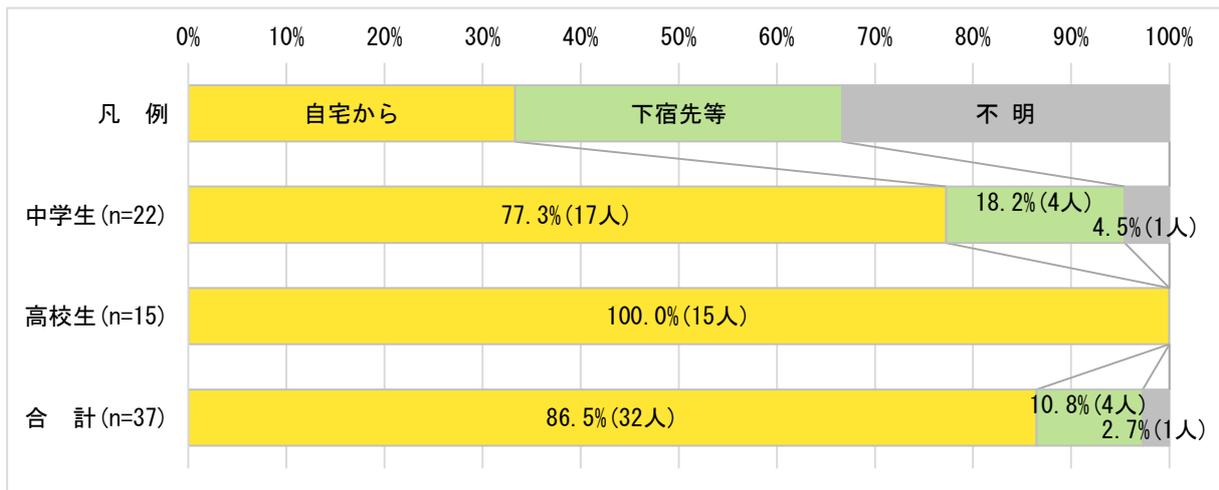


図 「自宅からの通学」と「下宿等からの通学」

Q 7 【中学生】 クラブ・サークルへの所属は考えていますか。（一つに○）

中学生のクラブ・サークルへの所属希望は、「1. 考えている」が4割強と最も多く、続いて、「3. まだわからない」が4割弱、「2. 考えていない」が2割強の順となっています。

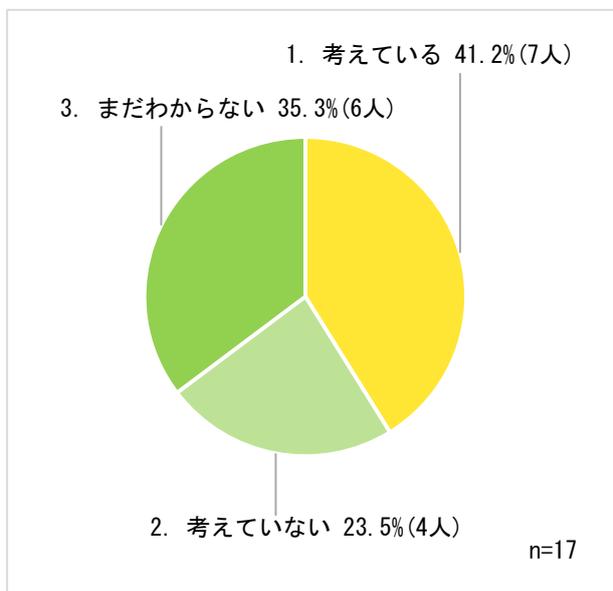


図 クラブ・サークルへの所属希望（中学生）

Q 7 【高校生】部活動の有無と、部活動後の最も多い帰宅時間帯をお答えください。

高校生のクラブ・サークルへの所属状況は、「1. 所属している」が7割強と「2. 所属していない」の3割弱を上回っています。

「1. 所属している高校生」の帰宅時間帯は、「19時台」が7割となっています。

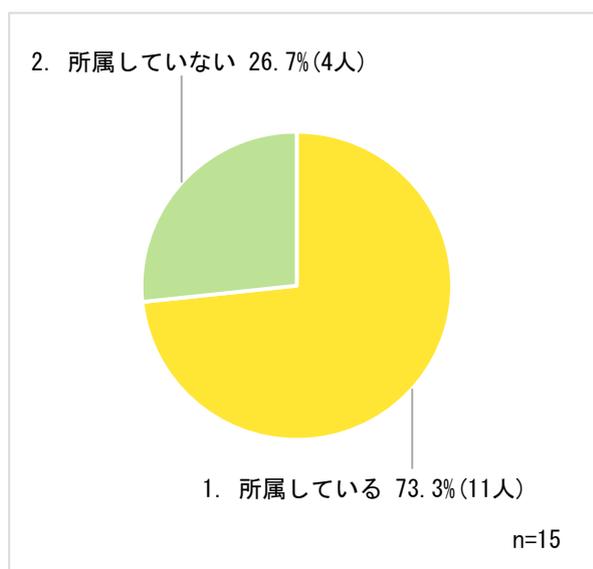


図 クラブ・サークルへの所属状況（高校生）

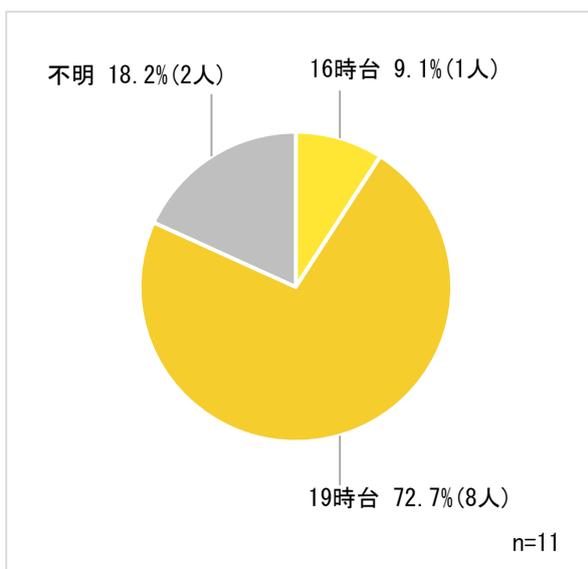


図 クラブ・サークルからの帰宅時間帯

Q 8 【中学生】通学する時に利用が想定される交通手段をお答えください。

Q 8—1 滝川市内の高校に通学する場合、想定される交通手段をお答えください。（一つに○）

中学生が考えている滝川市内の高校に通学する場合の交通手段は、「1. 北竜追分線」が5割強となっています。

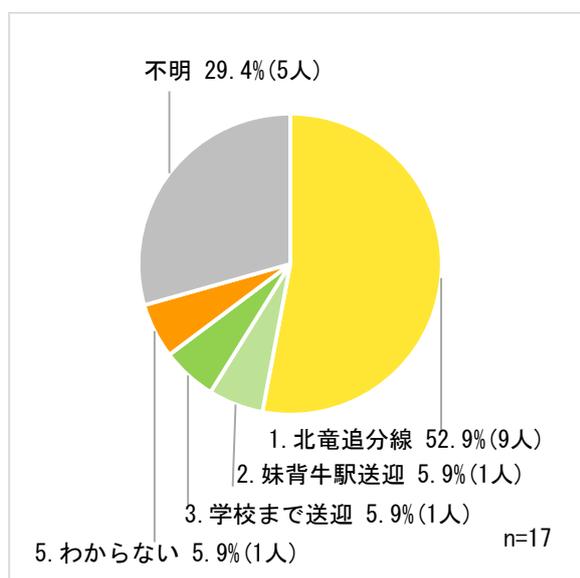


図 高校通学における交通手段（滝川市内：中学生）

Q 8—2 【中学生】 深川市内の高校に通学する場合、想定される交通手段をお答えください。  
(一つに○)

中学生が考えている滝川市内の高校に通学する場合の交通手段は、「1. 深川北竜線」が 8 割弱  
となっています。

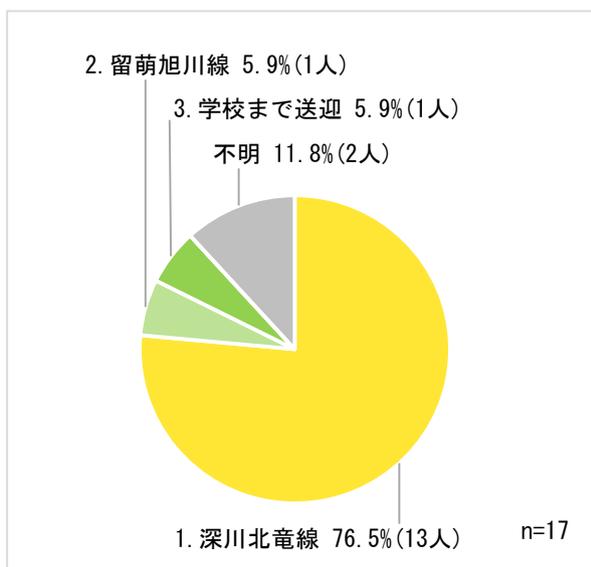


図 高校通学における交通手段（深川市内：中学生）

Q 8—1 【高校生】 滝川市内の高校への交通手段をお答えください。(一つに○)

滝川市内の高校へは、「1. 北竜追分線」が 7 割弱（4 人）、「4. JR（妹背牛駅）」と「5. 学校ま  
で送迎」が 2 割弱（1 人）となっています。

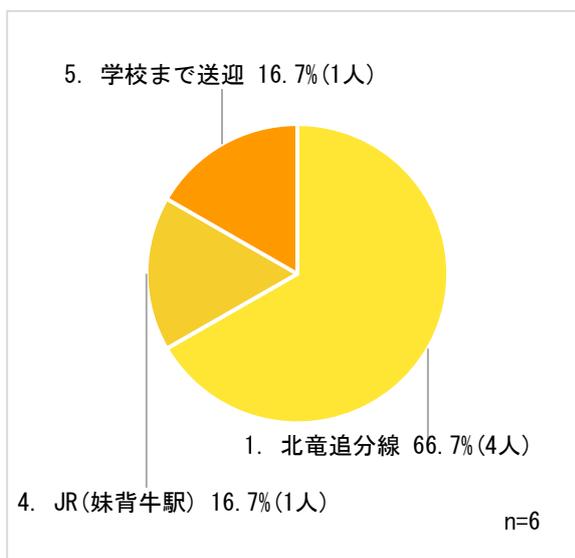


図 高校への通学手段（滝川市内：高校生）

Q 8—2 【高校生】 深川市内の高校への交通手段をお答えください。(一つに○)

深川市内の高校へは、「2. (深川) 北竜線」が9割弱(6人)で、「1. 北竜追分線」が1割強(1人)となっています。

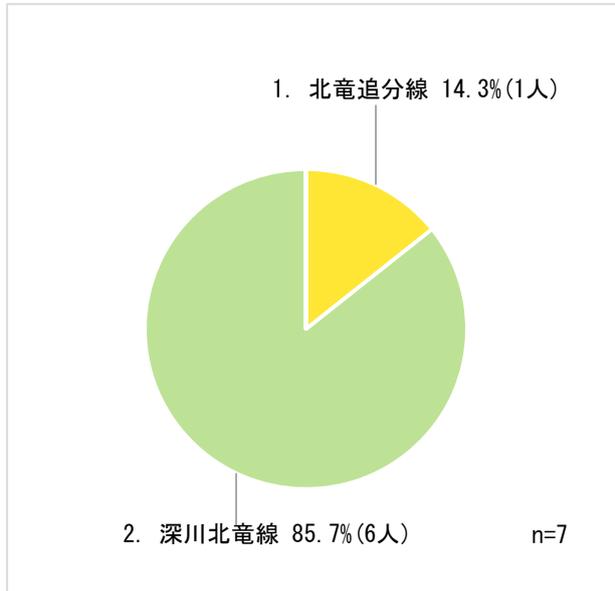


図 高校への通学手段(深川市内:高校生)

Q 8—3 【高校生】 その他の地域の高校への交通手段をお答えください。

その他の地域の高校への通学は、「3. 留萌旭川線」が5割(1人)となっています。

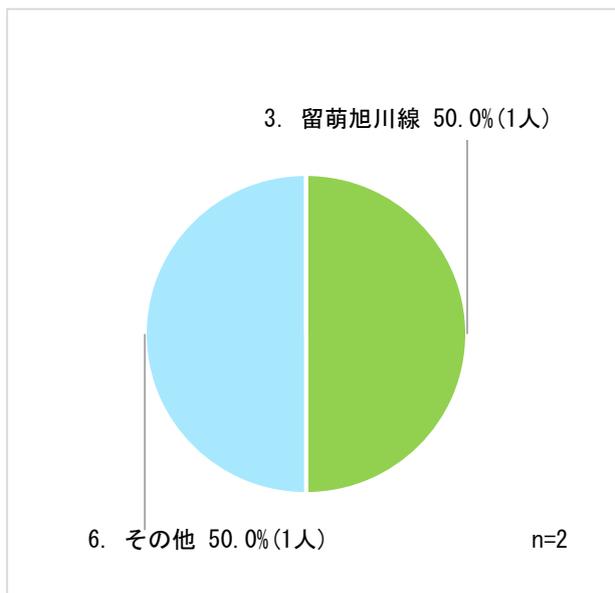


図 高校への通学手段(その他の地域:高校生)

Q 8-4 【中学生】ご自宅から「バス停※」までの交通手段をお答えください。(それぞれ一つに○)

【高校生】Q 8-1で「1. 町営バス北竜追分線+空知中央バス深滝線」と「2. 空知中央バス深川北竜線」を回答された方への質問です。ご自宅からバス停※までの交通手段をお答えください。(それぞれ一つに○)

夏期における自宅と停留所間の交通手段は、「1. 徒歩」が7割強と最も多く、続いて「3. 自家用車」が2割強となっています。

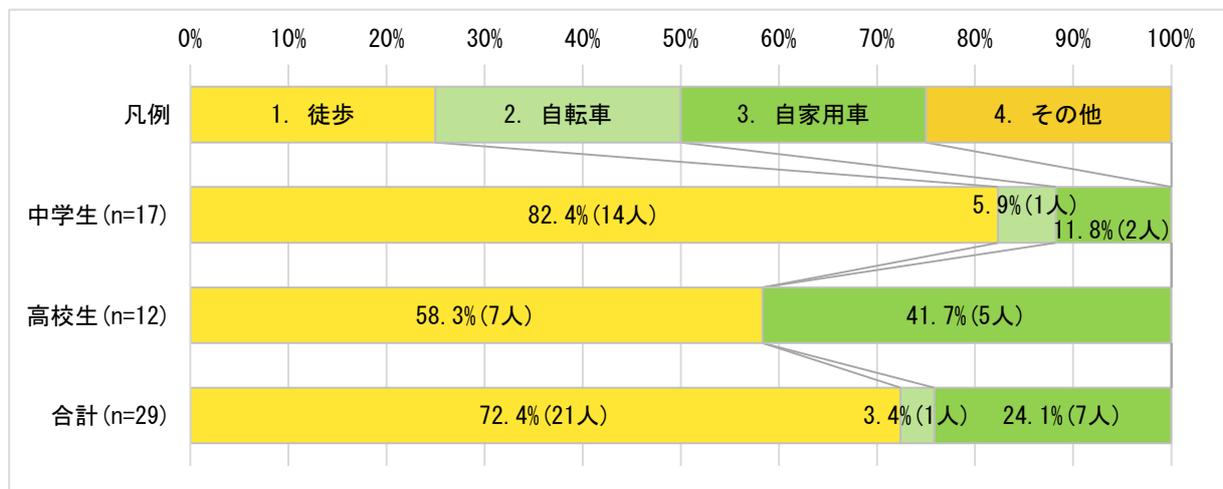


図 自宅とバス停間の交通手段（夏期）

冬期における自宅と停留所間の交通手段は、「1. 徒歩」が8割と最も多く、続いて「3. 自家用車」が2割となっています。

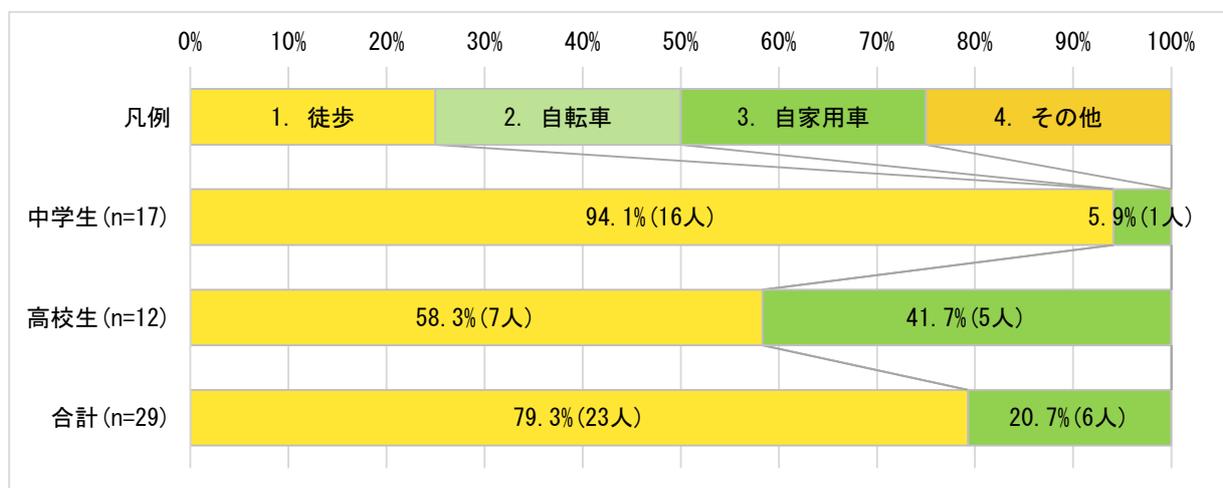


図 自宅とバス停間の交通手段（冬期）

Q9 【中学生】 Q8-2の深川市内高校への通学で、「1. 空知中央バス深川北竜線」を回答された方への質問です。仮に空知中央バス深川北竜線が運行を取りやめる場合、追分市街経由の町営バスを利用し深川市へ通学しますか。それとも他の交通手段をご利用しますか。(一つに○、必要なことを記入)

【高校生】 Q8-1で「2. 空知中央バス深川北竜線」または「3.JR 函館本線(妹背牛駅)利用」を回答された方への質問です。仮に空知中央バス深川北竜線が運行を取りやめる場合、追分市街地経由の町営バスを利用し通学しますか。それとも他の交通手段をご利用しますか。(一つに○、必要なことを記入)

仮に「(深川)北竜線」が取りやめになる場合の代替交通手段は、「1. 北竜追分線」が4割強と最も多く、続いて「2. 学校まで送迎」が2割、「3. 送迎+深滝線」が2割弱の順となっています。

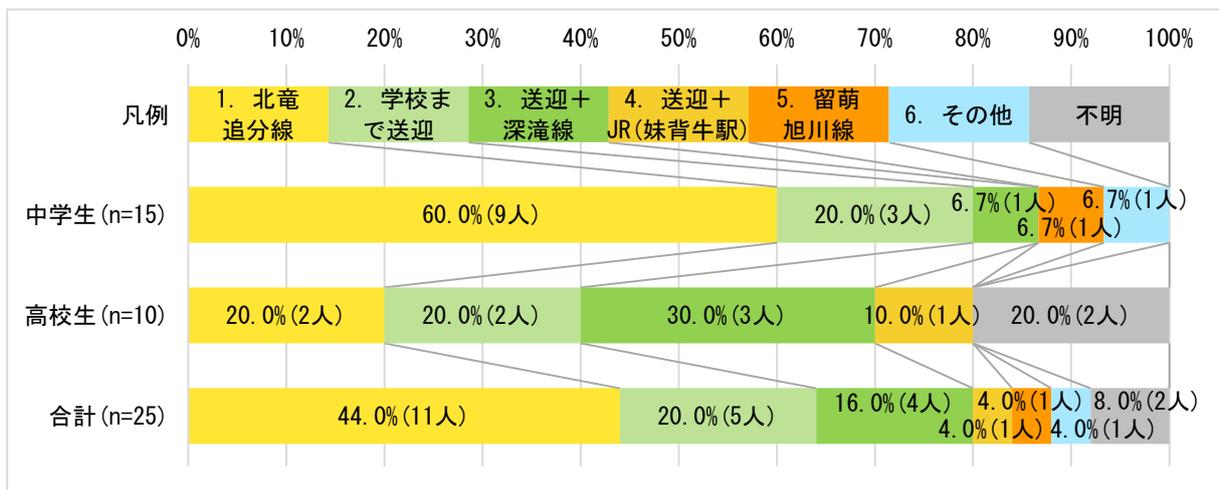


図 「(深川)北竜線」の代替交通手段

Q10 その他、公共交通についてご意見等ありましたらお書きください。

**【中学生】**

- ・高校通学に対する助成は一部分であるため、経済的な影響が大きい。
- ・(深川)北竜線が廃止になると自家用車がなければどこにも行くことができなくなる。
- ・深滝線が遅れた場合、町営バス北竜追分線からの乗継ぎに時間が空いてしまい、冬期間を考えると厳しい。
- ・滝川行きに加え、深川行きもなくなると不便になる。子供たちのためにも継続してほしい。
- ・(深川)北竜線が廃止になった場合は、乗継ぎが不便なので深川まで行ってほしい。
- ・バスがなくなると不便なため、継続してほしい。

**【高校生】**

- ・高校に通うための選択肢が削られて不便。
- ・沿岸バスでの通学は深川十字街で下車した後、距離があるため学校に間に合わない。
- ・公共交通が不便になることで、人口減少が加速する。
- ・妹背牛までの町営バスを希望。
- ・部活の朝練習のため妹背牛まで自家用車で送っている。
- ・部活の終了時間が一定ではないため、友人同士で助け合って送迎している。
- ・北竜追分線は乗合タクシーのように予約運行することが考えられる。

### 3-2. バス乗降調査

バス乗降調査は、空知中央バス(株)様による輸送データの提供により、次のとおり集計・分析を行いました。

#### (1) (深川) 北竜線

乗降調査は、令和4年度において平日が10日間、土日が8日間で実施しており、平日、土日それぞれにおいて北竜温泉～(妹背牛)桜町間の1日当り便ごとの平均乗車人数を集計しました。

##### ①平日

- ・往路は、深川西高校への通学利用として第1便が12.9人となっているものの、他の便は1.6人以下
- ・復路は主に深川西高校からの通学利用として、第3便が6.3人、第5便が5.3人

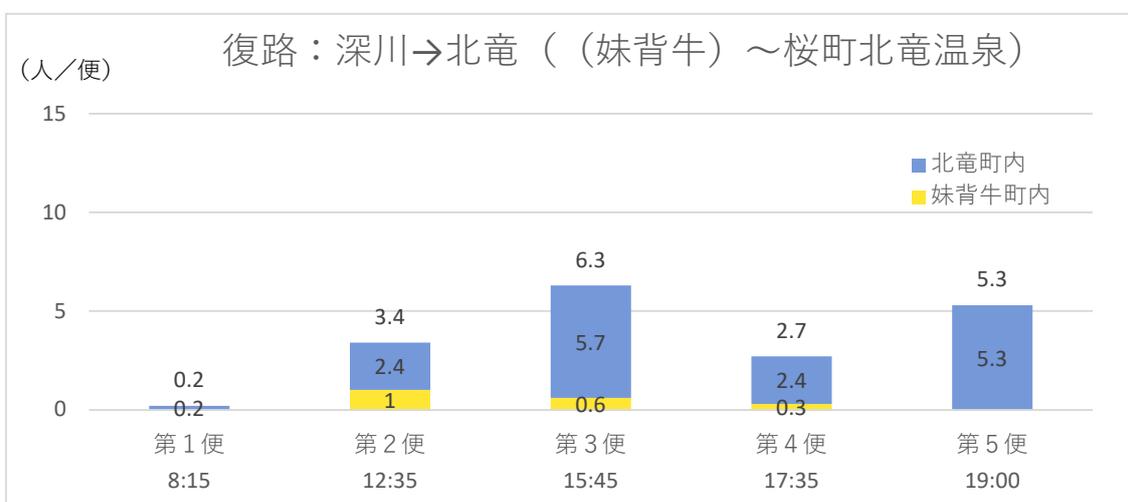
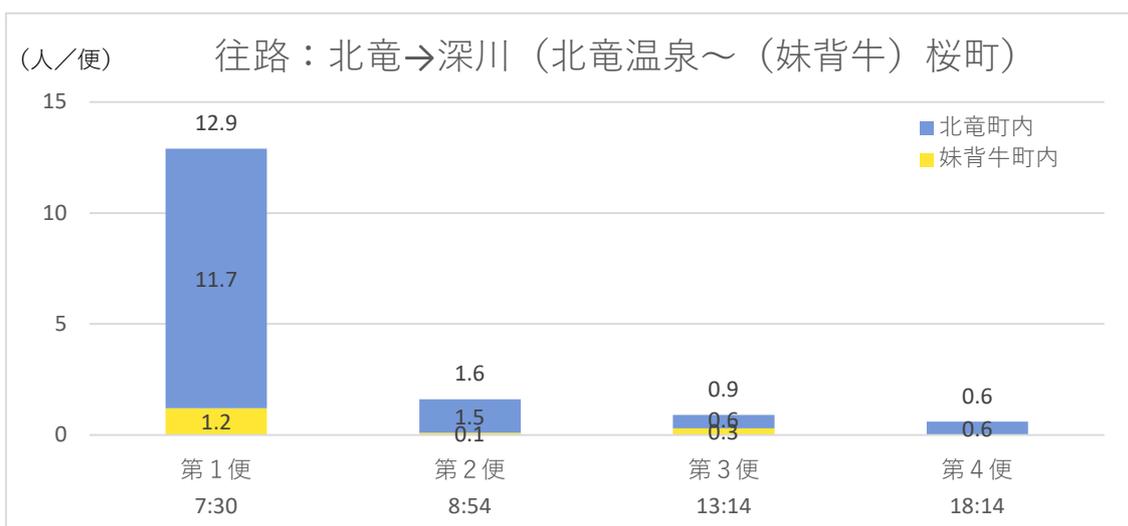


図 令和4年度における平日10日間の平均乗車人数

資料：空知中央バス(株)

## ②土曜・日曜

- ・往路は、主に土曜の深川西高校の通学により第1便が4.8人となっているものの、他の便は1人以下
- ・復路は、1～3人が利用

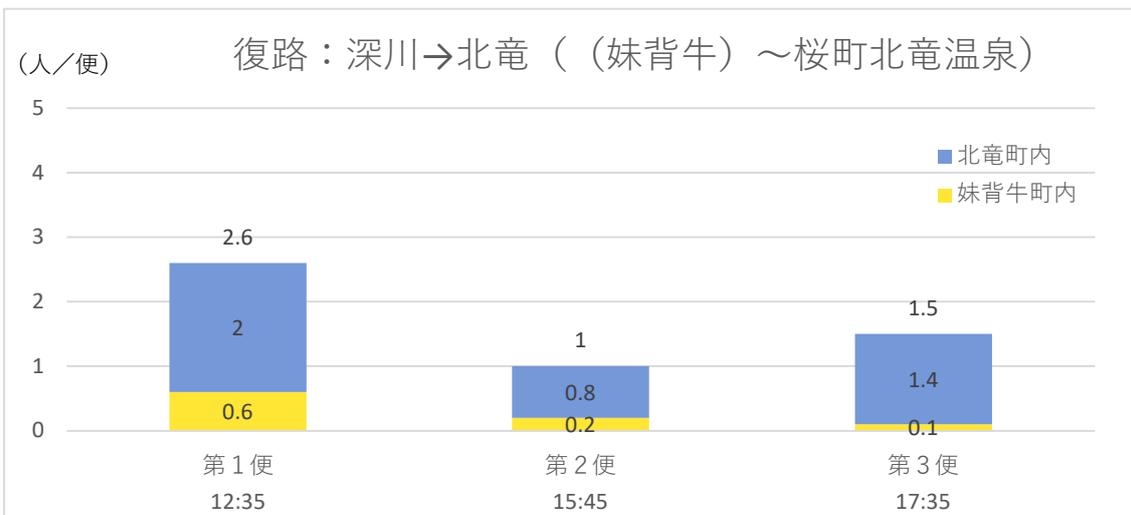
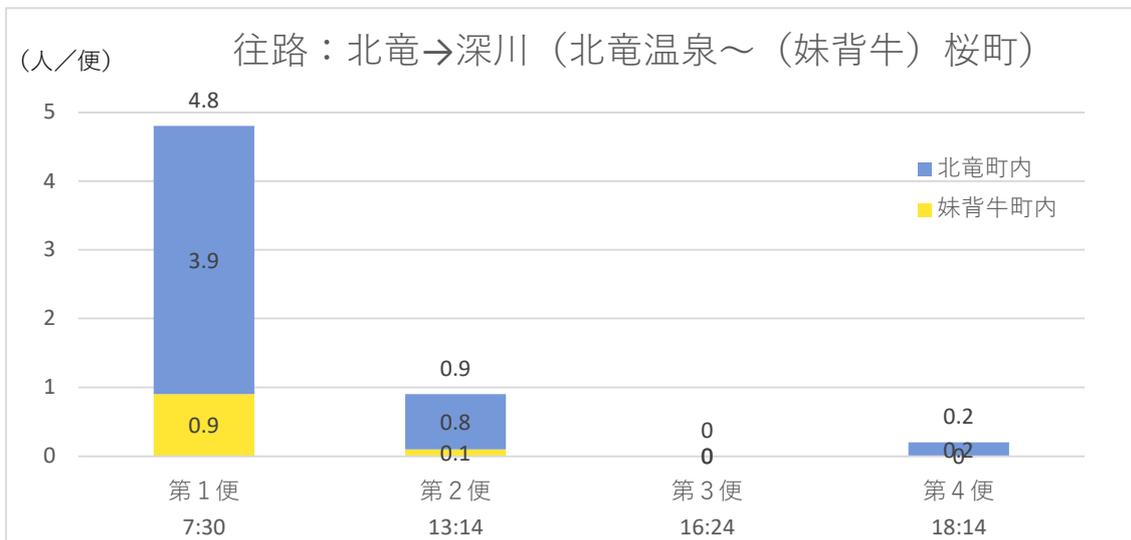


図 令和4年度における土日8日間の平均乗車人数

資料：空知中央バス（株）

## 第4章 地域公共交通の課題整理

### 4-1. 主要な課題の整理

「第2章 既往資料による地域及び公共交通の概要」と「第3章 地域公共交通実態調査」から、主要な課題を以下のとおり整理します。

#### (1) 路線バスの代替公共交通の確保

アンケート調査結果における滝川北竜線の代替交通について、利用頻度が少ない一般の方は「北竜町と滝川市間の直接アクセス」、利用頻度が多い高校生は「北竜町と雨竜町の追分市街との間のアクセス」の意見が多い状況となっています。また滝川北竜線の廃止に加え、令和6年4月からは（深川）北竜線の廃止予定への対応が必要となりました。

このため、滝川市と深川市にアクセスできる広域的な公共交通手段がある妹背牛市街地へアクセスすることで路線バスの代替となる公共交通を確保する必要があります。

#### (2) スクールバス輸送の効率化

スクールバスは美葉牛線、竜西線及び碧水線の3路線を運行していますが、スクールバスの車両に対し、輸送する児童生徒数が定員の20~40%程度と低いため、バス路線の統合など効率的なバス輸送の検討が必要です。なお、効率運行を行うにあたって路線の統合が可能な場合、新たな公共交通を運行するための運転手を確保することも可能となります。

#### (3) 乗合タクシーの収益性改善が必要

乗合タクシーは美葉牛碧水方面と竜西和方面の2エリアで1日5、6便（平日）を運行していますが、スクールバスの一般利用よりも少なく、また収益率が8%となっています。

このため乗合タクシー料金の値上げや、スクールバス一般利用者と乗合タクシー利用者の集約を検討して持続可能な運行内容へと見直しする必要があります。

#### (4) 滝川市・深川市への直接アクセス

前述のとおり、アンケート調査結果では北竜町と滝川市間の直接アクセスできる公共交通が求められておりますが、（深川）北竜線の廃止（予定）により、深川市へ直接アクセスできる公共交通が求められることが想定されます。

また北竜町内の町営バス、乗合タクシー及びスクールバスは、交通事業者における運転手不足により現在の運行を維持する以外に余裕がなく、新たなバス路線の新設などこれ以上の運行が困難な状況となっています。

一方で住民による自家用車を含めた移動は、平日一日で深川市が80人弱、滝川市が30人強となっています。

このため、地域中心都市である滝川市と深川市へ直接アクセスできる公共交通については、町内の交通事業者に頼らない方法を含めた研究・検討が必要です。

## **(5) 公共交通サービスを持続的に確保することが必要**

現状の公共交通利用状況は利用していない方が多く、かつ利用頻度についてもほとんどが年に数回程度となっており、高校生以外の方は公共交通の利用が少数にとどまるため、公共交通を維持するためには地域住民の協力が必要となります。

また高齢ドライバーの方は、運転に対して過信がある状況がうかがえ、公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態へと変えていくことが必要です。

## 4-2. 計画策定の方向性

### (1) 路線バスの代替公共交通の確保

住民アンケートにおける利便性、妥当な運行コストにおける持続性の確保、車両の適正配置といった観点から、滝川北竜線や（深川）北竜線の利便性を考えた、アクセス交通を検討します。

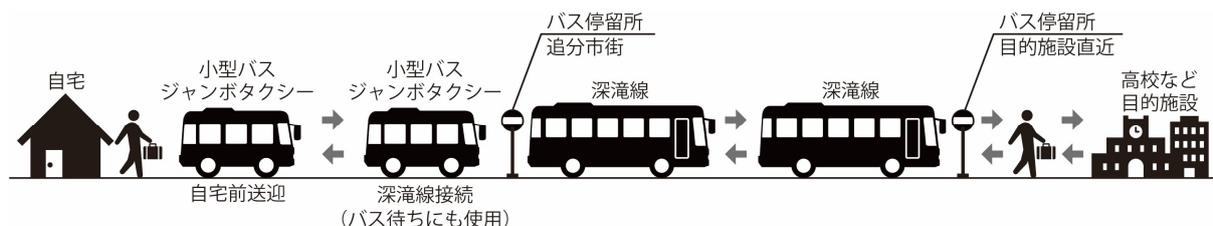


図 利便性を考えたアクセス交通のイメージ

### (2) スクールバス路線の統合

スクールバスの運行を維持するために、路線の統合について検討を行います。

- ・ 現 在 (3 路線) : 美葉牛線、碧水線、竜西線
- ・ 統合の例 (2 路線) : 美葉牛・碧水線、竜西・和線

### (3) 乗合タクシーの収益性改善

乗合タクシーなど自宅前送迎を行うデマンド交通の維持にあたっては、以下の検討による収益率の向上を図ります。

- ・ 乗合タクシー運賃の値上げ (例えば 200 円→300 円)
- ・ スクールバス一般混乗の廃止検討 → 乗合タクシーへの一般利用の集約化

### (4) 滝川市・深川市との直接アクセスの検討

住民の要望が多いことが考えられる北竜町と滝川市・深川市と直接アクセスできる交通手段について、自家用車への相乗り (ライドシェア) を含めた研究・検討を行います。

## 第5章 地域公共交通計画の策定

### 5-1. 計画の基本的な方針

公共交通の現況やアンケート調査、乗降調査などの実態調査による課題及び公共交通の方向性と、総合計画など上位・関連計画から、地域公共交通計画の将来像や基本方針を以下のとおり定めます。

なお北竜町地域公共交通は、空知中央バス深滝線と沿岸バス・道北バス留萌旭川線を地域間幹線として位置づけ、広域公共交通とのネットワークを形成することにより、地域全体の持続的な旅客サービスの提供を確保します。

また北竜町地域公共交通は北竜町運営有償運送、乗合タクシー等により、公共交通体系の構築を図ります。

#### (1) 目指すべき将来像・基本方針

目指すべき将来像と基本方針は、地域公共交通の課題や北竜町総合計画の各種施策における公共交通が担うべき内容から定めます。

○北竜町総合計画の各種施策における公共交通が担うべき内容

＜土地利用＞	＜高齢者等福祉＞	＜観光振興＞
<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適で機能的な市街地整備と連携が図られた公共交通の確保</li> <li>・ひとが集い、安心して暮らすことができることに寄与する公共交通の確保</li> <li>・医療・買物等の利便性の高い暮らしを支える公共交通の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動等の生きがいを支える公共交通の確保</li> <li>・老人クラブ活動等を支える公共交通の確保</li> <li>・支え合いセンターなどの集いの場への交流を支える公共交通の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバウンド観光や観光客の増加に対応する公共交通の確保</li> <li>・サンフラワーパークやひまわりの里での交流を支える公共交通の確保</li> </ul>

○目指すべき将来像・基本方針

<p>○目指すべき将来像</p> <p style="text-align: center;">近隣市町と連携を図りながら 交通弱者にやさしい北竜町地域公共交通の維持確保を図る</p>
<p>○基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●方針1：行政区域を跨いだ広域的な視点に立った公共交通ネットワークを構築する。</li> <li>●方針2：自宅前送迎等により交通弱者にもやさしい効率的な地域公共交通を実現する。</li> <li>●方針3：町ぐるみで地域の生活交通を守り育てていくことにより、持続可能な地域公共交通を実現する。</li> </ul>

## **(2) 計画の区域**

本計画の区域は北竜町行政区域とします。

また広域公共交通とのアクセス性を維持することの目的地としては、妹背牛町を含めます。

## **(3) 計画の期間**

本計画の期間は、2021 年度（令和 3 年度）から 2025 年度（令和 7 年度）までの 5 年間とします。

#### (4) 公共交通の機能分担と性格・役割

地域公共交通の基本理念と基本方針から、北竜町地域公共交通として位置づける各公共交通の機能分担、性格・役割を以下のとおり整理し、これを将来の公共交通体系とします。なお令和4年7月に策定された北空知4町地域公共交通計画と整合を図るものとします。

表 公共交通の機能分担と性格・役割

機能分類		性格・役割
広域交通・地域間交通 ・北海道中央バス高速るもい号 ・沿岸バス留萌旭川線 ・空知中央バス深滝線		・広域的な公共交通軸 ・通勤、通学、通院、買物、観光など多様な目的に対応
町内公共交通	地域内フィーダー系統 ・アクセス交通 ▶町営バス北竜妹背牛線（変更）※ ▶乗合タクシー ▶連絡施設間運行便	・市街地内及び市街地と郊外部との間の生活を支える路線 ・通学（滝川市）、通院、買物等の目的に対応
	補完交通 ・ハイヤー ・滝川・深川アクセス交通（新規）	・主に通院、買物などの目的に対応
	補完交通 ・スクールバス	・児童生徒の登下校などに対応 ・高齢者の買物、通院等に利用

※：空知中央バス（深川）北竜線の廃止に伴い、町営バス北竜追分線から同北竜妹背牛線にルート変更

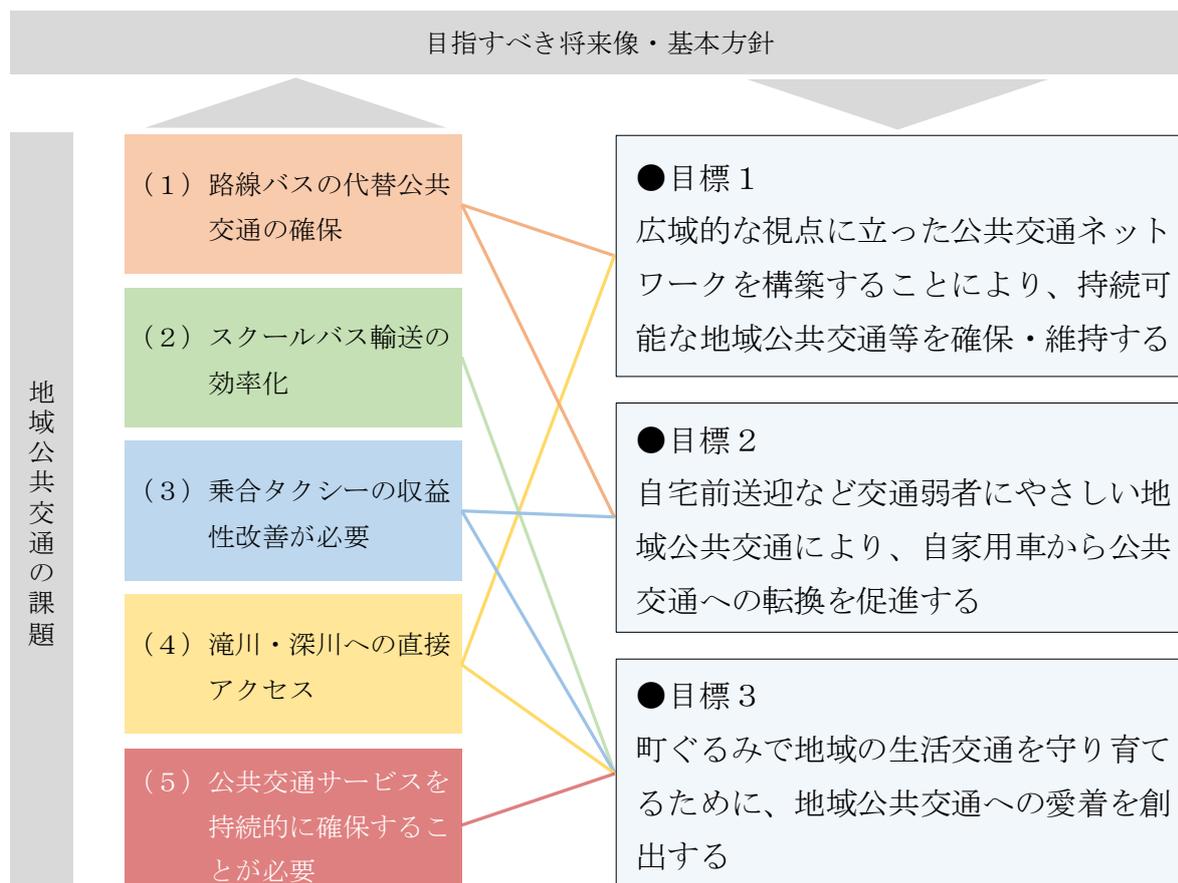


図 北竜町の公共交通体系

## 5-2. 計画の目標

### (1) 基本目標

目指すべき将来像を具現化するために、公共交通の課題を踏まえ以下の3つを基本目標として設定し、「住民」、「交通事業者」及び「行政」の相互協力により、基本目標の実現を目指します。



## (2) 評価指標・目標値

以下に基本目標に対応した評価指標・目標値を設定します。

基本目標 (略称)	評価指標	現況・現況値 ※	目標・目標値	備考	
(1) 持続可能な 地域公共交 通等を確 保・維持す る	広域公共交通の維持	北空知4町地域公共交通計画 にて設定			
	アクセス交通・町内公 共交通の輸送人数等	輸送人数	15,991人/年	9,559人/年	注1
		収益率 町負担額	13.6% 23,358千円	11.5% 12,497千円	注2 注3
	スクールバスの効率化	3路線	2路線		
自宅前送迎の予約情報処理による 運行支援と予約情報の活用	運行支援と 活用中	引き続き実施			
(2) 自家用車か ら公共交 通への転換を 促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数	実施中	65人/5ヵ年	注4	
	乗合タクシーなどの新規利用登録 者数	新規登録 受付中	11人/5ヵ年	注5	
(3) 地域公共交 通への愛着 を創出する	利用者のニーズの把握と反映（意 識調査の実施）	直近でH30に 実施	計画期間中に 1回以上実施		
	地域に親しまれる愛称の設定	—	愛称の設定		
	分かりやすい自宅前送迎の案内	18.8%	25%	注6	

※「現況・現況値」について、「アクセス交通・町内公共交通の輸送人数等」は「R4」、他は「R1」

### 注1 輸送人数

項目	令和4年 実績	令和7年 目標
空知中央バス(深川)北竜線	8,574人 <sup>※1</sup>	—
町営バス北竜妹背牛線	—	2,142人 <sup>※2</sup> +2,598人
町営バス北竜追分線	2,598人	—
乗合タクシー(3区域)	2,734人	
スクールバス一般利用	2,085人	
合計	15,991人 (深川)北竜線を除く 7,417人	9,559人

### ※空知中央バス(深川)北竜線の輸送人数(北竜町内)

<p>※1 令和4年 実績 空知中央バス(深川)北竜線の令和4年度輸送人数(バス乗降調査結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平日: 30.4人/日 × 247日 = 7,509人</li> <li>・休日: 9.1人/日 × 118日 = 1,065人</li> </ul> <p>計 = 8,574人</p> <p>※2 令和7年 目標 町営バス北竜追分線の実績から乗継による減少を見込む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(深川)北竜線人数 × (北竜追分線人数 ÷ 滝川北竜線人数)</li> </ul> <p>= 8,574人 × (2,598人 ÷ 10,396人) = 2,142人</p>
--

## 注2 収益率(収支率)

### ○収益

項目	令和4年実績	令和7年目標
空知中央バス(深川)北竜線	1,980千円 <sup>※1</sup>	—
町営バス北竜妹背牛線	—	495千円 <sup>※2</sup> +399千円
町営バス北竜追分線	399千円	—
乗合タクシー(3区域)	527千円	
スクールバス一般利用	187千円	
合計	3,093千円	1,608千円

### ※全収益に対する北竜町内の按分

<p>※1 令和4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全収益×北竜町内人数÷全人数</li> <li>4,672千円×(8,574人÷20,231人)=1,980千円</li> </ul> <p>※2 令和7年目標 町営バス北竜追分線の実績から乗継による減少を見込む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1,980千円×(2,598人÷10,396人)=495千円</li> </ul>
---

### ○運行費

項目	令和4年実績	令和7年目標
空知中央バス(深川)北竜線	10,727千円	—
町営バス北竜妹背牛線	—	7,859千円
町営バス北竜追分線	5,876千円	—
乗合タクシー(3区域)	6,059千円	
スクールバス一般利用	—	
合計	22,662千円	13,928千円

### ※全運行費用に対する北竜町及び妹背牛町内の案分

<p>※1 令和4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>18,153千円×(11.7km÷19.8km)=10,727千円</li> </ul> <p>※2 令和7年目標 町営バス北竜追分線の実績から運行費用を算定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5,876千円×(14.1km÷12.3km)×(7便÷6便:1便増便)=7,859千円</li> </ul>
--

### ○収益率(収支率)

項目	令和4年実績	令和7年目標
収益率(収支率)	13.6%	11.5%

## 注3 町負担額

項目	令和4年実績	令和7年目標
空知中央バス(深川)北竜線	13,481千円	—
町営バス北竜妹背牛線	—	6,965千円
町営バス北竜追分線	4,345千円	—
乗合タクシー(3区域)	5,532千円	
スクールバス一般利用	—	
合計	23,358千円	12,497千円

## 注4 高齢者運転免許証の自主返納者数

- 近年の実績値により設定(H27:15名、H28:8名、H29:12名、H30:15名、R1:13名)5ヵ年で63名⇒65名  
高齢者運転免許自主返納サポート事業の実績 R2:26人、R3:31人、R4:33人

## 注5 乗合タクシー(3区域)などの新規利用登録者数

- 北竜町総合計画(地域公共交通登録者数 2018年度末229人→2023年度末240人 5ヵ年で11人増)

## 注6 分かりやすい自宅前送迎の案内

- 現況値は平成27年度の乗合タクシーアンケート調査で、「十分把握できた」と回答した方の割合
- 利用者のニーズ把握時において検証する

### 5-3. 計画に位置づける取組み及び実施主体

計画の目標を達成するために、地域公共交通計画に位置づける取組みを以下のとおり整理します。

また次頁以降に取組みの概要及び実施主体を整理します。

基本目標 (略称)	評価指標	取組み
(1) 持続可能な 地域公共交 通等を確 保・維持す る	広域公共交通の維持	①広域公共交通の維持【継続】
	アクセス交通・町内公共交通の輸送 人数等	②町営バス北竜妹背牛線の運行【変更】 ③乗合タクシーの運行維持【継続】 ④連絡施設間運行便の維持【継続】 ⑤自家用車への相乗り交通の研究・検討
	スクールバスの効率化	⑥スクールバス一般利用【廃止検討】
	自宅前送迎の予約情報処理による 運行支援と予約情報の活用	⑦デマンド交通支援プログラムの維持・活 用【継続】
(2) 自家用車か ら公共交 通への転換を 促進する	高齢者運転免許証の自主返納者数	①高齢者運転免許証自主返納サポート事業 の維持【継続】
	乗合タクシーなどの新規利用登録 者数	②新規利用登録者の募集【継続】
(3) 地域公共交 通への愛着 を創出する	利用者のニーズの把握と反映（意識 調査の実施）	①利用者登録者への意識調査実施 【継続】
	地域に親しまれる愛称の設定	②愛称の募集・設定【継続】
	分かりやすい自宅前送迎の案内	③利用案内パンフレットの作成 【継続】

## (1) 持続可能な地域公共交通等を確保・維持する

### ①広域公共交通の維持【継続】

#### 1)概要

- ・町内公共交通と接続する広域公共交通は、JR 函館本線、空知中央バス深滝線及び沿岸バス・道北バス留萌旭川線となり、特に JR 函館本線、空知中央バス深滝線の利用増に貢献します。
- ・路線バスとしては、地域間幹線系統である空知中央バス深滝線と沿岸バス・道北バス留萌旭川線の維持・確保を推進します。

#### 2)事業者

- ・空知中央バス(株)、沿岸バス(株)・道北バス(株)とします。
- ・自宅前送迎の連絡施設の位置づけや、路線バス時刻表の案内等は北竜町が行います。

#### 3)財政的支援

- ・国、北海道、北竜町及びその他沿線市町とします。

## ②町営バス北竜妹背牛線の運行【変更】

### 1)運行概要

#### 【町営バス北竜妹背牛線の必要性】

- ・令和4年3月で廃止した中央バス滝川北竜線の代替路線として、碧水から雨竜町追分市街までを結ぶ町営バス北竜追分線を運行しましたが、空知中央バス（深川）北竜線が令和6年3月で廃止予定のため、滝川市内に加え、深川市内の高校、病院、商業移設等へのアクセスが可能となるよう、町営バス北竜追分線から町営バス北竜妹背牛線にルート変更を行います。

#### 【乗継ぎによる生活交通の確保】

- ・町営バス北竜妹背牛線は、滝川市方面が JR 函館本線、深川市方面が空知中央バス深滝線との乗継により、通学、買物及び通院等の生活交通を確保する公共交通として運行します。

#### 【JR 妹背牛駅前、妹背牛（十字街）に加え北竜町のためのバス停留所の設置】

- ・起終点は碧水市街地から JR 妹背牛駅前とし、妹背牛（十字街）に加え北竜町のためにバス停留所を設置します。
- ・将来的に、碧水市街地から美葉牛方面への延伸を検討します。

#### 【定時定路線と予約定路線による運行】

- ・町営バス北竜追分線の便別の乗車人数から、主に高校通学に利用される便は「定時定路線」、一般の方の通院、買物等は「予約（不定期）定路線」により運行を行います。

表 町営バス北竜妹背牛線

項目	定時便	不定期（予約）便	備考
往路（碧水市街⇒妹背牛駅前）	2便	2便	有償
復路（妹背牛駅前⇒碧水市街）	2便	1便	有償
合計	4便	3便	

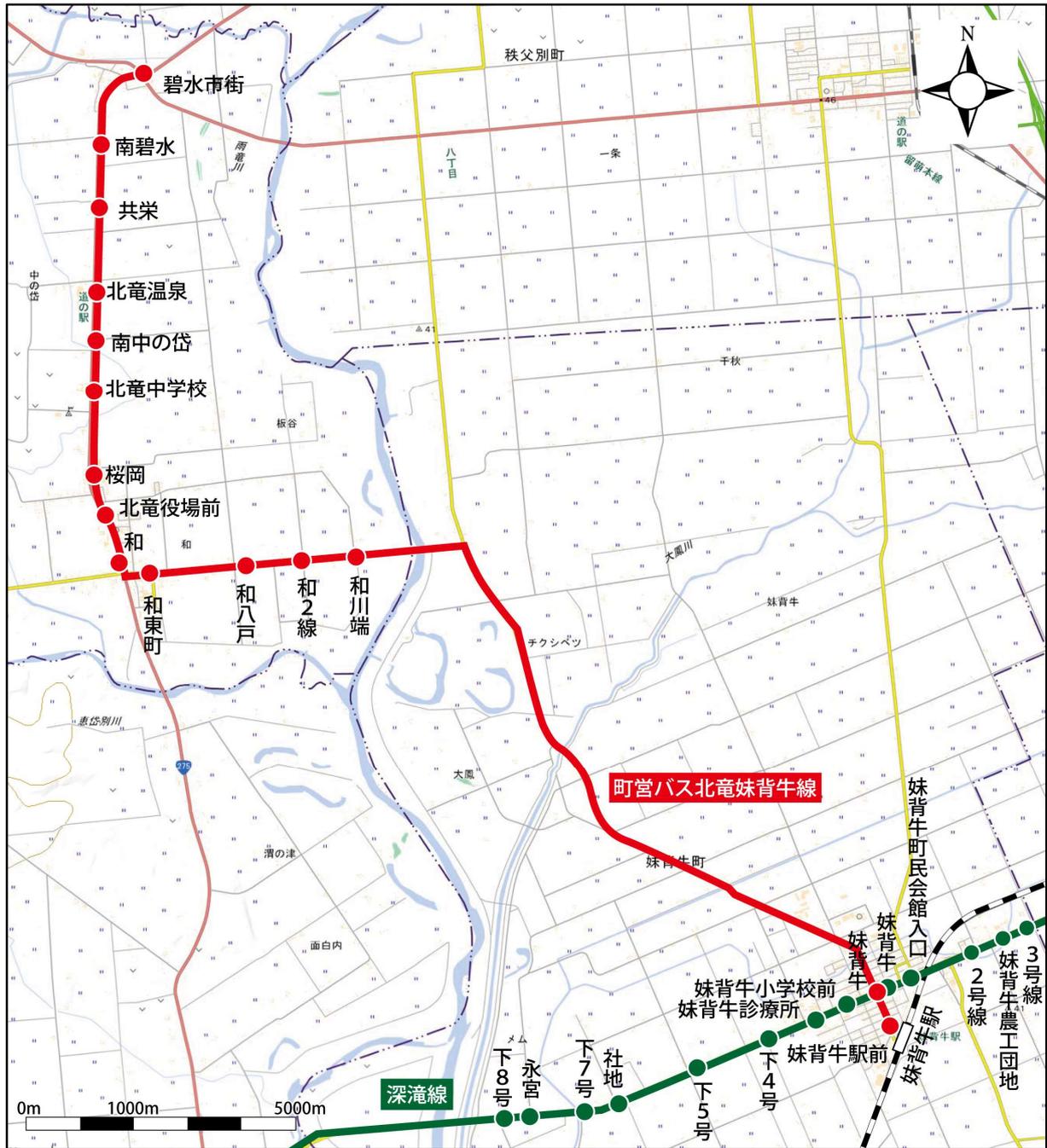


図 町営バス北竜妹背牛線運行路線図

## 2)運賃

- 乗車料金及び高校通学定期券については、町営バス北竜追分線の料金を踏襲し、かつ料金改定により以下のとおり定めることが考えられます。

表 町営バス北竜妹背牛線の料金（参考例）

項目	空知中央バス（深川）北竜線	町営バス北竜妹背牛線
○1 乗車当たり 料金	北竜温泉 ⇄ 妹背牛 420 円	北竜町内 100 円（50 円） 北竜町⇄妹背牛町 200 円（100 円）
○高校通学 1 カ月通学定期	北竜温泉 ⇄ 深川西高前 19,440 円 妹背牛 ⇄ 深川西高前 10,440 円 差し引き（北竜温泉⇄妹背牛） 9,000 円	・ 4,500 円（3,150 円）
○高校通学 3 カ月通学定期	北竜温泉 ⇄ 深川西高前 55,400 円 妹背牛 ⇄ 深川西高前 29,750 円 差し引き（北竜温泉 ⇄ 妹背牛） 25,650 円	・ 12,800 円（8,960 円）程度が考 えられる。

※（金額）は、障がいをお持ちの方や介護認定を受けている方等の減免金額

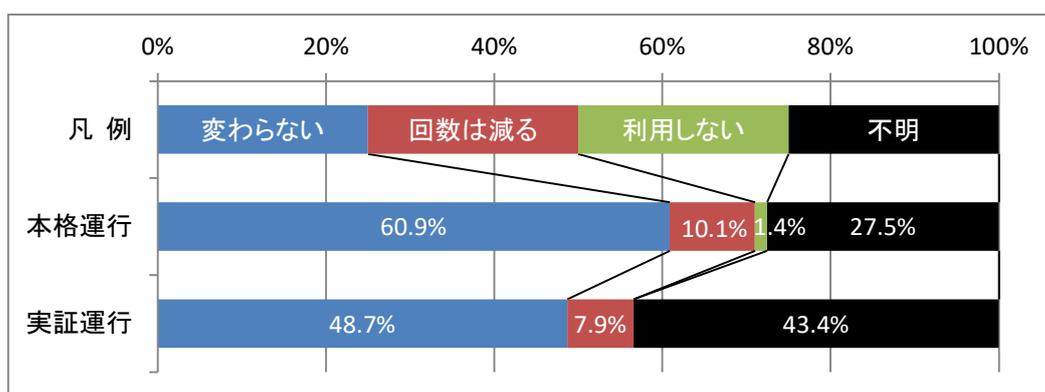


図 乗合タクシー料金を 200 円から 300 円にした場合の利用回数

出典：平成 27 年度利用登録者へのアンケート調査（実証運行は H26 に実施したもの）

### 3)財政的な支援

- ・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、JR 函館本線及び空知中央バス深川滝川線にアクセスする地域内フィーダー系統として、国に支援を要望します。

### 4)運行車両

- ・運行車両は車両減価償却費等国庫補助金により、登下校時の高校生の送迎が可能なマイクロバス（20～30 人乗り）を確保します。また予備車は、サンフラワーパークホテルの送迎に使用している車両を想定します。

### ④事業者

- ・事業者は北竜町としますが、町内交通事業者等の協力を得ながら運行します。

### 表 町内交通事業者等

和ハイヤー(有)、(株)北竜町振興公社等
----------------------

### ③乗合タクシーの運行維持【継続】

#### 1)概要

- ・乗合タクシーは現行と同じ運行方法とし、利用登録者宅と連絡施設間を直接輸送するもの  
とします。
- ・運行方面は「美葉牛・碧水方面」、「竜西・和方面」とします。

表 連絡施設リスト

○全 18 箇所
01)福祉センター 02)町立診療所 03)ココワ 04)町立歯科診療所 05)公民館
06)役場 07) サンフラワーパーク北竜温泉 08) J Aきたそらち北竜支所
09)セイコーマートへきすい店 10) B & G 海洋センター (プール)
11)北竜ひまわり整骨院 12)ひまわりパークゴルフ場 13)碧水支え合いセンター
14)禅林寺 15)弘徳寺 16)竜泉寺 17)法光寺 18)清雲寺

- ・運行は、ハイヤー業務との併用の関係で、「美葉牛・碧水方面」と「竜西・和方面」を交互  
に行います。
- ・運行時間帯については、「美葉牛・碧水方面」、「竜西・和方面」とも午前が往路（行き）2  
便、復路（帰り）1 便、午後は復路（1 便）を設定します。

表 運行便数（「美葉牛・碧水方面」、「竜西・和方面」）

項目	午前	午後
往路（行き）	2 便	1 便
復路（帰り）	—	1 便
合計	2 便	2 便

※日曜祝日運休

#### 2)運賃

- ・現行料金から運賃改定を行います。

表 乗合タクシー料金

項目	現行	改定
料金	200 円 (100 円)	300 円 (150 円)

※（金額）は、障がいをお持ちの方や介護認定を受けている方等の減免金額

### **3)財政的支援**

- ・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、沿岸バス・道北バス留萌旭川線の地域内フィーダー系統として、国に支援を要望します。

### **4)運行車両**

- ・現行と同様にハイヤー事業と併用しながら、事業者が保有する車両を用いて輸送します。

### **5)事業者**

- ・運行事業者は和ハイヤー(有)とします。

### **6)自宅前送迎の事前予約の受付**

- ・乗合タクシーの事業者は、事前乗車の予約受けを合わせて行い、後述のデマンド交通支援プログラムにより輸送計画を立案して運行を行うものとします。

#### ④連絡施設間運行便の維持【継続】

##### 1)概要

- ・連絡施設間の輸送（連絡施設間運行便）を引き続き行います。
- ・対象とする連絡施設は、乗合タクシーで設定した18施設とします。
- ・運行時間帯については、乗合タクシー運行の間にて午前、午後それぞれ1便を運行します。

表 連絡施設間運行便数

項目	午前	午後
連絡施設間運行便	1便	1便

##### 2)運賃

- ・現行料金から運賃改定を行います。

表 乗合タクシー料金

項目	現行	改定
料金	100円（50円）	150円（100円）

※（金額）は、障がいをお持ちの方や介護認定を受けている方等の減免金額

##### 3)財政的支援

- ・運行費用から料金収入を差し引いた赤字額については、沿岸バス・道北バス留萌旭川線の地域内フィーダー系統として、国に支援を要望します。

##### 4)運行車両

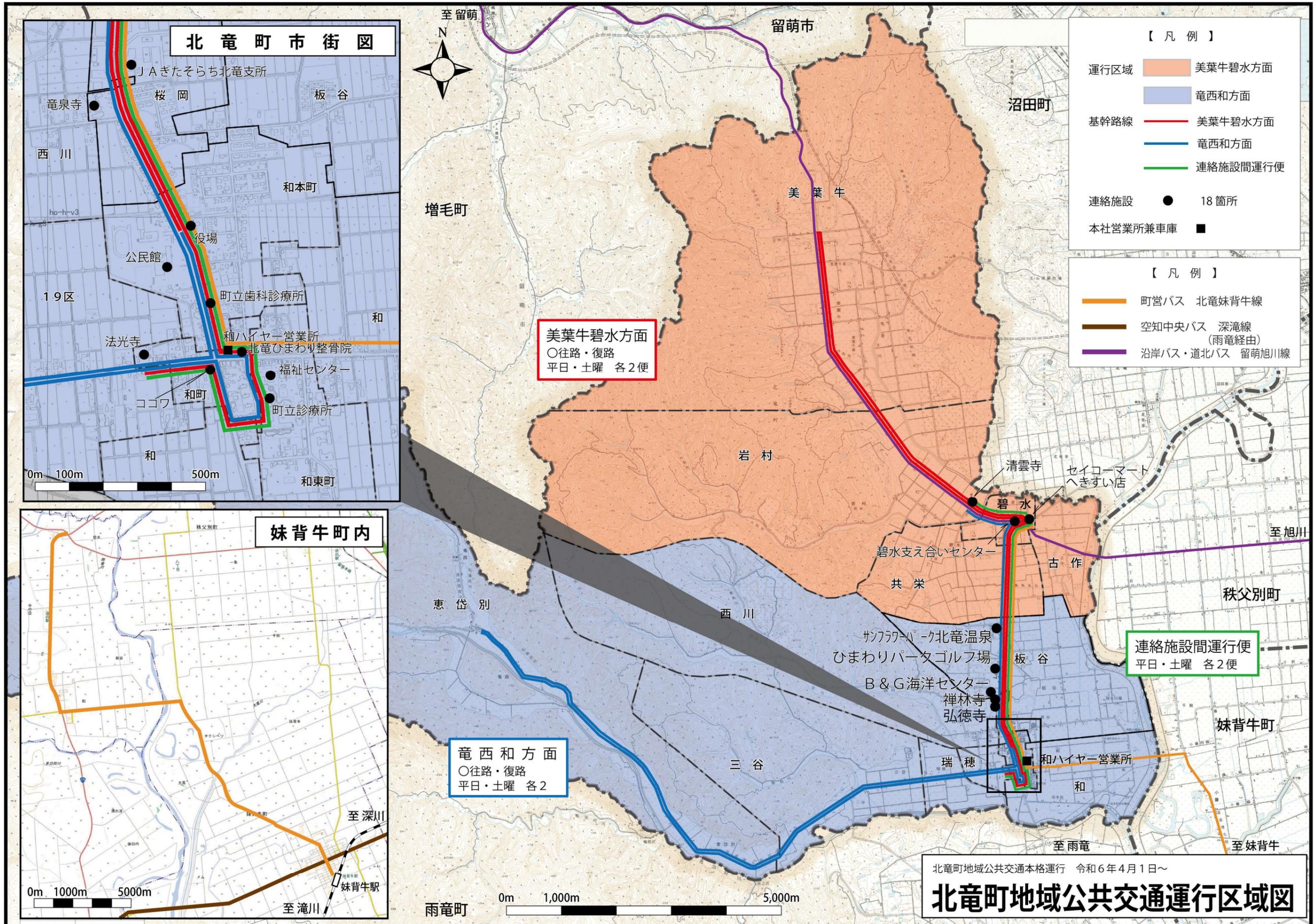
- ・現行と同様に和ハイヤーが保有する車両を用いてハイヤー事業と併用します。

##### 5)事業者

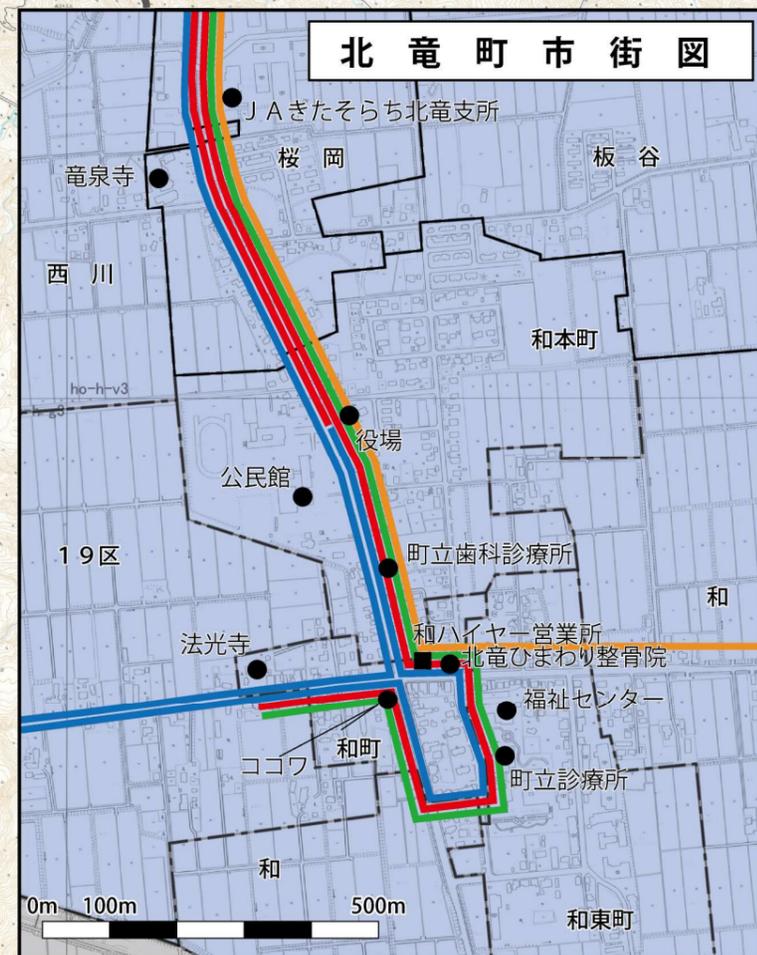
- ・運行事業者は和ハイヤー(有)とします。

##### 6)自宅前送迎の事前予約の受付

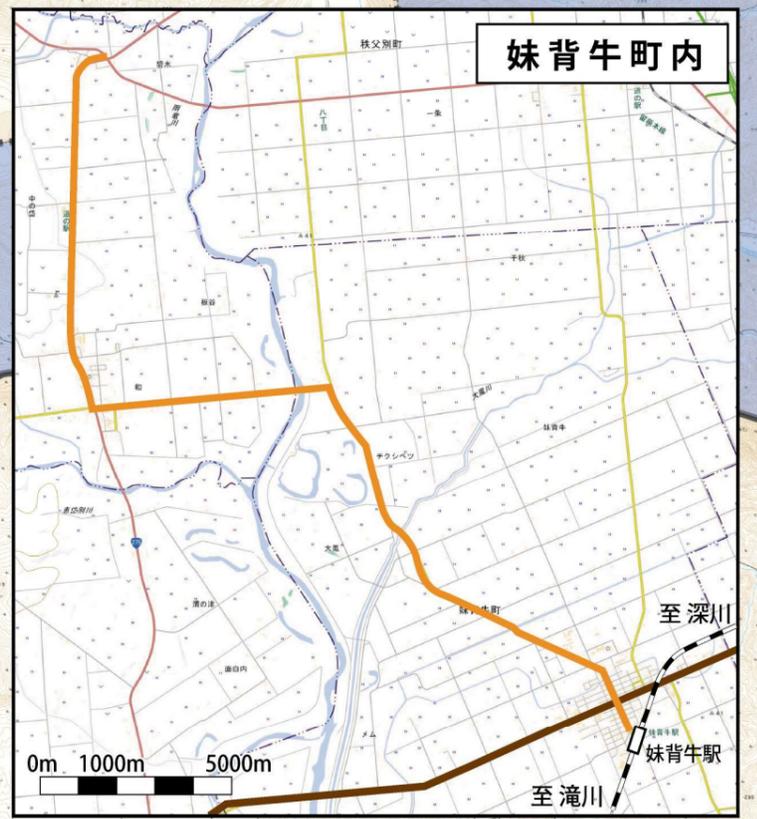
- ・乗合タクシーの事業者は、事前乗車の予約受付けを合わせて行い、後述のデマンド交通支援プログラムにより輸送計画を立案して運行を行うものとします。



**北竜町市街図**



**妹背牛町内**



**美葉牛碧水方面**  
○往路・復路  
平日・土曜 各2便

**竜西和方面**  
○往路・復路  
平日・土曜 各2

**連絡施設間運行便**  
平日・土曜 各2便

北竜町地域公共交通本格運行 令和6年4月1日～  
**北竜町地域公共交通運行区域図**



## ⑤自家用車への相乗り交通の研究・検討

### 1)概要

- ・滝川市や深川市に自家用車を用いて通勤目的や買物目的で移動する住民が多い現状と、町内交通事業者における運転手不足の状況を踏まえ、自家用車により移動することができない住民と自家用車で移動する住民のマッチングを行い、ガソリン代程度で相乗りするシステムの研究・検討を行います。

### 2)事業者

- ・北竜町により乗せる側と乗る側の住民へ、Web を用いてのアンケート調査の実施を検討し、実現性の検証を行います。

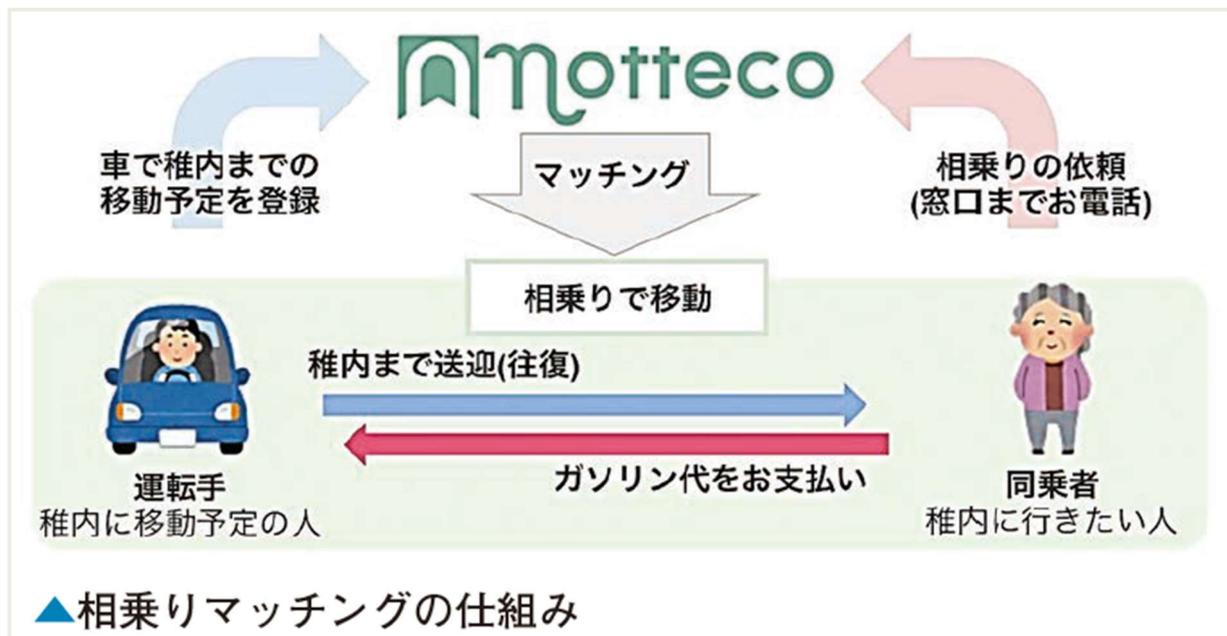


図 自家用車を用いた相乗り交通の例

資料：天塩町

## ⑥スクールバス一般利用の取りやめ【廃止検討】

### 1)概要

- ・スクールバスへの一般利用は平成 27 年度から有償により行ってきましたが、アクセス交通の運転手を確保することを目的に、スクールバスの合理化を図るため、路線数の変更を検討するとともに、児童生徒の輸送に必要な時間が長くなるため、一般利用の取りやめを検討します。
- ・乗合タクシーの輸送人数は平成 30 年度をピークに減少しているため、一般利用の取りやめはアクセス交通運行開始と同時期に行いますが、スクールバス路線の 2 路線化は児童生徒保護者への説明に要する期間等を考慮して実施時期を設定します。
- ・スクールバス一般利用を取りやめることを受け、一般利用はアクセス交通（北竜町運営有償運送と乗合タクシー）に集約化することとなります。このことによりアクセス交通の輸送人数の確保を図り、事業の収益率を高めるものとします。

### 2)事業者

- ・事業者は北竜町としますが、町内交通事業者等の協力を得ながら運行します。

表 町内交通事業者等

(株) 北竜町振興公社
-------------

## ⑦デマンド交通支援プログラムの維持・活用

- ・デマンド交通支援プログラムは、北竜町運営有償運送と乗合タクシーの自宅前送迎（デマンド交通）について、利用者からの予約情報の処理を行い、一つの運行便に対して、利用者宅での乗車・降車と連絡施設での乗車・降車の運行順と運行時刻（輸送計画）を表示するものです。

### 1)プログラムの保守点検【継続】

- ・アクセス交通の自宅前送迎の運行に合わせ、マイクロバスにおいても情報処理が可能なプログラムに修正します。
- ・プログラムによって情報処理を行う内容は以下のとおりです。
  - ・予約状況の集計（日にち別便別方面別）
  - ・運行便の利用者リストの作成
  - ・利用者リストの乗車、あるいは降車順の並べ替えと予定到着時刻の設定
- ・実施主体は、「北竜町」とします。

### 2)運行効率化のための活用【継続】

- ・プログラムに入力したデータを用いて以下の項目で集計を行い、運行の効率化を検討する基礎的なデータとして活用します。
  - ・方面別便別利用者数、平均乗車人数及び運行・運休率
  - ・連絡施設の乗降人数
  - ・利用登録者毎の年間利用回数 など
- ・実施主体は、「北竜町」とします。

## (2) 自家用車から公共交通への転換を促進する

令和2年10月1日現在、乗合タクシーの利用登録者数は191人となっていますが、登録のみで利用されていない方が多数存在します。登録のみの方は自家用車を利用されているため、こういった方々へモビリティ・マネジメント※を推進し、自家用車からアクセス交通をはじめとした公共交通の利用を促進します。

※モビリティ・マネジメント（MM）とは、「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取組みを意味するもの。

### ①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持【継続】

- ・近年の高齢ドライバー等の交通事故をできるだけ抑えていくために、自家用車から公共交通への転換として、タクシーチケットを支給する「高齢者運転免許証自主返納サポート事業」を引き続き推進します。
- ・実施主体は、「北竜町」とします。

ご存知ですか？  
『高齢者運転免許証自主返納サポート事業』

今年4月から65歳以上の町民が運転免許証を自主返納した場合に3年間有効の50,000円分(500円券×100枚)のタクシーチケットを支給するサポート事業を開始しました。

- 対象者 65歳以上の町民
- 申請書類 「運転経歴証明書」と「運転経歴証明書交付手数料の領収書」と「印鑑」
- 申請先・問い合わせ先 役場住民課町民生活係 TEL34-2111

申請を希望される方は住民課町民生活係にお越しください。

図 「高齢者運転免許証自主返納サポート事業」の周知 出典：2015 広報10月号

### ②新規利用登録者の募集【継続】

- ・中央バス滝川北竜線の廃止（予定）と併せ、代替交通としてのアクセス交通の利用について、北竜町の広報誌や地域住民への懇談会を通じて呼びかけ、新規登録者を確保します。
- ・実施主体は、「北竜町」とします。

10月1日から  
運行内容が変更します

北竜町地域公共交通会議では乗り合いタクシーとスクールバスについて、5月に利用者に対してアンケート調査を実施しました。皆さまのご意見と利用状況を踏まえ次のとおり運行内容を変更します。

- スクールバス竜西線の減便・竜西方面の乗り合いタクシーの増便
  - ・利用者の減少に伴い第2便（9時台）を減便とします。
  - ・スクールバス減便に伴い、竜西方面の9時台に乗り合いタクシーを運行します。
- 連絡施設の一部廃止（全便共通）
  - ・利用状況により連絡施設から「碧水生きがいセンター」と「町営スキー場」の2カ所を廃止します。

連絡施設  
①老人福祉センター ②町立診療所 ③老人憩の家 ④Aコープ北竜店 ⑤町立歯科診療所 ⑥公民館  
⑦役場 ⑧サンフラワーパーク北竜温泉 ⑨JAきたそらち北竜支所 ⑩セイコーマートへきすい店  
⑪B&G海洋センター(プール) ⑫北竜ひまわり整形外科

乗り合いタクシーを使ってみたいけど、利用の仕方がわからない方へ

- ①事前に役場へ登録をお願いします。企画振興課企画係に電話（TEL34-2111）してください。利用するかどうかも未定でも、まずは登録をオススメします。
- ②利用したい日と便が決まったら、和ハイヤーに電話（TEL34-2659）して、「乗合タクシーの予約」とお伝えしてください。  
「利用日」と「利用便名」と「連絡施設」、「行き」か「帰り」のいずれかをお伝えください。また、「介助者」がいる場合はその事もお伝えください。
- ③運賃の支払いは、現金または回数券でお支払いください。

広報10月号と一緒に利用案内のチラシが入っています。  
わからない所がありましたらお気軽にお問い合わせください。 ■企画振興課企画係 TEL34-2111  
■和ハイヤー TEL34-2659

図 乗合タクシー運行内容の変更及び利用登録の呼びかけ 出典：2015 広報10月号

### (3) 地域公共交通への愛着を創出する

#### ①利用者への意向調査の実施【継続】

- ・利用登録者の意向を把握し、運行内容を改善していくために、定期的にアンケート調査などの意向調査を実施します。現在まで実施した意向調査は次のとおりです。
- ・実施主体は、「北竜町」とします。

表 アンケートなど意向調査の経過

<p>①住民アンケート調査（平成 25 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 849 世帯配布、316 世帯回収の回収率 37.2%、回収票数は 614 票</li></ul> <p>②スクールバス利用者アンケート調査（平成 25 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 50 票配布、41 票回収の回収率 82.0%</li></ul> <p>③ひまわりクラブ・いきいきクラブ参加者アンケート調査（平成 25 年度）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 90 票配布、58 票回収の回収率 64.4%</li></ul> <p>④第 1 回実証運行（平成 25 年度）</p> <p>【自宅前送迎車利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 65 票配布、35 票回収の回収率 53.8%</li></ul> <p>【スクールバスアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 50 票配布、20 票回収の回収率 40.0%</li></ul> <p>【ひまわりクラブ・いきいきクラブ参加者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 83 票配布、56 票回収の回収率 67.5%</li></ul> <p>⑤第 2 回実証運行（平成 26 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 126 票配布、76 票回収の回収率 60.3%</li></ul> <p>【スクールバスアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 18 票回収</li></ul> <p>⑥本格運行後（平成 26 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 164 票配布、96 票回収の回収率 58.5%</li></ul> <p>【スクールバスアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 16 票回収</li></ul> <p>⑦本格運行後（平成 27 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録者アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 210 票配布、100 票回収の回収率 47.6%</li></ul> <p>【高校生世帯アンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 39 票配布、19 票回収の回収率 48.7%</li></ul> <p>⑧本格運行後（平成 30 年度）</p> <p>【乗合タクシー利用登録のご案内】（町内 75 歳以上の方 251 人を対象に利用登録を案内）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新規利用登録 23 人</li></ul> <p>【乗合タクシーアンケート調査】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 乗合タクシーを 1 回も利用していない 71 人の利用登録者を対象に、自家用車から公共交通の利用転換を促すアンケート調査を実施</li><li>・ 71 票配布、40 票回収の回収率 43.7%</li></ul>
---



## 5-4. 計画の進行管理

### (1) 取組みの期間

本計画における個々の取組みの期間は、以下に示すとおりです。

取組み	2021 年度 R 3	2022 年度 R 4	2023 年度 R 5	2024 年度 R 6	2025 年度 R 7
(1) 持続可能な地域公共交通等を確保・維持する					
①広域公共交通の維持【継続】	維持				
②町営バス北竜妹背牛線の運行【変更】	準備	町営バス北竜追分線		町営バス北竜妹背牛線	
③乗合タクシーの運行維持【継続】	現行の運行	本運行計画		運行改定	
④連絡施設間運行便の維持【継続】	現行の運行	本運行計画		運行改定	
⑤自家用車への相乗り交通の研究・検討	研究・検討				
⑥スクールバス一般利用【廃止検討】	現行の運行				2路線化等
⑦デマンド交通支援プログラムの維持・活用【継続】	修正・活用				
(2) 自家用車から公共交通への転換を促進する					
①高齢者運転免許証自主返納サポート事業の維持【継続】	維持				
②新規利用登録者の募集【継続】	募集				
(3) 地域公共交通への愛着を創出する					
①利用者登録者への意識調査実施【継続】	—	実施		—	
②愛称の募集・設定【新規】	募集		設定		
③利用案内パンフレットの作成【継続】	—	必要に応じて改定			

## (2) 計画の達成状況の評価

基本的な方針に基づき計画に位置づける取組みを進めていくにあたって、取組みの実施スケジュールに関するPDCAサイクルや、各取組みについてのPDCAサイクルを確実に実施し、北竜町地域公共交通活性化協議会において取組みの検証結果を共有化します。

具体的には、毎年度、計画の目標から定量的な目標を設定し、評価を実施するとともに、5年間の目標に対しての進捗状況を毎年度確認しながら、計画目標年度（令和7年度）には、計画全体の評価及び見直しを実施します。

ただし、令和3年度は準備期間となるため、数値目標に対する評価・検証は令和4年度から実施します。

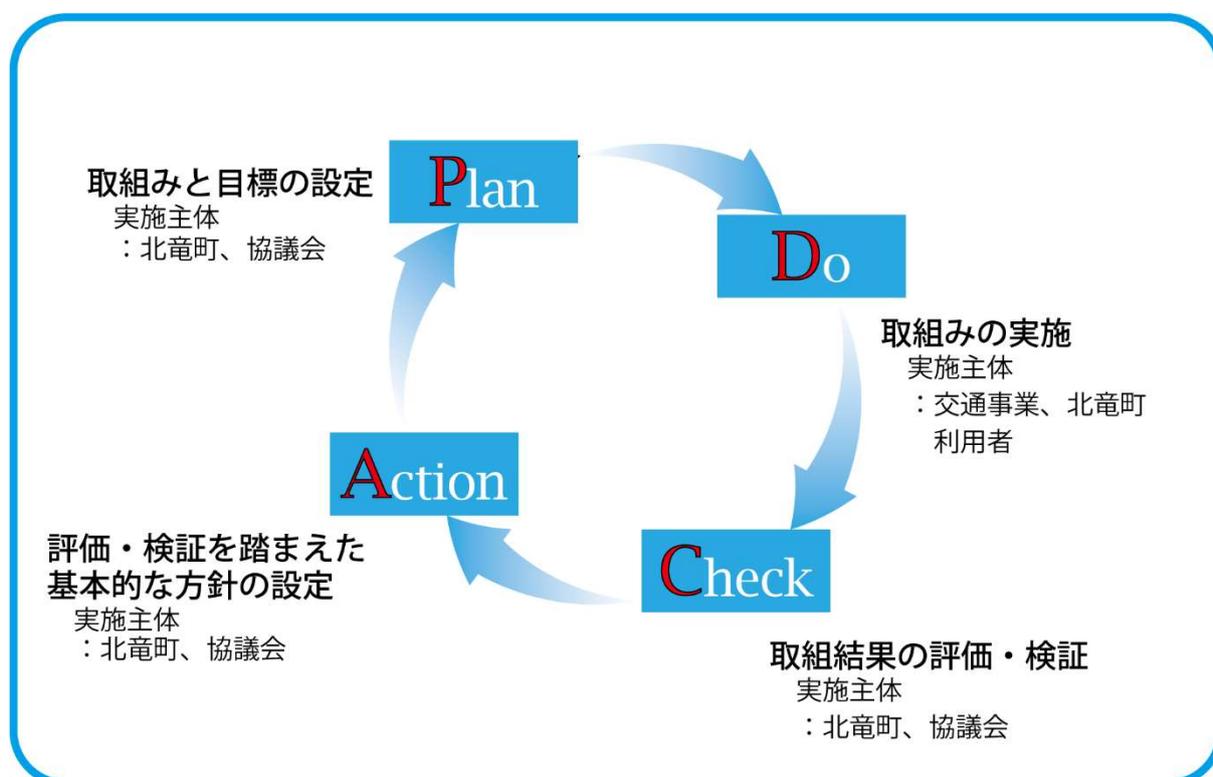


図 北竜町地域公共交通活性化協議会におけるPDCA

